

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 中部大学 |
| 設置者名 | 学校法人中部大学 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|--------|----------------|-----------|-----------------------|-------------|------|------------|-------------|------|
| | | | 全学 共通科目 | 学部等 共通科目 | 専門科目 | 合計 | | |
| 工学部 | 機械工学科 | 夜・通信 | 6 (8) | 12 (6) | 19 | 37 (33) | 13 | |
| | 都市建設工学科 | 夜・通信 | | | 2 | 20 (16) | | |
| | 建築学科 | 夜・通信 | | | 2 | 20 (16) | | |
| | 応用化学科 | 夜・通信 | | | 9 | 27 (23) | | |
| | 情報工学科 | 夜・通信 | | | 14 | 32 (28) | | |
| | ロボット理工学科 | 夜・通信 | 8 | 6 | 1 | 15 | | |
| | 電気電子システム工学科 | 夜・通信 | 6 (8) | 12 (6) | 4 | 22 (18) | | |
| | 宇宙航空理工学科 | 夜・通信 | 8 | 6 | 16 | 30 | | |
| 経営情報学部 | 経営総合学科 | 夜・通信 | 6 | 0 | 19 | 25 | 13 | |
| 国際関係学部 | 国際学科 | 夜・通信 | 6 | 0 | 14 | 20 | 13 | |
| 人文学部 | 日本語日本文化学科 | 夜・通信 | 6 | 6 | 2 | 14 | 13 | |
| | 英語英米文化学科 | 夜・通信 | | | 4 | 16 | | |
| | コミュニケーション学科 | 夜・通信 | | | 4 | 16 | | |
| | 心理学科 | 夜・通信 | | | 2 | 14 | | |
| | 歴史地理学科 | 夜・通信 | | | 2 | 14 | | |
| | メディア情報社会学科専門科目 | 夜・通信 | | | 4 | 16 | | |

| | | | | | | | | |
|---|--------------------------|------|---|----|----|----|----|--|
| 応用生物学部 | 応用生物化学科 | 夜・通信 | 6 | 0 | 10 | 16 | 13 | |
| | 環境生物科学科 | 夜・通信 | | | 12 | 18 | | |
| | 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻 | 夜・通信 | | | 9 | 15 | | |
| | 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻 | 夜・通信 | | | 22 | 28 | | |
| 生命健康科学部 | 生命医科学科 | 夜・通信 | 6 | 1 | 12 | 19 | 13 | |
| | 保健看護学科 | 夜・通信 | | | 80 | 87 | | |
| | 理学療法学科 | 夜・通信 | | | 7 | 14 | | |
| | 作業療法学科 | 夜・通信 | | | 6 | 13 | | |
| | 臨床工学科 | 夜・通信 | | | 6 | 13 | | |
| | スポーツ保健医療 学科 | 夜・通信 | | | 47 | 54 | | |
| 現代教育学部 | 幼児教育学科 | 夜・通信 | 6 | 2 | 6 | 14 | 13 | |
| | 現代教育学科 現代教育専攻 | 夜・通信 | | | 8 | 16 | | |
| | 現代教育学科 中等教育国語数学 専攻 | 夜・通信 | | | 6 | 14 | | |
| 理工学部 | 数理・物理サイエ ンス学科 | 夜・通信 | 6 | 12 | 10 | 28 | 13 | |
| | AI ロボティクス 学科 | 夜・通信 | | | 2 | 20 | | |
| | 宇宙航空学科 | 夜・通信 | | | 16 | 34 | | |
| (備考) | | | | | | | | |
| ・工学部 ロボット理工学科、宇宙航空理工学科は2023年度入学より募集停止中。 ・人文学部 コミュニケーション学科は2024年度入学より募集停止中。 ・授業科目の単位数について、教育課程変更を行ったため、入学年度によって単位数が異なる。()内の単位数は、2022年度以前入学者の単位数である。 ※募集停止中のロボット理工学科、宇宙航空理工学科は含まない。 ・理工学部は2023年度設置。専門科目の単位数は設置計画に基づき算入している。 ・人文学部メディア情報学科は2024年度設置。専門科目の単位数は設置計画に基づき算入している。 | | | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/syllabus.html |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 中部大学 |
| 設置者名 | 学校法人中部大学 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.chubu.jp/main/officer/>

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|---|--------------------------------|------------------------------|
| 非常勤 | (独) 国立高等専門学校 機構特別顧問 | 2021. 4. 1 ～ 2025. 3. 31 | 教学に関する指導・ 助言 |
| 非常勤 | アライアンス・フォーラ ム財団代表理事 デフタ・パートナーズグ ループ会長 | 2021. 4. 1 ～ 2025. 3. 31 | 管理運営に関する 指導・助言 |
| 非常勤 | アフラック生命保険(株) 取締役副会長 | 2023. 6. 7 ～ 2027. 6. 6 | 管理運営に関する 指導・助言 |
| 非常勤 | (学) 中部大学学事顧問 東京大学大学院特任教授 | 2023. 6. 7 ～ 2027. 6. 6 | 教学に関する指導・ 助言 |
| 非常勤 | (国研) 科学技術振興機 構顧問 (国研) 日本医療研究開 発機構先進的研究開発戦 略センター長 (大) 東京農工大学経営 協議会委員 | 2022. 6. 7 ～ 2026. 6. 6 | 管理運営に関する 指導・助言 |
| 非常勤 | (学) 中部大学学事顧問 東海大学副学長 (学) 香蘭女学校理事・評 議員 | 2023. 6. 7 ～ 2027. 6. 6 | 地域共創(大学間連 携)に関する指導・ 助言 |
| 非常勤 | 春日井市長 | 2023. 6. 7 ～ 2027. 6. 6 | 地域共創(地域活性 化)に関する指導・ 助言 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 中部大学 |
| 設置者名 | 学校法人中部大学 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|--|---|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 | |
| (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) | |
| <p>【全学部・学科共通】</p> <p>各科目担当者には、大学で定めたシラバス作成要領（刊行物）を配付し、この要領に基づいたシラバスの作成を依頼している。</p> <p>シラバスの作成は、本学の Web システムを使用して、教員が各自入力する。</p> <p>また、各担当者がシラバスを作成した後、各学部・学科において、第三者の教員によるシラバス内容の点検を実施している。要領で定めた内容と齟齬があった場合は、点検者からの指摘に応じて担当教員が修正を行っている。</p> <p>第三者による点検実施および担当教員による内容の修正完了後、新年度オリエンテーション実施日の1週間～10日前を目処にシラバスを公表している。</p> <p>(新年度オリエンテーション：3月下旬)</p> | |
| 授業計画書の公表方法 | https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/syllabus.html |
| 2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 | |
| (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) | |
| <p>【全学部・学科共通】</p> <p>各教員には、シラバス作成要領において、シラバスの“成績の評価方法”の項目に、どのような観点・方法により評価するかを示し、またその評価方法が全体（100％）に占める割合を明示している。</p> <p>(例：レポート等の提出物：50%、期末試験：50%など)</p> <p>また、シラバスの“成績の評価基準”の項目に、評価方法で示した観点・方法で測定した学修成果に対して、どのような基準で成績をつけるのかを明示している。</p> <p>また、シラバスの第三者点検を行い、シラバスに記載された評価方法が適正であるか各学部・学科において確認している。</p> | |

| | |
|---|---|
| <p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【全学部・学科共通】</p> <p>成績評価の客観的な指標として GPA を導入しており、大学 HP や学生に配付している学生便覧等の刊行物で、学生・学外へ公表している。</p> <p>GPA の算定方法は、成績評価ごとにポイントを設定し、以下の通り、平均点を算出している。</p> <p>[評価ごとのポイント]</p> <p>S：4ポイント、A：3ポイント、B：2ポイント、C：1ポイント、 E・I（不合格）：0ポイント</p> <p>[平均点算出方法]</p> $\{(4 \times S \text{ の取得単位数}) + (3 \times A \text{ の取得単位数}) + (2 \times B \text{ の取得単位数}) + (1 \times C \text{ の取得単位数})\} \div \text{総履修単位数}$ <p>なお、不合格となった科目を再度履修し、合格評価を得た場合や再度履修した結果、再び不可であった場合のそれぞれ再履修前の不可評価については GPA には算入していない。また、大学の定める期間内に履修の取消を行った科目については、その単位は GPA には算入していない。</p> <p>春・秋の各学期開始時に、前学期までの成績を反映した GPA（前学期の取得単位のみで算出した GPA および前学期までの総取得単位で算出した GPA の 2 通り）を上述の方法で算出している。</p> <p>また、学生に学内 Web システム上とオリエンテーションで配付する履修成績状況表で GPA を通知している。</p> | |
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/grade/ |

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

各学部・学科の「卒業の認定に関する方針」は、以下の通り。

【工学部】

方針概要

工学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、人類の福祉・幸福の向上に貢献する「あてになる技術者」として、以下に示した力を身につけたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

新しいものをつくり出す技術に関する知識・技能について、豊かな教養を身に付け、工学的思考を基に、学科専門に係わる問題について対応、解決できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

「あてになる技術者」として、思考力、判断力、表現力など専門性を活かした工学的思考を身に付け、地域社会、国際社会にリーダーとして貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

国際的な視野と価値観の多様性を理解でき、各学科の専門性をもつ技術者として、自立心、学び続ける能力、協調性・協働性、コミュニケーション力などを有し、課題解決に取り組むことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

はつらつとした姿勢で創意工夫を行い、誠意と勇気を持って決断し、速やかに実行に移すことができる。

【機械工学科】

方針概要

機械工学科の教育課程を修め、必修等の条件を満たした卒業要件単位を取得し、社会に貢献する技術者として、学科専門教育科目における機械工学の主要分野に関する基礎的知識と能力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

機械工学の基礎的な専門知識と技術を身に付けている。また、社会における工学の役割・使命・影響、機械工学分野の位置づけ、異分野との関係などを理解している。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

社会の問題について機械工学の視点から課題を見出し、工学的思考に基づいて機械技術者として論理的・客観的に判断できる。また、それらを的確に表現し伝えられる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

機械技術や社会に関する情報を継続的に収集しながら、地域や国際社会の中で課題を解決する方法を主体的に提案できる。またそれらを多様な人々と協調・協働して進められる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

信頼される機械技術者として高い倫理観と自立心を持ち、社会に貢献する正しい価値を追求して行動できる。

【都市建設工学科】

方針概要

計画、設計、施工、管理などの専門的かつ実務的な土木工学に関する知識と能力を修得し、デザイン能力を活用できる創造性豊かな土木技術者として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

(1) 社会の変化に柔軟に対応でき、社会からも信頼される、グローバルな視野を有する技術者として必要な知識、教養、多面的に物事を考える能力を身につけることができる。

(2) 工学一般に関する諸事項および原理を理解するために必要となる、土木工学に関連した基礎知識を修得することができる。

(3) 土木工学の多様な専門分野に関して、十分な知識を有することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 「社会のニーズに基づいて問題設定を行い、最大限の努力をもって自主的に問題解決にあたる」デザイン能力を身につけることができる。

(2) グループまたは個人の主張を相手に的確に伝達し、議論するために必要な国際性も視野に入れたコミュニケーション能力、ならびに情報技術などを用いてその成果を正確かつ分かり易い文書に取りまとめ、他者に報告することができる実務的能力を身につけることができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

土木工学分野において必要とされる専門知識ならびに数学・物理学などの基礎知識を応用することにより、多角的な視点から問題の意図を考察し、自ら問題を発見し解決する能力を身につけ、グループまたは個人で専門知識を駆使することにより積極的に課題に取り組むことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

継続的に学習する能力を身につけ、技術が及ぼす「自然」、「人工」および「生命」環境への影響について理解できる倫理観、ならびに社会貢献および人類への福祉貢献などに関する技術者としての使命感を持つことができる。

【建築学科】

方針概要

建築学科の課程を修め、建築計画・設計、構造、環境・設備、材料・生産、歴史、法規・防災といった建築学諸分野に関する知識と能力を修得した「あてになる建築技術者」として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

地球的視野を有し、地域的・歴史的・人間的に多様な価値観を理解し、現代の社会的正義や良識を踏まえた上で、建築学諸分野およびその横断的領域の理論、技法、問題点、原理、仕組み等を理解できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 建築に求められている内容を理解し、建築空間として構想し、構想された建築を正しく図面化しプレゼンテーションできる。

(2) 建築学諸分野の事象を一般化し数学的および論理的に理解でき、また、その情報の収集や問題の解決を秩序立てて行うことができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 建築学諸分野における専門性の高い、発展的な知識・技術を理解し、国際性、多様性を視野に入れ学び続けることができる。

(2) 自ら考え、まとめ、コミュニケーションできる能力を身に付け、チームの一員として責任と協調性を持って行動できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

社会から信頼される建築技術者として、自然や社会環境の変化を読み取り、すべての人が平和と豊かさを享受できる持続可能でよりよい社会の実現に向け、問題解決や新たな技術開発を行うことができる。

【応用化学科】

方針概要

幅広い教養と豊かな人間性を養うとともに、化学に関わる専門知識や技能を身につけ、これらを主体的に応用・実践できる思考力および実行力を兼ね備えた、持続発展可能な社会に貢献する化学技術者として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

基盤科学、先端材料、環境調和等を中心とした化学に関する専門知識、さらに化学技術者として必要な自然科学や工学に関する幅広い分野ならびにデータ処理や情報発信に必要な ICT 活用に関わる知識・技能を修得し、新たな発想を生み出すことができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 実験や研究で得られた成果、および収集した化学技術に関する情報を解釈し、自分の考えを論理的に説明し、議論することができる。

(2) 化学技術が人間社会や自然環境に及ぼす影響を理解することで持続発展可能な社会の実現に向けた新たな課題を自ら見出すとともに、その問題解決に様々な角度から自発的に取り組むことができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 化学技術に関わる諸問題について自律的かつ継続的に学び、化学技術者として社会の要請に柔軟に対応することができる。

(2) 専門分野にとどまらず人文・社会科学も含めた幅広い教養を養い、化学技術者として国際社会で様々な立場の人々とコミュニケーションをとり、協働して持続発展可能な社会に貢献することができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

修得した知識や技能を基礎として、化学技術者として持続発展可能な社会に貢献する意欲と実行力を備え、責任感と倫理観をもって主体的に行動できる。

【情報工学科】

方針概要

情報技術に関する専門知識の基礎と応用力、国際的な視野と教養、および語学力とコミュニケーション能力を身につけ、情報工学（情報通信、計算工学、メディア情報、知能情報）に関する幅広い知識と能力を修得した有能な情報技術者として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

情報技術者は「社会的に信頼性やセキュリティへの強い責任があること」、「高い倫理観が必要とされること」、および「様々な分野で情報技術が活用されること」を理解し、調査・情報収集力、課題設定力を獲得、情報技術を活用して具体的な問題に対処することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 数学や自然科学の素養を活用する情報技術者として、コミュニケーションスキル、表現（プレゼンテーション）スキル、討論スキルを 獲得し、国際社会に貢献することができる。

(2) 技術を総合的に活用できる技術者として、論理的思考力、傾聴スキル、計画立案スキルを 獲得し、課題の分析と具体化、システムの設計、実装とデバッグ、評価と改善を実行することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 自分自身の将来像（ビジョン）と目標（ゴール）に向かって自立した学習活動を行い、ビジョンとゴールに対して計画・実行・評価・改善を継続、成長し続けることで最新技術を問題解決に活用することができる。

(2) 国境を越えた地球規模の視野を持ち、世界における情報技術の動向・状況に目を向け、多種・多様なチームと協働することで、最先端の情報技術を適宜活用する能力を身につけ様々な問題に対処することができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) チームの目標達成や成長に向けて自己の責任・役割を理解し、メンバーと協働することで目標達成に貢献することができる。（メンバーシップ）

(2) チームの目標達成や成長に向けてメンバーの意識を高め、集団として成果を上げるためにチームを動かすことで目標達成に貢献することができる。（リーダーシップ）

【ロボット理工学科】

方針概要

ロボット理工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、システム設計、プログラミング、制御・信号処理、人工知能、生体医工学等のロボット工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身につけたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

ロボットがあらゆる分野に必要不可欠な存在であることを理解できる技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を身に付け、工学的見地から問題解決に対処できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

ロボット領域における知識・能力、技術を備えた技術者として、プレゼンテーション力、クリティカル思考力、自己理解力を獲得し、高い倫理観と使命感を有する社会人として、国際社会に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

ロボット理工学分野における知見を備えた技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を獲得し、様々な立場の人々と協働し問題解決できる。

【電気電子システム工学科】

方針概要

専門的・社会的要請に応じられる電気・電子分野の基礎的能力を養い、電気・電子工学の維持・発展に貢献できる技術者として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

人間社会や自然環境の多様な電気・電子工学に関連した課題を明らかにし、それらの課題を解決するための最善策を見出したり、プレゼンテーションを通じて表現して、実践・強化し続けることができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

現代社会に果たすべき役割と責任を理解できる電気電子システム技術者として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身につけ、リーダーとして地域社会に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 思い描いた将来像と目標に向かって、自律的な学習活動を行い、その振返りを通じて見直すことによって、成長し続けることができる。

(2) 国境を越えた地球環境の視野を持ち、他国の多様な現状に関して調査や情報収集を行うことで、電気・電子分野特有の問題に焦点を当てた取り組みや方法について理解できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) チームの目標達成や成長に向けて自己の責任役割を理解し、様々な立場のメンバーとコミュニケーションをとりながら協働して成長し続けることができる。

(2) チームの目標達成や成長に向けてメンバーの意識を高め、集団として成果を上げるためにチームを動かすことができる。

【宇宙航空理工学科】

方針概要

宇宙航空理工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、宇宙航空理工学の専門的知識・技術として航空宇宙機の設計・研究開発・製造技術・利活用などの宇宙航空理工学に関する知識と能力を修得するとともに、機械や電気・電子情報分野を横断した統合的な応用力を有する有能な技術者として、以下に示した力を身につけたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

航空宇宙機の設計・研究開発・製造に携わるものとして、宇宙航空理工学に必要な知識や教養、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得し、グローバルな社会でその能力を発揮・活躍できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

宇宙航空理工学分野に携わる技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力等の能力を活用し、プレゼンテーション力、クリティカル思考力を獲得し、問題解決のための類推、創造、発見ができ、リーダーシップを発揮できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

宇宙航空理工学分野における知見を備えた技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を獲得し、多様な人の立場を尊重し、チームワーク力を発揮して協働で物事に対処できる。

【経営情報学部】

方針概要

経営情報学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、経営学と情報科学の基礎・基盤的な素養と専門的知識を身につけたビジネス社会で活躍できる多彩な人材として、以下に示した力を身につけたものに対し、学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

経営情報学部で学ぶ経営・情報・会計・経済・法律の 5 分野の知識・技能を修得し、変化の激しい現代のグローバル経済社会への対応能力を獲得することで、多様な進展が求められる企業など様々な組織の発展に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

経営情報学部で学ぶ専門的知識・技能の学修を通じて、ビジネスの場で求められる実践的能力を獲得するとともに、幅広い教養や他分野の専門的知識の学びを通じて複眼的視野や俯瞰力を獲得し、キーパーソンとして組織を主導し、社会の発展に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

経済や社会への関心を深め、自ら進んで新しい知識・技能を学び続けるとともに、多様な人の立場を尊重して協働しながら主体性を持って物事に対処することができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

アクティブラーニングなどを通じて獲得したチームワークを発揮させつつ、経営情報学部で学ぶ専門的知識に裏付けられた思考力、課題設定・解決力などを活用して新しい価値や考えを創造し、経済社会に貢献できる。

【経営総合学科】

方針概要

企業経営と情報技術に関する基礎・基盤的な素養の上に経営・情報・会計・経済・法律の5分野についての専門的知識を修得することで、俯瞰的・総合的視野を持ち、協調性や実行力を備え、専門職業人／有識社会人として社会の要請に応えることができる力を身につけた者に対して学位を需要する。

① 社会で必要とされる知識・技能

グローバル化、デジタル化など変化の激しい時代にあって、社会で活躍するビジネスパーソンとして必須となる経営情報分野の知識を修得し、会計や情報分野のスキルを身につけることで、多様な進展が求められる企業を始めとした様々な組織の発展に貢献することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

幅広い教養や分野を越えた専門的知識を学ぶことで複眼的視野や俯瞰力を獲得するとともに、経営情報分野の学修を通じて、ICTを活用しながら調査・情報収集を行い、課題を設定する能力を獲得できる実践的能力を身につけることで、仕事に必要とされる企画の作成や、プレゼンテーション、クリティカルな思考を行い、キーパーソンとして組織・社会で活躍できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

経済や社会に関心を持ち、自ら進んで新しい知識・技能を身につけようとする意欲や態度を育むとともに、グローバル社会での異質性や多様性を尊重しながら多様な人々と協調して社会や組織の課題解決に取り組む能力を養うことで、人生100年時代を生き抜き、多様な人の立場を尊重してオープンかつフェアな態度で協働できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

チームで協同する力、コミュニケーション能力、リーダーシップを身につけるとともに、経営情報分野の専門的知識に裏付けられた課題設定力・解決力を発揮することで、組織・社会の中で協調性と責任感を持って行動し、新しい価値や考えを創造することができる。

【国際関係学部】

方針概要

国際関係学部の課程を修め、必修等の条件を満たした124単位を修得し、国際化する社会の様々な現場で活躍できる、あてになる心豊かな国際人として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

世界の人々の生活・文化や社会・制度などに偏見なく向き合い理解できる豊かな教養、専門的な知識、活きた語学力を獲得し、絶えず変化を続ける国際社会において生起する多様な問題に対処することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

国際社会における多様な文化や制度に関して学んだ知識を、教員や学生との意見交換や討論に運用することができる。また国際的な視野そして思考力を、自らが直面する諸問題を正確に分析し解決するために活用することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

異なる言語や文化的背景を持つ他者と自己との比較により客観的にものごとを判断することができる。また多様な価値観を尊重しながら主体性を持って学び続ける

ことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

国際的な視野を持ち、多様な価値観を尊重して、状況に応じて適切に判断できる思考力と、あてになる心豊かな国際人として行動できる実行力を備え、学びの重要性和楽しさを知る教養人としての姿勢を保ち続けることができる。

【国際学科】

方針概要

国際化する社会の様々な現場で活躍できる、あてになる心豊かな国際人として、次の能力を身につけた者に学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

世界の人々の生活・文化や社会・制度などに偏見なく向き合い理解できる豊かな教養、専門的な知識、活きた語学力を獲得し、絶えず変化を続ける国際社会において生起する多様な問題に対処することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

国際社会における多様な文化や制度に関して学んだ知識を、教員や学生との意見交換や討論に運用することができる。また国際的な視野そして思考力を、自らが直面する諸問題を正確に分析し解決するために活用することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

異なる言語や文化的背景を持つ他者と自己との比較により客観的にものごとを判断することができる。また多様な価値観を尊重しながら主体性を持って学び続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

国際的な視野を持ち、多様な価値観を尊重して、状況に応じて適切に判断できる思考力と、あてになる心豊かな国際人として行動できる実行力を備え、学びの重要性和楽しさを知る教養人としての姿勢を保ち続けることができる。

【人文学部】

方針概要

人文学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、人間や文化を探究する自発性や創造性、豊かな教養をもった品位ある人格の形成を目指し、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

社会人として身の周りの人間や文化を知るために、自立し学び続ける姿勢を身につけることで、社会で必要とされる人文学の専門的知識・技能と豊かな教養を有することができる。知識を分析、整理、統合する技能を駆使できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

人間や文化についての知識・技能を活用するために思考力を向上させ、物事を的確に判断することができ、かつ、その内容を正確に表現でき、かつ実行することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

人文学の素養を備えた社会人として人間や文化を客観視するために自己を理解し対話する能力を身につけ、主体性と公益心をもって多様な人々と協働し、学び続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

国際的視野をもったたくましい社会人として広く人間や文化について調査・情報収集する力を身につけることで、幅広い関心をもつことができ、自立的な課題設定力をもつことで、その課題を探究しようとする意欲をもち、かつ実行することができる。

【日本語日本文化学科】

方針概要

世界の中の日本という視点から、日本語や日本文学、日本文化を深く理解し、国際社会の中でのそれらの意義を探究するための読解力、思考力、表現力を修得した有識社会人として、次の力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

(1) 他者から学ぶ傾聴・受信力をもち、自律的学習活動を実践するとともに、日本語・日本文学・日本文化に関する豊かな教養を身につけることにより、知性と感性をもって物事を判断をすることができる。

(2) ICT を活用し、日本語・日本文学・日本文化に関する専門的知識に基づいた分析ができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 日本語・日本文学・日本文化に関する専門的知識を活用するための思考力を高め、客観的、論理的に物事を判断することができる。

(2) 国内外における日本事情に関する情報の真偽を判断し、自ら積極的に情報を発信することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

様々な視点から日本語・日本文学・日本文化に関する価値観を理解し、社会における諸問題の解決、改善に貢献できるように、多様な人々と協働し、学び続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

日本語・日本文学・日本文化に関する専門的な学識を身につけた者としての自覚をもち、様々な問題に真摯に向きあい、社会的責任を果たすことができる。

【英語英米文化学科】

方針概要

実践的な英語運用能力と英語圏の文化に対する深い知識を備え、国際的・地域的な視野から物事を論理的に考察する能力を実践し、地球規模で活躍できる「たくましい国際人」としての力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

幅広い教養と国際的な視野に立脚し、お互いの言語や文化を尊重する多文化共生社会において、自らの高度な英語運用能力や文化間コミュニケーション能力を積極的に活用できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

人々や社会におけるさまざまな課題を明確にし、解決するための課題設定力・解決力を身につけ、物事を論理的・批判的に捉え、日本語や英語で議論し、自らの言葉で発信することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自律した学習活動を継続して行い、多様な価値観を尊重しながらも、自らの基軸をもって主体的に行動し、国際社会・多文化共生社会で活躍し、省察することで成長し続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

国際的な視野と実行力を備えた信頼される「たくましい国際人」として、さまざまな社会的活動に参画し、チームの目標を達成するため、チームを動かしメンバーと協働することができる。

【コミュニケーション学科】

方針概要

コミュニケーション学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得

し、優れたコミュニケーション・デザインやコミュニティ・デザインなどで社会の文化情報環境の向上に寄与できる「文化情報デザイナー」として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

他者から学ぶ傾聴・受信力でコミュニケーション・デザイン、コミュニティ・デザインの基礎的知識を身に付け、ICT 活用力でメディア情報やメディア文化を分析するための諸アプローチの技能を駆使することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

高い企画・計画力とクリティカル思考力で情報の価値や真偽を調査して判断でき、情報を的確に表現するコミュニケーション力、プレゼンテーション力をもって責任ある情報発信を行うことができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自己理解力とディスカッション力をもって他者と協働して学ぶことができ、情報格差の少ない社会を実現するコミュニケーション・デザイン、コミュニティ・デザインで社会に貢献する姿勢をもつことができる。

④ 広い関心・自律的意欲

高い調査・情報収集力をもってグローバルな視点から様々な情報に幅広く関心を抱き、課題設定力を駆使して文化情報環境に関する課題を深く探求し、解決しようとする自律的意欲をもつことができる。

【心理学科】

方針概要

心理学に基づいた問題解決が可能となるような専門知識・技法を修得し、それを社会で活用していくための応用力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

社会で役立つ心理学の知識を備え、専門的知識・技能を駆使して課題を発見し、情報処理能力によって問題を分析することで、適切な解決法を模索し、地域に貢献することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

思考力、企画・計画する能力、コミュニケーション能力、実行力を獲得し、説得力をもって現代社会における心理学的な課題への解決法を提案できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

心の時代と言われる現代社会における多様な人の立場を理解し、国内外の知見や動向に視野を広げ、周囲の人々と関わる協調性・協働性を発揮して、課題に対処して社会に貢献する姿勢をもつことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

傾聴し受信する能力を獲得し、家庭・学校・職場・地域における課題に積極的な関心に向け、人々の幸福と安定の維持・増進に向けて、直接間接の支援をするための意欲をもって行動することができる。

【歴史地理学科】

方針概要

人間や文化を探究する自発性や創造性、豊かな教養をもった品位ある人格をもち、あらゆる事象や問題を歴史的経緯と地理的視野をあわせて総合的に考察し、現代を生きぬくために必要な深い洞察力と見識を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

他者から学ぶ柔軟な傾聴・受信力をもって、歴史的経緯と地理的視野から、日本や世界の現在および過去の様々な事象や問題についての専門的な知識を身につけ、多様な考え方があることの有用性を社会に示すとともに、ICTを活用してその知識

や考え方を分断、整理、統合する技術を駆使することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

日本や世界の現在および過去の様々な事象や問題について、歴史的経緯と地理的視野から、固定観念にとらわれず幅広く柔軟に考える姿勢や調査・分析する思考力・判断力を身につけ、高い表現力をもってその成果を社会に提供することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 歴史的経緯と地理的視野から、現在および過去の様々な事象や問題を客観的に把握し、深く自己を理解しつつ、適切なディスカッションを通じて他者と協働し、社会に貢献する姿勢をもつことができる。

(2) 各地域の現在および過去のあらゆる事象に広く関心を持ち、歴史的経緯や地理的視野に即して自ら探究できる課題を設定し、調査・情報収集する能力を身につけ、その課題を解決するための意欲を継続的にもつことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

各地域の現在および過去のあらゆる事象に広く関心を持ち、歴史的経緯や地理的視野に即して、自ら探究し、現代社会の様々な課題の解決・改善に向けて実行することができる。

【メディア情報社会学科】

方針概要

情報が溢れかえる現代社会にあって、地域社会にとって次代に残す価値のあるメディア情報（＝知＝コンテンツ）を判断する視点を養い、収集・記録、デジタル化・蓄積、データサイエンス等により新たな意味や価値を付与した上で、受信者に適切な形で提供・発信する能力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

豊かな教養をベースに、情報を取捨選択するキュレーションスキルや魅力的な情報提供のためのクリエーションセンスを伴う専門的知識を身につけ、メディア情報や情報社会を分析するための諸アプローチの技術を駆使することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

高い企画・実行力と批判的に思考する能力で次世代に残すべき地域社会のメディア情報の価値を調査に基づき判断し、また情報を的確に表現する能力をもって責任ある情報発信を行うことができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自立し学び続ける能力をもって多様な他者とコミュニケーションをとり議論を通して協働することができ、優れたキュレーションスキルやクリエーションセンスをもとに、次世代に残すべき地域社会のメディア情報の蓄積と提供で社会に貢献する姿勢を持続的に持つことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

高い調査・情報収集力をもってグローバルな視点から様々なメディア情報に幅広く関心を抱き、高い課題設定力にもとづきメディア情報社会に関する課題を深く探究し、解決しようとする自律的意欲をもつことができる。

【応用生物学部】

方針概要

応用生物学部の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と応用生物学に関する専門知識・技能を修得し、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

「生命」「環境」「資源」「食」のエキスパートとして活躍するために社会で必要とされる知識・技能、調査・情報収集力、課題設定能力を修得し、SDG s の実現に貢献で

きる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

「生命」「環境」「資源」「食」のエキスパートとして、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

応用生物学の知識や技能に基づいたコミュニケーション能力を活用し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度を身につけ、持続可能な社会の実現に貢献できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) チームの目標達成や成長に向けて自己の責任役割を理解し、メンバーと協働することができる。(メンバーシップ)

(2) チームの目標達成や成長に向けてメンバーの意識を高め、集団として成果を上げるためにチームを動かす。(リーダーシップ)

【応用生物化学科】

方針概要

応用生物化学科の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、「遺伝子と生物機能」に関する基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、そして自ら学び続ける能力を身に付けた、専門職業人・有識社会人として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

「遺伝子と生物機能」を理解する基盤となる自然科学の知識と技術を身に付けるとともに、専門職業人・有識社会人として必要な情報調査収集力、課題設定力、情報通信技術の活用能力等々の知識・技能を身に付け、様々な分野で活用できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 「遺伝子と生物機能」を活用する専門職業人・有識社会人として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。

(2) 「遺伝子と生物機能」に関連する食料、環境、生命、健康およびエネルギーなどの分野での問題点を抽出・分析し、グローバルな視点で解決する能力を身につけている。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

「遺伝子と生物機能」を活用する専門職業人・有識社会人として、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

④ あてになる人間として実行する姿勢

「遺伝子と生物機能」に関する知識と技術に基づいて、社会における課題を認識し、チームでそれらを解決できる。さらにその目標を達成するために、自己の責任と役割を理解し、メンバーと協調して行動することができる。

【環境生物科学科】

方針概要

「環境生物」に関連する高度な専門知識、技術、スキルと、それらを実社会で活用する能力、さらに自ら学び続ける能力を有した専門職業人・有識社会人として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

「環境生物学」を理解する基盤となる自然科学の知識と技術を身につけるとともに、専門職業人・有識社会人として活躍するために要求される知識・技能、スキル、調査・情報収集力、課題設定力を修得し、生物多様性を担保した持続可能な社会の実現に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

生物多様性を担保した持続可能な社会の実現に向けて、論理的・客観的に多様な角度から検討できる思考力・判断力・表現力等の能力を修得したリーダーとしてグローバルに貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

「環境生物学」に関わる知識・技能を活用できる専門職業人・有識社会人として、多様な人間と協働で問題解決できる知識・技能・行動力を有する。生涯を通じて、自立した学習により生物多様性を担保した持続可能な社会の実現に貢献できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

グローバルな視点から、生物多様性を担保した持続可能な社会の実現のための問題抽出、解決策を立案できる。多様な主体（行政、企業、民間団体等）と協働して取り組むことができる。

【食品栄養科学科 食品栄養科学専攻】

方針概要

グローバルで高い教養を身に付け、「食」と「栄養」に関する高度な専門知識・技能と情報収集能力を備え、自律的に学び、「食」に関わる多様な課題の発見と解決を実践できる力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

「食のプロフェッショナル」として豊かな教養と必要な専門知識・技能を修得し、食を通してすべての人が豊かさを享受できる社会の実現に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 「食」に関わる課題の発見とその解決のために自ら考え、行動できる。

(2) 国際的な視点で食に関わる研究や成果を俯瞰し、多くの情報を精査しながら正しい情報を発信できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

個人や社会の多様性を理解すると同時に自らの目標と信念を持って、「食」の生産・製造から品質、栄養・機能まで目まぐるしく変化する「食」の諸問題の解決のために必要な知識を学び続け、多様な人と協働でき、柔軟に対応する能力を身につける。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) 「食」に関わる情報を収集し、自己の役割を認識しながら的確に諸課題に対処できる。

(2) 目標設定と計画の実行のためにリーダーシップをとって行動することができる。

【食品栄養科学科 管理栄養科学専攻】

方針概要

生命の尊厳を尊重し、栄養管理を通して人々の健康で幸福な生活の営みに貢献できる幅広い栄養の専門知識と技術を修得した資質に優れた管理栄養士に値する以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

栄養管理を通じた人々の健康維持・増進や疾病予防・改善のために管理栄養士の専門職として必要な知識・技術や調査・情報収集能力を修得し、科学的根拠に基づいた栄養指導で社会に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 人々の多様化する健康問題に対し、栄養管理の計画を立案し、その実践に向けての思考力と判断力を身につけ、一人ひとりの健康保持・増進に寄与することができる。

(2) 食と健康に関する研究成果を評価する方法を身につけ、常に新しい知見を習得

し学び続けることができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 栄養管理を必要とする人々に関わる関係者の役割を理解し、そのリーダーである管理栄養士として協働することで、より健康な生活の実現に貢献できる。

(2) 国際的な視野に立ち、様々な食文化について学び続け、国内外の多様化する栄養問題の改善に貢献できる

④ あてになる人間として実行する姿勢

食を提供するチームにおける栄養管理のリーダーとしての自覚を持ち、人々の健康保持・増進や疾病予防・改善のため、他職種のメンバーと協調し協働することにより、その問題解決に貢献できる。

【生命健康科学部】

方針概要

生命健康科学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位、ただし保健看護学科については 124 単位を修得し、各学科独自の教育理念を身につけチーム医療に貢献できる専門性を備えた人材として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

各学科独自の教育目標から、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力など社会人として必要な豊かな教養を獲得し、そのうえで各学科の専門的知識・技能を修得することにより、広い視野を持った医療専門職として活躍できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

各学科独自の教育目標から、プレゼンテーション、企画・計画、クリティカルシンキングができる専門的知識・技能や思考力を身につけ、専門職業人のリーダーとして職域あるいは地域社会に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

各学科独自の教育目標から、学修の中で獲得したコミュニケーション能力、ディスカッション能力、傾聴・受容能力、自己探求能力を活用しながら、つねに学び続ける能力を有する国際的視野を持った専門職業人として人々の多様性を尊重し、多職種間、関係者間の協調性・協働性をもって自立して物事の対処ができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

各学科独自の教育目標から、専門的知識・技能、思考力、国際的な視野をもって社会的な保健医療福祉ニーズの把握と対処ができ、専門職業人として、生活に密着しながら地域の人々に信頼される実行力のある人材として社会に貢献できる。

【生命医科学科】

方針概要

人間の尊厳に基づいた心豊かな人間性を形成し、専門的・社会的要請に応じられる生命科学の基礎能力を養い、創造性豊かな資質を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、時代に即した疾病構造を把握し、その病態解明や予防・治療のために生命医科学の基礎知識を説明できる。豊かな人間性と習得した生命医科学を基盤として、健康予防の重要性を正しく伝えることができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身につけ生命医科学の知識やその技術の背景を説明することができ、その知識や技術を応用できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

- (1) 生命医科学の知識を基礎に、人々の健康志向に応えることができる。
- (2) 生命医科学の知識を基礎に、迅速で正しい検査に熱意を示し、健康長寿、疾病の早期診断・治療に寄与できる。
- (3) 生命医科学の知識を基礎に、意欲的に医療バイオと創薬の分野に寄与できる。
- (4) 生命医科学の知識を基礎に、医用工学分野の発展に寄与できる。
- ④ あてになる人間として実行する姿勢
 - (1) チームの目標達成や成長に向けて自己の責任役割を理解し、メンバーと協働することができる（メンバーシップ）。
 - (2) チームの目標達成や成長に向けてメンバーの意識を高め、集団として成果を上げるためにチームを動かすことができる（リーダーシップ）。

【保健看護学科】

方針概要

ヘルスプロモーションの理念に基づく支援ができる高度な専門性を備えた看護師・保健師および養護教諭として、以下に示す能力・資質などを身につけたものに対し学位を授与する。

- ① 社会で必要とされる知識・技能
 - (1) 対象に応じた適切な看護技術を提供できる能力
 - (2) 援助的人間関係を形成できる能力
 - (3) 看護の自律性を高めるためのマネジメント力
- ② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
 - (1) 看護専門職者としてのアイデンティティを形成し、対象の意志決定の支援と権利の擁護ができる倫理的判断力
 - (2) 科学的根拠を基盤とした看護が展開できる能力
 - (3) 地域社会で看護専門職者として貢献できるリーダーシップ力
- ③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
 - (1) 保健・医療・福祉チームの中で、多様な価値観や立場の人を尊重しながら多職種と協働できる能力
 - (2) グローバルな視点からも健康課題を幅広く捉えようとする姿勢
 - (3) 課題を解決するための研究的思考ができる能力
 - (4) 主体性をもって健康課題を解決しようとする意欲
- ④ あてになる人間として実行する姿勢

社会で必要とされる看護専門職者になるために、不断の努力と行動ができる。

【理学療法学科】

方針概要

専門性と社会性を兼ね備えた人間力豊かな専門職業人の理学療法士をめざすものとして、理学療法学科の課程を修め、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

- ① 社会で必要とされる知識・技能

理学療法士として現代の疾病・障がいに対応できる専門的かつ最新の知識・技術を活用できる。同時に医療・介護・保健の専門家としてのみならず、基本的態度と地域から国際にいたる広い視点からの幅広い教養も身につけ、社会・組織の中で円滑に活動できる。
- ② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
 - (1) 疾病・障がい、それらに伴う心身機能低下に関する基本的知識をもとに問題点を推論できる。そして科学的根拠に基づいた専門的知識・技能をもって理学療法を実施できる。
 - (2) チーム医療の中で得られる情報から問題点を総合的に判断し、自身の考えを患

者やチーム内で説明でき、実際に行動に移すことができる。その際、ICT 能力も駆使して様々なデータを有効活用できる。

(3) 患者やその家族の尊厳を尊重し、医療者として適切な表現により医療側の方針に関する理解を得ることができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 専門職業人としての自覚を持ち、常に疑問点を解決する力、根拠に基づく新しい知識・技術を身につける努力を主体的に継続できる。

(2) 保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解し、他職種との協働精神をもって患者及びその家族、関係者に向き合うことができる。また、関係者との会話・討論を通してチームの方向性を示すリーダー的役割を担うことができる。

(3) 健康増進・予防の場においては、対象者の声を傾聴し多様な価値観も共感して、身体的・心理的・社会的な支えとなることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) 総合大学の利点を生かした幅広い視野からの教養と専門知識を学ぶ学習習慣を継続し、社会的な医療ニーズに対応できる専門職業人として自らを高めることができる。

(2) 思いやりや基本的な礼儀・マナーを備え、「主体的に行動できる力」「疑問を持ち論理的に考える力」「多様な人々と良好なコミュニケーションを取り協働できる力」を備えた社会性を持ち続けることができる。

【作業療法学科】

方針概要

作業療法学科の課程を修め、必修等の条件を満たした単位を修得し、作業療法士に必要な専門知識・技術と豊かな人間性をもつ有識社会人として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

総合大学の利点である多様な教養教育科目より豊かな人間性を養い、経験豊富な医学系教員による医療職に必要な基礎力を身につけることで、医療技術の進歩や社会構造の変化の中で活躍できる作業療法士を目指すことができる。また、現役作業療法士でもある臨床力の高い専門教員より学ぶことで、専門的知識・技術を学び続ける力と実行力を獲得し、医療・保健・福祉の分野から社会に貢献することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

学んだ基礎医学系および社会福祉系の知識と作業療法の専門性の高い授業や多様で豊富な臨床実習施設における臨床教育を通して、医療・保健・福祉の実践家としての臨床能力と実行力を身に付けることができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 対象者参加型の学内実習や地域連携による地域に根差した教育体制を通して、リハビリテーションを担う専門職の一員として、多様な人々と協調し、協働する力を身につけ、活かすことができる。

(2) 国内外の学会や研究会における所属教員の活動で得られた情報や知識を担当授業や学生指導に還元することにより、学生は国内外の最新の情報を学ぶ機会が得られ、学ぶ楽しさや学び続ける意義を理解することができ、現状の問題に対して前向きに対処することができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) 対象者や他職種の立場を尊重し、生活に一番近い医療専門職として物事に対処できる。

(2) リーダーシップを発揮して地域社会に貢献することができる。

【臨床工学科】

方針概要

専門職業人の臨床工学技士をめざすものとして、臨床工学科の課程を修め、医療機器の安全性・有効性の確保、医療技術の発展、チーム医療に貢献できる、以下の力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

(1) 臨床工学技士に必要とされる、医学・工学・医用工学の知識や技能を修得し、専門職業人としてさまざまな場面で活躍できる。

(2) 医療人として必要とされる幅広い教養と豊かな感性を持ち、人間への深い洞察力、倫理観、生命の尊厳について深く認識する力を修得し、臨床工学の分野から社会に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 患者やチーム医療のスタッフから得られる多くの情報を関連付けて考察し、総合的に問題点を判断できる。

(2) 臨床工学に関する知識や技術の背景を説明することができ、その知識や技術を医療人として応用できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) チーム医療のスタッフ、患者やその家族と十分なコミュニケーション力を発揮し、チーム医療の一員としての役割を果たすことができる。

(2) 修得した臨床工学体系を基礎として、臨床工学の役割を正しく語ることができる。

(3) 常に向上心を忘れず、国内外で発展する医療機器とその技術を学び続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

すべての人に誠意を持って誠実に行動し、健康な社会と全人的医療に貢献できる。

【スポーツ保健医療学科】

方針概要

国民の生活の質（QOL）の向上に役立つ健康運動・スポーツの指導者、および救急救命士をめざすものとして、スポーツ保健医療学科の課程を修め、以下に示した力を身に付けた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

グローバルな視点から健康課題を幅広くとらえ、健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、実践を通して調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、健康社会の実現に貢献できる

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

学んだ基礎医学系および社会福祉系の知識と専門性の高い授業に加え、実践（グループワーク）を通してプレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として健康寿命延伸に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

実践を通して身につけたコミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、国民の生活の質（QOL）の向上に役立つ知識・能力を活かすことができる。さらに、健康寿命の延伸に寄与できる有識社会人として地域社会、および健康社会の実現に貢献できる。

【現代教育学部】

方針概要

現代教育学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、未来を担う子どもたちを託せる教育実践力と人間性を備えた保育者・教育者として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

グローバル化・流動化する社会の変化に対応できる豊かな教養と、教育・保育に関する専門的な知識・技能を併せもち、直面する課題を明確化する調査・分析能力に裏打ちされた課題解決型の思考力を身につける。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

教育・保育それぞれの領域で必要とされる専門的な知識・技能を自分自身のライフステージに応じて探求し吸収する力を高めると同時に、多様な人々と協働してより良い社会を構築するために必要な思考力や協調性、並びに表現力を高める。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自己と他者の相互理解を基盤とした協調性・協働性を高めるために、コミュニケーション能力およびカウンセリングマインドを身につけ、支え合い学び続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

教育・保育にかかわる諸活動は、次の時代を形成する重要な活動であるという自覚をもち、新時代を果敢に切り開く創造的な行動力を不断に高め続けることにより、協働する者から信頼を獲得することができる。

【幼児教育学科】

方針概要

変化する社会や世界の状況に目を向け、乳幼児の成長発達、保育・幼児教育のありかたについての理論と技能を身に付けた専門職業人となるべく、次に示す基礎的な能力・資質などを身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

異文化などを理解し、広い視野で社会をとらえる教養を基盤として、必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力、修得した知識・技能をもとに、物事を観察・思考し、課題を設定する力を獲得し、乳幼児の成長発達、保育・幼児教育について、そのあり方を深く考え、創造的で質の高い実践を行うことができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

課題解決についての見通しを持ち、指導計画を立てる力、物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力、ICT 利活用力やプレゼンテーション力を身に付け、保育機関・家庭や地域・社会が求める多様な保育・幼児教育実践と支援に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

他者の気持ちや感情をくみ取り、意思疎通ができる力、テーマに沿って円滑に議論を進める力、他者の考えを正確に受けとめる力、自己理解力を活用し、保育・幼児教育のありかたについて、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

急速に変化する現代社会の中で、次世代を育成し、保護者や地域住民の支援をしていくための専門的知識や技能、倫理観を身につけ、他者と協調・協働して、保育・幼児教育現場で複雑化・多様化している課題の解決や地域・社会の発展に向けて、それら資質・能力を生かしていくことができる。

【現代教育学科 現代教育専攻】

方針概要

児童の成長発達、教育、支援について学際的に教育研究を行い、国際的な視野や多様な価値観をもち「次世代を担う子供たちへの教育」のあり方についての理論と技能を修得し、社会が求める多様な教育実践と教育支援活動を積極的に推進する力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

次の三つの力を獲得し、児童の成長発達、教育について学修することができる。

(1) 必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力

(2) 修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力

(3) ICT活用力

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 課題解決についての見通しを持ち、企画する力、国際的な視野で物事を広く客観的に観察・思考し、結論を導くことができる。

(2) 学校や家庭、地域社会が求める多様な教育と児童の発達段階に応じた支援に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

次の二つの力を活用し、国際的な動向を踏まえ「次世代を担う子供たちへの教育」のあり方について、多様な人間の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

(1) テーマに沿って円滑に議論を進める力

(2) 他者の考えを正確に受け止める力

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) 児童の成長発達のために、家庭や地域社会の要請に応じ、自己の責任や役割を自覚し、力を尽くすことができる。

(2) 組織の一員として、協調して成果に貢献することができる。

【現代教育学科 中等教育国語数学専攻】

方針概要

生徒の成長発達、教育、支援について学際的に教育研究を行い、国際的な視野や多様な価値観をもち「次世代を担う子供たちへの教育」のあり方についての理論と技能を修得し、社会が求める多様な教育実践と教育支援活動を積極的に推進する力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

次の三つの力を獲得し、生徒の成長発達、教育について学修することができる。

(1) 必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力

(2) 修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力

(3) ICT活用力

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 高い教科指導力をもとに課題解決についての見通しを持ち、企画する力、国際的な視野で物事を広く客観的に観察・思考し、結論を導くことができる。

(2) 学校や家庭、地域社会が求める多様な教育と支援に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

次の二つの力を活用し、国際的な動向を踏まえ「次世代を担う子供たちへの教育」のあり方について、多様な人間の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

(1) テーマに沿って円滑に議論を進める力

(2) 他者の考えを正確に受け止める力

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) 生徒の成長発達のために、家庭や地域社会の要請に応じ、自己の責任や役割を自覚し、力を尽くすことができる。

(2) 組織の一員として、協調して成果に貢献することができる。

【理工学部】

方針概要

各学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、理工学に関する知識と技能を修得した有能な科学技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

①社会で必要とされる知識・技能

科学技術の根幹をなす数学や自然科学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養、各学科における専門の知識や技能を修得している。

②知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

幅広い教養と各学科の専門知識と技能に基づき、現在から将来の社会における科学技術的課題を発見し、関連情報の収集、道徳的、論理的な思考を通して、問題を解決し、それを表現できる能力を修得している。

③主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

勤勉で、責任感があり、自己や他者を理解、尊敬し、話し合い、社会に貢献することができる。

【数理・物理サイエンス学科】

方針概要

数理・物理サイエンス学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、数学および情報科学などのその応用分野を含む数理科学、物理学および物質科学、宇宙・地球科学などのその応用分野を含む物理科学に関する知識と能力を修得した有能な科学技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

①社会で必要とされる知識・技能

科学技術の根幹をなす数学や自然科学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養、数理科学と物理科学の専門的な知識と技術を修得し、自由な発想力と実践力で科学技術の発展とイノベーションを担うことができる。

②知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

幅広い教養と数理科学・物理科学の専門知識と技能に基づき、現在から将来の社会における科学技術的課題を発見し、関連情報の収集、道徳的、論理的思考力、物事の本質を見抜く洞察力と分析力、判断力、表現力を通して、課題を解決できる。

③主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自律的に学び、考えることができ、責任感があり、自己や他者を理解し、尊敬し、話し合い、協働することで、社会に貢献できる。

【AI ロボティクス学科】

方針概要

AI ロボティクス学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、人工知能に関する知識と技能、および工学設計、プログラミング、制御・信号処理等のロボット工学に関する知識と技能を修得した有能な科学技術者として、以下に示す力を身に付けたものに対し学位を授与する。

①社会で必要とされる知識・技能

人工知能とロボット工学に関する高度な知識と技術に加えて、数学や自然科学などの理学に関する基本的な知識、人文・社会系学問領域を含む幅広い教養を修得している。

②知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

社会における課題を発見し、幅広い教養と学科専門分野に関する知識と技術に基づき、必要な調査と関連情報の収集、論理的な思考を通して問題を解決する能力、必

要な事柄を他者に向けて適切に表現できる能力を身に付けている。

③主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

技術者として、高い倫理観と使命感を有し、様々な立場の人々を理解、尊重し、コミュニケーションを取りつつ協働して問題解決できる能力を身に付けている。生涯に渡って新しい知識、技術を学び続ける意欲を持っている。

【宇宙航空学科】

方針概要

宇宙航空学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、宇宙航空学の専門的知識・技術として航空宇宙機の設計・研究開発・製造技術・利活用などの宇宙航空学に関する知識と能力を修得するとともに、機械や電気・電子情報分野を横断した統合的な応用力を有する有能な科学技術者として、以下に示した能力を身に付けたものに対し学位を授与する。

①社会で必要とされる知識・技能

科学技術の根幹をなす数学や自然科学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養とともに、宇宙航空学に必要な知識や教養、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得し、グローバルな社会でその能力を発揮・活躍できる。

②知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

幅広い教養と宇宙航空学分野の専門知識と技能に基づき、現在から将来の社会における科学技術的課題を発見し、関連情報の収集、道徳的、論理的な思考を通して、問題を解決し、それを表現できる能力を修得している。

③主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

宇宙航空学分野における知見を備えた科学技術者として、勤勉で、責任感があり、自己や他者を理解、尊敬し、話し合い、社会に貢献することができる。

各学科の卒業の要件は本学学則（第 18 条）において定められている。

卒業の判定は、学生の修得単位数を事務（教務支援課）において集計し、卒業判定資料を作成した後、各学部の教授会で上述の方針に基づいて卒業の認定可否が審議され、その審議結果に基づいて学長が決定している。

工学部 ロボット理工学科、宇宙航空理工学科は 2023 年度入学より、人文学部 コミュニケーション学科は 2024 年度より募集停止中。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 中部大学 |
| 設置者名 | 学校法人中部大学 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | https://www.chubu.jp/about/finance/ |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.chubu.jp/about/finance/ |
| 財産目録 | https://www.chubu.jp/about/finance/ |
| 事業報告書 | https://www.chubu.jp/about/finance/ |
| 監事による監査報告(書) | https://www.chubu.jp/about/finance/ |

2. 事業計画(任意記載事項)

| | | |
|-----------|-------|---|
| 単年度計画(名称: | 対象年度: |) |
| 公表方法: | | |
| 中長期計画(名称: | 対象年度: |) |
| 公表方法: | | |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| | |
|-------|---|
| 公表方法: | https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/evaluate/self-evaluation/ |
|-------|---|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| | |
|-------|---|
| 公表方法: | https://www.juaa.or.jp/search/detail.php?id=580&page=2#result1 |
|-------|---|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|--|
| 学部等名 工学部 |
| 教育研究上の目的 (公表方法： https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/engineering/) (概要) 【工学部】 個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識ならびにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身ともに健全な技術者（教育者、研究者を含む。）を育成する。 【機械工学科】 数学と物理学における基礎的な理解力・応用力と、これらに基づいた機械工学の最も基礎的・普遍的な専門知識と概念を修得させるとともに、各種機械の設計・製作・評価・管理に関する学術分野の教育を行い、主として力学・制御、エネルギー・流体、生産プロセスおよび工学設計の領域の知識・能力を身に付けた有能な人間を育成する。 【都市建設工学科】 土木工学を基盤として、人間が生活する上で安心・安全かつ快適な社会基盤の整備や持続発展可能な地球環境の開発・保全に関する学術分野の教育を行い、主として、計画、設計、施工、管理などの専門的または実務的な領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。 【建築学科】 建築は機能を満たし、安全、快適で美しさが求められる。歴史、都市、社会との関わりを基礎に、空間創造のための建築デザイン、安全な建築を造るための材料と構造、建築内外の環境の学術分野の教育を行う。そして、建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産、建築史、都市計画の領域の知識を修得し、デザイン能力があり、人間の幸福を実現できる有能な人間を育成する。 【応用化学科】 物質の変化に関する化学の基礎的概念を理解させ、これに基づいた化学の専門知識を修得させるとともに、化学計測、無機・有機およびナノ複合材料、エネルギー、環境に関する学術分野の教育を行い、主として環境化学、物理化学、無機化学、有機化学および化学工学の領域の知識・能力を身に付けた有能な人間を育成する。 【情報工学科】 情報工学の技術と知識の基礎を身に付け、システムモデルを構築する能力を伸ばすための教育を行い、主としてソフトウェア、通信ネットワーク、ハードウェア、システム制御に関する知識・能力を修得した有能な人間を育成する。 【ロボット理工学科】 ロボット理工学の基礎となる理学並びにシステム設計、プログラミング、制御・信号処理、人工知能、生体医工学等の基盤的工学知識を修得させるとともに、複合的な新しいロボット技術に関する教育を行い、ロボット領域における知識・能力、技術を身につけ |

たロボット共存社会を支えるグローバルな技術者を育成する。

【電気電子システム工学科】

地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムやエレクトロニクス分野の電子機器・システム等を利用した快適な社会環境を確立するために、電気工学と電子工学を基盤とする学術分野の教育研究を行い、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信等の各領域の知識・能力を修得した有能な技術者を育成する。

【宇宙航空理工学科】

宇宙航空理工学の基礎となる基盤的専門知識を修得させるとともに、航空機開発や宇宙航行等の学際的・複合的な宇宙航空理工学に関する教育研究を行い、新しい航空機やロケット、人工衛星、宇宙探査機、宇宙ステーション等を包含する次世代宇宙航空産業における開発製造技術に関わる生産現場のリーダーとなりうる技術者を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：

工学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/engineering/>

機械工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/mechanical/>

都市建設工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/civil/>

建築学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/architecture/>

応用化学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/applied-chemistry/>

情報工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/computer-science/>

ロボット理工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/robot/>

電気電子システム工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/electric/>

宇宙航空理工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/astronautics-aeronautics/>

(概要)

【工学部】

方針概要

工学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、人類の福祉・幸福の向上に貢献する「あてになる技術者」として、以下に示した力を身につけたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

新しいものをつくり出す技術に関する知識・技能について、豊かな教養を身に付け、工学的思考を基に、学科専門に係わる問題について対応、解決できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

「あてになる技術者」として、思考力、判断力、表現力など専門性を活かした工学的思考を身に付け、地域社会、国際社会にリーダーとして貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

国際的な視野と価値観の多様性を理解でき、各学科の専門性をもつ技術者として、自立心、学び続ける能力、協調性・協働性、コミュニケーション力などを有し、課題解決に取り組むことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

はつらつとした姿勢で創意工夫を行い、誠意と勇気を持って決断し、速やかに実行に移すことができる。

【機械工学科】

方針概要

機械工学科の教育課程を修め、必修等の条件を満たした卒業要件単位を取得し、社会に貢献する技術者として、学科専門教育科目における機械工学の主要分野に関する基礎的知識と能力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

機械工学の基礎的な専門知識と技術を身に付けている。また、社会における工学の役割・使命・影響、機械工学分野の位置づけ、異分野との関係などを理解している。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

社会の問題について機械工学の視点から課題を見出し、工学的思考に基づいて機械技術者として論理的・客観的に判断できる。また、それらを的確に表現し伝えられる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

機械技術や社会に関する情報を継続的に収集しながら、地域や国際社会の中で課題を解決する方法を主体的に提案できる。またそれらを多様な人々と協調・協働して進められる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

信頼される機械技術者として高い倫理観と自立心を持ち、社会に貢献する正しい価値を追求して行動できる。

【都市建設工学科】

方針概要

計画、設計、施工、管理などの専門的かつ実務的な土木工学に関する知識と能力を修得し、デザイン能力を活用できる創造性豊かな土木技術者として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

(1) 社会の変化に柔軟に対応でき、社会からも信頼される、グローバルな視野を有する技術者として必要な知識、教養、多面的に物事を考える能力を身につけることができる。

(2) 工学一般に関する諸事項および原理を理解するために必要となる、土木工学に関連した基礎知識を修得することができる。

(3) 土木工学の多様な専門分野に関して、十分な知識を有することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 「社会のニーズに基づいて問題設定を行い、最大限の努力をもって自主的に問題解決にあたる」デザイン能力を身につけることができる。

(2) グループまたは個人の主張を相手に的確に伝達し、議論するために必要な国際性も視野に入れたコミュニケーション能力、ならびに情報技術などを用いてその成果を正確かつ分かり易い文書に取りまとめ、他者に報告することができる実務的能力を身につけることができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

土木工学分野において必要とされる専門知識ならびに数学・物理学などの基礎知識を応用することにより、多角的な視点から問題の意図を考察し、自ら問題を発見し解決する能力を身につけ、グループまたは個人で専門知識を駆使することにより積極的に課題に取り組むことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

継続的に学習する能力を身につけ、技術が及ぼす「自然」、「人工」および「生命」環境への影響について理解できる倫理観、ならびに社会貢献および人類への福祉貢献などに関する技術者としての使命感を持つことができる。

【建築学科】

方針概要

建築学科の課程を修め、建築計画・設計、構造、環境・設備、材料・生産、歴史、法規・防災といった建築学諸分野に関する知識と能力を修得した「あてになる建築技術者」として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

地球的視野を有し、地域的・歴史的・人間的に多様な価値観を理解し、現代の社会的正義や良識を踏まえた上で、建築学諸分野およびその横断的領域の理論、技法、問題点、原理、仕組み等を理解できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 建築に求められている内容を理解し、建築空間として構想し、構想された建築を正しく図面化しプレゼンテーションできる。

(2) 建築学諸分野の事象を一般化し数学的および論理的に理解でき、また、その情報の収集や問題の解決を秩序立てて行うことができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 建築学諸分野における専門性の高い、発展的な知識・技術を理解し、国際性、多様性を視野に入れ学び続けることができる。

(2) 自ら考え、まとめ、コミュニケーションできる能力を身に付け、チームの一員として責任と協調性を持って行動できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

社会から信頼される建築技術者として、自然や社会環境の変化を読み取り、すべての人が平和と豊かさを享受できる持続可能でよりよい社会の実現に向け、問題解決や新たな技術開発を行うことができる。

【応用化学科】

方針概要

幅広い教養と豊かな人間性を養うとともに、化学に関わる専門知識や技能を身につけ、これらを主体的に応用・実践できる思考力および実行力を兼ね備えた、持続発展可能な社会に貢献する化学技術者として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

基盤科学、先端材料、環境調和等を中心とした化学に関する専門知識、さらに化学技術者として必要な自然科学や工学に関する幅広い分野ならびにデータ処理や情報発信に必要な ICT 活用に関わる知識・技能を修得し、新たな発想を生み出すことができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 実験や研究で得られた成果、および収集した化学技術に関する情報を解釈し、自分の考えを論理的に説明し、議論することができる。

(2) 化学技術が人間社会や自然環境に及ぼす影響を理解することで持続発展可能な社会の実現に向けた新たな課題を自ら見出すとともに、その問題解決に様々な角度から自発的に取り組むことができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 化学技術に関わる諸問題について自律的かつ継続的に学び、化学技術者として社会の要請に柔軟に対応することができる。

(2) 専門分野にとどまらず人文・社会科学も含めた幅広い教養を養い、化学技術者として国際社会で様々な立場の人々とコミュニケーションをとり、協働して持続発

展可能な社会に貢献することができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

修得した知識や技能を基礎として、化学技術者として持続発展可能な社会に貢献する意欲と実行力を備え、責任感と倫理観をもって主体的に行動できる。

【情報工学科】

方針概要

情報技術に関する専門知識の基礎と応用力、国際的な視野と教養、および語学力とコミュニケーション能力を身につけ、情報工学（情報通信、計算工学、メディア情報、知能情報）に関する幅広い知識と能力を修得した有能な情報技術者として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

情報技術者は「社会的に信頼性やセキュリティへの強い責任があること」、「高い倫理観が必要とされること」、および「様々な分野で情報技術が活用されること」を理解し、調査・情報収集力、課題設定力を獲得、情報技術を活用して具体的な問題に対処することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 数学や自然科学の素養を活用する情報技術者として、コミュニケーションスキル、表現（プレゼンテーション）スキル、討論スキルを 獲得し、国際社会に貢献することができる。

(2) 技術を総合的に活用できる技術者として、論理的思考力、傾聴スキル、計画立案スキルを 獲得し、課題の分析と具体化、システムの設計、実装とデバッグ、評価と改善を実行することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 自分自身の将来像（ビジョン）と目標（ゴール）に向かって自立した学習活動を行い、ビジョンとゴールに対して計画・実行・評価・改善を継続、成長し続けることで最新技術を問題解決に活用することができる。

(2) 国境を越えた地球規模の視野を持ち、世界における情報技術の動向・状況に目を向け、多種・多様なチームと協働することで、最先端の情報技術を適宜活用する能力を身につけ様々な問題に対処することができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) チームの目標達成や成長に向けて自己の責任・役割を理解し、メン

バーと協働することで目標達成に貢献することができる。（メンバーシップ）

(2) チームの目標達成や成長に向けてメンバーの意識を高め、集団と

して成果を上げるためにチームを動かすことで目標達成に貢献することができる。

（リーダーシップ）

【ロボット理工学科】

方針概要

ロボット理工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、システム設計、プログラミング、制御・信号処理、人工知能、生体医工学等のロボット工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身につけたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

ロボットがあらゆる分野に必要不可欠な存在であることを理解できる技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を身につけ、工学的見地から問題解決に対処できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

ロボット領域における知識・能力、技術を備えた技術者として、プレゼンテーション力、クリティカル思考力、自己理解力を獲得し、高い倫理観と使命感を有する社会人

として、国際社会に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

ロボット理工学分野における知見を備えた技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を獲得し、様々な立場の人々と協働し問題解決できる。

【電気電子システム工学科】

方針概要

専門的・社会的要請に応じられる電気・電子分野の基礎的能力を養い、電気・電子工学の維持・発展に貢献できる技術者として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

人間社会や自然環境の多様な電気・電子工学に関連した課題を明らかにし、それらの課題を解決するための最善策を見出したり、プレゼンテーションを通じて表現して、実践・強化し続けることができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

現代社会に果たすべき役割と責任を理解できる電気電子システム技術者として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身につけ、リーダーとして地域社会に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 思い描いた将来像と目標に向かって、自律的な学習活動を行い、その振返りを通じて見直すことによって、成長し続けることができる。

(2) 国境を越えた地球環境の視野を持ち、他国の多様な現状に関して調査や情報収集を行うことで、電気・電子分野特有の問題に焦点を当てた取り組みや方法について理解できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) チームの目標達成や成長に向けて自己の責任役割を理解し、様々な立場のメンバーとコミュニケーションをとりながら協働して成長し続けることができる。

(2) チームの目標達成や成長に向けてメンバーの意識を高め、集団として成果を上げるためにチームを動かすことができる。

【宇宙航空理工学科】

方針概要

宇宙航空理工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、宇宙航空理工学の専門的知識・技術として航空宇宙機の設計・研究開発・製造技術・利活用などの宇宙航空理工学に関する知識と能力を修得するとともに、機械や電気・電子情報分野を横断した統合的な応用力を有する有能な技術者として、以下に示した力を身につけたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

航空宇宙機の設計・研究開発・製造に携わるものとして、宇宙航空理工学に必要な知識や教養、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得し、グローバルな社会でその能力を発揮・活躍できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

宇宙航空理工学分野に携わる技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力等の能力を活用し、プレゼンテーション力、クリティカル思考力を獲得し、問題解決のための類推、創造、発見ができ、リーダーシップを発揮できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

宇宙航空理工学分野における知見を備えた技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を獲得し、多様な人の立場を尊重し、チームワーク力を発揮して協働で物事に対処できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

工学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/engineering/>

機械工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/mechanical/>

都市建設工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/civil/>

建築学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/architecture/>

応用化学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/applied-chemistry/>

情報工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/computer-science/>

ロボット理工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/robot/>

電気電子システム工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/electric/>

宇宙航空理工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/astronautics-aeronautics/>

(概要)

【工学部】

方針概要

工学部ではディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

- (1) 豊かな教養の修得のため、学修の基礎となる全学共通教育科目、理工系教育圏科目、学科専門教育科目の履修を通して、幅広い知識を修得するとともに、自らのキャリア形成ができるように科目を配置している。
- (2) 各学科の特性に対応した知識・技能の修得のために、専門的知識・技能、思考力および学び続ける能力が獲得できる科目を体系的に配置している。
- (3) ディプロマ・ポリシーに示す思考力・判断力・表現力の能力の修得のために、スキル教育科目、外国語教育科目、教養課題教育科目、特別課題教育科目を配置している。
- (4) 国際性を視野に入れ、実務的能力を有する技術者育成のために、国際的な視野、多様性・協調性・協働性（公益心）、自立心および実行力が身につく科目を体系的・系統的に配置している。

② 教育方法

- (1) 各学科の特性に応じて必要となる汎用力が身につくような教育方法を実施する。
- (2) 主体的な学びの力を向上させるため、創成的な演習、実験、実習を積極的に取り入れ、講義の深い理解を補完している。
- (3) 学修ポートフォリオの活用によって各学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

③ 教育評価

- (1) 各科目の達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。
- (2) 系統的に配置された各科目は、学習・教育到達目標に対して達成度を評価し、足りない部分は指導・強化する。

- (3) 4年間の学修成果をその集大成となる卒業研究を通してディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを総合的に判断する。

【機械工学科】

方針概要

- (1) 機械工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、理工学部・工学部共通教育科目、機械工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。
- (2) 科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うと共にカリキュラムマップ・カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

- (1) ディプロマ・ポリシーに示した、[社会で必要とされる知識・技能]、[知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力]、[主体性を持って多様な人間と協働し学び続ける態度]、[あてになる人間として実行する姿勢]、の修得のために、全学共通教育科目、理工学部・工学部共通教育科目、機械工学科専門教育科目を配置している。
- (2) 機械工学科専門教育科目は、力学をはじめとした機械工学の基本となる主要な分野ごとに、基礎から発展的な内容に向かって系統的に学ぶよう配置されている。
- (3) これらを特定分野に偏らず幅広く学びながら、充実した設計関連科目を通じて基礎理論を活用し、さらに3年次以降では各分野を統合した応用例として自動車・航空機・ロボットなどの各種機械システムの概要を学ぶ。
- (4) これらの教育課程を通じてディプロマ・ポリシーに示した知識・技能・能力・態度・姿勢を育成し、4年次の卒業研究においてその完成を図る。

② 教育方法

- (1) 機械工学の基礎となる重要な力学系科目を中心として、教育内容の水準を数学・物理学の基礎から徐々に上げていくことで習熟度を高める教育を行っている。
- (2) また、実験・実習・設計関連科目を3年次までの各学期に複数配置し、実技・体験を通じて知識・技能を確実に修得すると共に、講義科目と連携しながら基礎理論を活用・応用して理解を深める教育を展開している。
- (3) さらに、機械技術者に最も重要な工学設計能力を修得するために、敢えて手書き製図から開始して体感的理解を構築した上で、学年進行と共にコンピュータを応用したCAD/CAM教育を段階的に導入し、最終的には最先端のソフトウェアシステムによるCAE教育を実施している。

③ 教育評価

- (1) 各科目において試験、演習、レポートその他の課題提出、プレゼンテーション等の手段により、各科目に設定された具体的達成目標、並びに当該科目に掲げられた身に付けるべき汎用力の達成度を評価する。
- (2) また、大学4年間の集大成となる卒業研究については、3年次の研究室配属により早期から指導を開始すると共に、機械工学科全体で統一して卒業論文及び概要提出と研究発表・審査を実施し、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標の達成度を総合的に評価する。

【都市建設工学科】

方針概要

都市建設工学科では、ディプロマ・ポリシー(DP)に掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

アドバンスドコース

グローバルな視野と公正な判断力を備え、専門技術を駆使し、リーダーシップを発揮

しながら社会問題の発見・解決に立ち向かう強い意志を持ち、計画、設計、施工、管理などの専門的な分野において活躍できる「あてになる専門技術者」、すなわち、「創意はつらつ CHUBU 専門技術者」を育成する。

ノーマルコース

公正な判断力を備え、実務的技術を活用し、他者と協調しながら社会問題の発見・解決に取り組む強い意志を持ち、設計、施工管理、技術交渉などの実務的な業務や総合的な業務において活躍できる「あてになる専門技術者」、すなわち、「創意はつらつ CHUBU 実務技術者」を育成する。

① 教育内容

- (1) 豊かな教養、国際的な視野などの社会で必要とされる知識・技能を修得できるように、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、学科専門教育科目を配置している。
- (2) 専門的知識・技能を活用するための思考力・判断力・表現力などの能力や、社会のニーズに基づいて問題設定を行い、最大限の努力をもって自主的に問題解決にあたるデザイン能力を育成するために、語学科目、実験・実習科目ならびに創成科目を配置している。
- (3) 主体性を持って多様な人間と共働し、学び続ける態度を涵養するために、演習科目、実験・実習科目ならびに創成科目を配置している。
- (4) あてになる人間として実行する姿勢や技術者としての倫理観ならびに使命感を涵養するために、特別課題教育科目、複合領域科目ならびに関連する学科専門教育科目を配置している。

② 教育方法

- (1) 学科専門教育科目では、土木工学の基礎力・応用力が身につく教育方法を実施する。
- (2) 継続的な少人数教育や学生との面談を取り入れた技術者教育を行うことで、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
- (3) アクティブラーニングの要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

③ 教育評価

- (1) 各科目での達成目標に対する「身につく汎用力」の達成度を評価する。
- (2) 4年間の学修成果を、都市建設工学科が定める学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【建築学科】

方針概要

建築学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、建築学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

- (1) 地球的視野を有し、地域的・歴史的・文化的な多様な価値観を理解し、社会的正義や良識を踏まえた建築技術者としての素養を磨くために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、入門的な建築学科専門科目を横断的に配置している。
- (2) 建築を構想・図面化し他者にアイデアを伝える能力、事象を一般化し数学的および論理的に理解・収集・解決する思考力と学び続ける能力を身につけるために、建築士資格の指定科目にあたる建築学諸分野の必修科目を網羅的に配置している。
- (3) より専門性の高い、発展的な知識・技術を理解し、自立心と協調性・協働性を持って行動できるように、建築計画、設計、構造、設備、材料の各専門分野の選択科目、演習・実習科目を体系的に配置している。
- (4) 主体的な活動である建築自主活動、インターンシップ、ゼミナールなどの各科目を配置し、あてになる建築技術者としての思考力、実行力を身につける卒業研究へと

つながるカリキュラムとしている。

② 教育方法

- (1) 建築学科専門科目については、講義、演習、実験の各授業形態を体系的に配置し、建設工学、建築学の専門的知識・技能が身につくようにする。
- (2) 学修ポートフォリオの活用により、学び続ける能力を高める組織的な教育指導を行い、達成度が不十分な学生には個別に指導を強化する。
- (3) 実践学修の要素を多く取り入れ、創成的な演習・実験・実習科目を多く配置し、自立心、協調性・協働性を伸ばす。
- (4) 卒業研究を中心とした主体的な活動を全面的に支援し、社会から信頼される建築技術者として、問題解決や新たな技術開発ができる実行力を養う。

③ 教育評価

- (1) 建築学科で定めている学習・教育到達目標に対する達成度を評価し、足りない部分は指導・強化する。
- (2) 4年間の学修成果を、建築学科で定めている学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【応用化学科】

方針概要

応用化学科では、化学に関わる専門的知識や技能を身につけ、これらを主体的に応用・実践できる思考力および実行力を兼ね備えた、持続発展可能な社会に貢献する化学技術者の育成を目指している。その目標達成のために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、応用化学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験を適切に組み合わせ、基盤科学、先端材料、環境調和を中心とした化学に関する専門知識・技能とともに、技術者として活躍するために必要な豊かな教養と協調性・実行力を身につける教育を実践する。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。また、3年次からのコース選択（スペシャリストコース、エンジニアコース）により、個々の目標に応じた化学技術者の育成を行う。

① 教育内容

- (1) 人文・社会・自然科学系および英語を中心とする語学等の全学共通教育科目の履修により、豊かな教養、国際的な視野、協調性・協働性を身につける。
- (2) 理工系教育圏科目の履修により、化学技術者として必要な自然科学全般の幅広い知識・技能を修得する。
- (3) 応用化学科専門教育科目においては、無機化学、有機化学、物理化学および環境化学工学の4領域を中心とした科目を基礎から発展的な内容、さらに最先端応用まで段階的に配置し、講義、演習、実験を組み合わせた教育により化学に関する専門的知識・技能を身につける。
- (4) 3年次においては、個々の能力と目標に応じてエンジニアコースとスペシャリストコースの2コース制を取り持続発展可能な社会に貢献する化学技術者を育成する。

② 教育方法

- (1) 1～2年次開講の基礎無機化学、基礎有機化学、基礎物理化学、基礎分析化学、基礎化学工学を必修コア科目として位置づけ、4領域の基盤となる化学の基礎教育を徹底して行い専門科目の十分な理解につなげる。
- (2) 実験科目は1年次から3年次まで全学期に渡り配置し、実験の初歩から卒業研究に直結した応用実験まで幅広い化学分野の実験を体系的に行う。
- (3) 実験科目を中心に少人数のクラス編成により創成的な要素を取り入れ、自ら課題を見出し自発的に取り組む能力を養う。
- (4) 4年次の卒業研究においては、それまでに身につけた専門的知識・技能を発展融合させ4領域の枠にとらわれない基盤科学、先端材料、環境調和に関わる最先端化学の研究に取り組み、自立心と協調性、実行力を養う。

③ 教育評価

- (1) シラバスで科目ごとの評価基準を定め評価を厳格化するとともに相互チェックによりカリキュラム内の整合性を図る。
- (2) 学力試験、レポート等によって知識や技能の修得度を確認し、個々の学生の達成度を評価する。卒業研究においては、実験遂行、ディスカッション、プレゼンテーション、卒業論文から達成度を総合的に評価する。
- (3) 学期ごとにポートフォリオ（大学での目標と達成度の記録簿）を記入することで前学期の取り組みを学生が自己評価し、指導教員との面談を通じて、目標達成のための達成状況を相互に確認する。
- (4) 進級判定、卒業判定、就職内定率、学習達成度評価アンケート、卒業時アンケート、GPA の分析等から教育効果を総合的に評価し教育システムの改善に生かす。

【情報工学科】

方針概要

情報工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、理工系教育圏教育科目、情報工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施することで教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

- (1) 社会人としての素養を学ぶ全学共通教育科目、工学技術者として必要な素養を学ぶ理工系教育圏教育科目および情報工学の専門技術を学ぶ学科専門教育科目を配置している。また、理解の進展を考慮し、最初の2年間は基礎技術科目、3年次からは高度な応用力を身につける専門科目を配置、「専門的知識・技能」の修得を目指している。
- (2) 数学や物理を基礎として論理的な考え方を身につけ、新しいものを創り出す「思考力」と「学び続ける能力」を養うよう配慮、科目を配置している。
- (3) 講義で学修した知識を実験や演習で実践し、方法を考えて解決する経験を積むことができるカリキュラム構成としている。
- (4) グローバル化する世界で活躍できる人材を育成するために、「国際的な視野」と「豊かな教養」およびコミュニケーション能力を養う教育科目を配置している。

② 教育方法

- (1) 「あてになる情報技術者」育成に向け、講義科目においては演習を積極的に組み込み、理論の着実な修得を図る。実験・演習科目においては具体的な課題を与えて「問題解決能力」の向上を図るとともに、メンバーとの協働作業を実施、「協調性・協働性」の向上を目指す。
- (2) 学修ポートフォリオを活用して学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
- (3) アクティブラーニングの要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

③ 教育評価

- (1) 情報工学科で定めている学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価、足りない部分は指導・強化を図る。
- (2) 4年間の学修成果を卒業研究で実施し、学科教員全体で評価することでディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【ロボット理工学科】

方針概要

ロボット理工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、ロボット理工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマ

ップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる全学共通教育科目、工学部共通教育科目、ロボット理工学科専門教育科目の履修を通して、幅広い知識を修得するとともに、自らのキャリア形成の方向付けができるように体系的に科目を配置している。

(2) 専門基礎知識、専門知識を活用する技術者として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力、ICT 活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。

(3) 倫理観ならびに技術者としての使命感を有する社会人として求められる思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、プレゼンテーション力、自己理解力、クリティカル思考力が身に付く科目を体系的に配置している。

(4) 国際性も視野に入れた対話能力、実務的能力を活用する技術者として求められる、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を身に付けた有識社会人となるべく 1 年次から体系的・系統的に科目配置している。

② 教育方法

(5) ロボット理工学についての基礎力が身に付くような教育方法を実施する。

(6) 指導教授制を敷くとともに学生カルテを活用して、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7) 主体的な学びの力を伸ばすために、創成科目を中心に実践学修の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8) 科目ごとに達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9) ロボット理工学科で定めている学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価し、足らない部分は指導・強化する。

(10) 4 年間の学修成果を卒業研究で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【電気電子システム工学科】

方針概要

電気電子システム工学科では、ディプロマ・ポリシー(DP)に掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、理工系教育圏教育科目、電気電子システム工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 電気・電子技術者として必要な自然科学や工学に関する豊かな教養と専門的知識・技能を修得するために全学共通教育科目、理工系教育圏教育科目、電気電子システム工学科専門教育科目を体系的に配置している。

(2) 電気・電子を有効に利用した快適な社会環境を実現するために必要な課題を明らかにし、専門的知識・技能を活用して科学的な根拠に基づき、最善策を見出すための思考力と新たな知識を学び続ける能力を獲得できるように科目を体系的に配置している。

(3) チームにおける自己の責任と役割を理解して協調性・協働性（公益心）を持ち目標達成に向けて自律的に実行できる自立心と実行力を得るための科目を配置している。

(4) 国際的な視野を持ち、調査や情報収集により多様性を理解できる電気・電子システムの技術者としての能力を獲得できるように科目を配置している。

② 教育方法

(1) 電気電子システム工学の基礎となる科目については、講義、演習、実験の各種形態を組み合わせる専門的知識・技能を修得できるようにしている。

(2) 自律的な学習とその振り返りにより自立心や学び続ける能力を獲得できるように創成的な講義・演習科目や実験実習科目を多く配置している。

(3) 学修ポートフォリオによる GPA 指標や出席状況等のデータを学生指導に活用し、組織的な教育指導を行うことで、達成度が不十分な学生には個別指導を強化している。

③ 教育評価

(1) 系統的に配置された各科目は学修教育到達目標に対する達成度を学科の定めた評価方法および評価基準により評価する。

(2) 4 年間の学修成果の集大成となる卒業研究を通して、学科教員全員でディプロマ・ポリシーに掲げられた目標が達成されたかどうかを総合的に判断する。

【宇宙航空理工学科】

方針概要

宇宙航空理工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、宇宙航空理工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる幅広い知識を修得するとともに、将来の職業とそれに向けたキャリア形成の方向付けができるように、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、宇宙航空理工学科専門教育科目を、体系的に配置している。

(2) 快適な社会環境を確立できる能力として求められる知識・技能の修得のために、教養、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得できる科目を体系的に配置している。

(3) 現代社会に果たすべき役割と責任を理解できる技術者として求められる調査・情報収集力、課題設定・企画・計画力等の能力を活用し、ディスカッション力、クリティカル思考力を身に付けられる科目を体系的に配置している。

(4) 主体性をもって多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、学内・学外での実習、実験、演習科目を配置し、4 年次の卒業研究においてその育成が完成するように構成している。

② 教育方法

(5) 宇宙航空理工学の基礎力が身に付くように基盤となる専門科目については、講義、演習、実験の授業形態により行う。

(6) 実践的な技術の経験と理解、知識修得を確認するために、実験や実習を組み込んだ科目を開講している。また、社会で必要とされる経験と知識を修得するために、企業等で見学・実習を行う科目を開講している。

(7) 宇宙航空理工学の知識と宇宙航空産業界の実践的な技能・技術を結びつけた真の課題解決能力、創造力を育成するため、企業や企業の専門家と連携した講義科目等を開講している。

(8) 指導教授制、GPA 等の学生指導システムを活用して、学修・教育到達目標の達成度をチェックする。達成度が不十分な学生は個別指導を行う。

③ 教育評価

(9) 科目ごとに達成目標・到達点をシラバス等により明確にし、試験、演習、レポート、プレゼンテーション等の手段により、具体的達成目標が達成されたかを評価する。

(10) 大学 4 年間の集大成となる「卒業研究」を通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標が達成されたか総合的に評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

工学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/engineering/>

機械工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/mechanical/>

都市建設工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/civil/>

建築学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/architecture/>

応用化学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/applied-chemistry/>

情報工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/computer-science/>

電気電子システム工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/electric/>

(概要)

【工学部】

求める人間像 1

本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

高等学校で修得すべき基礎知識・技能を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

他者と協働して課題解決にあたる姿勢・意欲を持ち、大学で学ぶために必要な思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身につけている。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

工学をはじめ科学技術全般に関心と学習意欲を持ち、工学技術領域を通して社会に貢献しようとする意欲を有している。

【機械工学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、工学および機械技術に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 機械工学の基本を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 機械工学をはじめ科学技術全般に強い関心と高い学習意欲をもち、機械工学技術領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

身につけておくと望ましいこと

数学と物理の基礎、特に、指数・対数、三角関数・ベクトル、微分・積分、力のつり合い、物体の運動などを理解し応用できることが望まれる。

【都市建設工学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な

人間と協働し、都市建設（まちづくり）に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

（2） 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

（3） 都市建設工学を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

（4） 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

（5） 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

（6） 都市建設工学をはじめ科学技術全般に強い関心と高い学習意欲をもち、地域のデザインを通して地球環境の保全、人間社会の持続可能な発展、災害対策に関わる領域で社会に貢献しようとする意欲がある。

身につけておくこと望ましいこと

高等学校の教育内容（数学・物理の基礎など）を幅広く理解し、日常的な自己学習の習慣を身につけることが望まれる。他者とのコミュニケーションをとる積極性と自分の考えを伝えるための表現力が望まれる。

【建築学科】

求める人間像 1

（1） 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、持続可能で豊かな社会を創造する建築に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

（2） 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

（3） 機能的で、安全、美しい建築のあり方を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

（4） 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

（5） 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

（6） 建築学とともに人間・社会・芸術に強い関心と高い学習意欲をもち、建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産、建築史、都市計画に関わる領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

身につけておくこと望ましいこと

数学、物理の基礎知識とその応用に資する読解力を身につけておくこと、地理歴史、芸術など日常的に幅広く学習する習慣を身につけておくことが望まれる。

【応用化学科】

求める人間像 1

（1） 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、化学を中心とした自然科学や工学分野に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

（2） 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

（3） 化学を中心とした科学技術を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

（4） 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

（5） 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

（6） 化学をはじめ科学技術全般に強い関心と高い学習意欲をもち、化学計測、無機・有機およびナノ複合材料、エネルギー、環境などの領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

する意欲がある。

身につけておくとう望ましいこと

高等学校で学ぶ化学、数学、物理に関する基本事項（モルや濃度の計算、指数・対数など化学に関連する数値の取り扱いを含む）を幅広く理解しておくことが望まれる。好奇心を持ち、わからない点を自発的に行動して解決するなど、学問に積極的に取り組む習慣を身につけておくことが望まれる。

【情報工学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、発展し続ける情報工学の技術に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 幅広い情報工学の様々な分野を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

(6) コンピュータの仕組みや応用に強い関心と高い学習意欲をもち、高度情報化社会において情報科学、ソフトウェア、情報通信、ハードウェアに関わる領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

身につけておくとう望ましいこと

高等学校の数学、物理、英語を理解しておくことが望まれる。また、論理的な文章に慣れておくことが望まれる。情報工学の技術や社会応用について、自ら調べ、勉強して理解しようとする積極性が望まれる。

【電気電子システム工学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、電気工学や電子工学に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 電気工学や電子工学を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

(6) 電気電子システム工学をはじめ科学技術全般に強い関心と高い学習意欲をもち、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、通信・システムに関わる領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

身につけておくとう望ましいこと

数学（三角関数、指数・対数関数、微分・積分、複素数、ベクトルなど）と物理（力学、電磁気など）を理解し、物事の探究に活用できることが望まれる。身の回りにある電気機器や電子機器について自ら調べ、仕組みを考えようとする姿勢を身につけておくことが望まれる。

| |
|--|
| 学部等名 経営情報学部 |
| <p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/business/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>【経営情報学部】</p> <p>豊かな教養、自立心と公益心とともに、企業経営と情報技術に関する基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、自ら学び続ける能力を身に付け、広く国際的視野から物事を考え実行する専門職業人/有識社会人となる有為の人間を育成する。</p> <p>【経営総合学科】</p> <p>経営総合学科は、経営、情報、会計、経済、法律等の諸分野にわたる基本的な考え方、知識、スキルを修得し、自立心、公益意識、広い視野から物事を考える力、行動力を備えて、企業や組織の発展に将来貢献する人材として社会に役立つ人間を育成する。</p> |
| <p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：</p> <p>経営情報学部：</p> <p>https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/business/</p> <p>経営総合学科：</p> <p>https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/management-synthesis/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>【経営情報学部】</p> <p>方針概要</p> <p>経営情報学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、経営学と情報科学の基礎・基盤的な素養と専門的知識を身につけたビジネス社会で活躍できる多彩な人材として、以下に示した力を身につけたものに対し、学位を授与する。</p> <p>① 社会で必要とされる知識・技能</p> <p>経営情報学部で学ぶ経営・情報・会計・経済・法律の 5 分野の知識・技能を修得し、変化の激しい現代のグローバル経済社会への対応能力を獲得することで、多様な進展が求められる企業など様々な組織の発展に貢献できる。</p> <p>② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力</p> <p>経営情報学部で学ぶ専門的知識・技能の学修を通じて、ビジネスの場で求められる実践的能力を獲得するとともに、幅広い教養や他分野の専門的知識の学びを通じて複眼的視野や俯瞰力を獲得し、キーパーソンとして組織を主導し、社会の発展に貢献できる。</p> <p>③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度</p> <p>経済や社会への関心を深め、自ら進んで新しい知識・技能を学び続けるとともに、多様な人の立場を尊重して協働しながら主体性を持って物事に対処することができる。</p> <p>④ あてになる人間として実行する姿勢</p> <p>アクティブラーニングなどを通じて獲得したチームワークを発揮させつつ、経営情報学部で学ぶ専門的知識に裏付けられた思考力、課題設定・解決力などを活用して新しい価値や考えを創造し、経済社会に貢献できる。</p> <p>【経営総合学科】</p> <p>方針概要</p> <p>企業経営と情報技術に関する基礎・基盤的な素養の上に経営・情報・会計・経済・法律の 5 分野についての専門的知識を修得することで、俯瞰的・総合的視野を持ち、協調性や実行力を備え、専門職業人/有識社会人として社会の要請に応えることができる力を身につけた者に対して学位を需要する。</p> |

① 社会で必要とされる知識・技能

グローバル化、デジタル化など変化の激しい時代にあって、社会で活躍するビジネスパーソンとして必須となる経営情報分野の知識を修得し、会計や情報分野のスキルを身につけることで、多様な進展が求められる企業を始めとした様々な組織の発展に貢献することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

幅広い教養や分野を越えた専門的知識を学ぶことで複眼的視野や俯瞰力を獲得するとともに、経営情報分野の学修を通じて、ICTを活用しながら調査・情報収集を行い、課題を設定する能力を獲得できる実践的能力を身につけることで、仕事に必要とされる企画の作成や、プレゼンテーション、クリティカルな思考を行い、キーパーソンとして組織・社会で活躍できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

経済や社会に関心を持ち、自ら進んで新しい知識・技能を身につけようとする意欲や態度を育むとともに、グローバル社会での異質性や多様性を尊重しながら多様な人々と協調して社会や組織の課題解決に取り組む能力を養うことで、人生100年時代を生き抜き、多様な人の立場を尊重してオープンかつフェアな態度で協働できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

チームで協同する力、コミュニケーション能力、リーダーシップを身につけるとともに、経営情報分野の専門的知識に裏付けられた課題設定力・解決力を発揮することで、組織・社会の中で協調性と責任感を持って行動し、新しい価値や考えを創造することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

経営情報学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/business/>

経営総合学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/management-synthesis/>)

(概要)

【経営情報学部】

方針概要

経営情報学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部教育科目（学部基礎科目、学部基本科目、学部専門科目、資格関連科目、演習科目）を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 経営情報学部では、経営、情報、会計、経済、法律の5分野の履修を通して、幅広い知識および社会で必要とされる技能を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるよう、人間力を幅広く修得できるようにしている。

(2) 経営情報学部独自のビジネス社会で活躍できる多彩な人材として求められる「知識・技能の修得」のために、ICTを活用しながら調査・情報収集を行い、課題を設定する能力を獲得できる即効性の高い科目を学部基本科目中心に体系的に配置している。

(3) 経営情報学部独自の素養を備えたビジネス社会で活躍できる多彩な人材として求められる思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、豊かな教養と専門的知識・技能を土台として批判的に思考し、主体的に実行する能力を身につけられる科目を学部基礎科目・演習科目を中心に体系的に配置している。

(4)経営情報学部独自のビジネス社会で活躍できる多彩な人材として求められる多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、チームで他者と協調しながら議論を進め、課題解決をはかる能力を身につけた「社会人」となるべく、1年次から系統的に科目を配置している。

② 教育方法

(1)学部教育科目のどれも、学力のほか、人間力が身につくような教育方法を実施する。特に、他とコミュニケーションをとり、議論を行ったりプレゼンテーションを行ったりする能力については、演習科目において指導強化する。

(2)学部教員が学修ポートフォリオを活用して問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。4年間を通じた少人数教育において、ひとりの学生の学修プロセスを複数の教員で見守る体制をつくる。

(3)アクティブラーニングを取り入れ、学部学生の主体的な学びの力を伸ばす。すべての授業科目において、アクティブラーニングの要素を取り入れる工夫をすると同時に、演習科目を中心に学生主体の授業運営を行う。

③ 教育評価

(1)演習科目（ゼミナール）では、経営情報学部独自のビジネス社会で活躍できる多彩な人材として求められる思考力・判断力・表現力等が身についたかどうかについて、授業への参加の姿勢、プレゼンテーションやレポートの内容などを総合して評価する。

(2)講義科目では、人間力の評価も含め、筆記試験をはじめ、討論、レポートやプレゼンテーション等の評価など、多様な評価方法の中から、それぞれの科目の特性に応じた評価方法を用いて学修成果を評価する。

(3)卒業研究では4年間の学士課程での学修成果を卒業論文などで集大成し、経営情報学部独自のビジネス社会で活躍できる多彩な人材として求められる能力が身についたかどうかについて、卒業論文発表会などでの評価も含め、総合的に評価する。

【経営総合学科】

方針概要

経営総合学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学部共通教育科目、学部教育科目（学部基礎科目、学部基本科目、学部専門科目、資格関連科目、演習科目）を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。

科目間の関連や科目間の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1)「学修の基礎」となる経営、情報、会計、経済、法律の5分野の履修を通して、幅広く豊かな教養及び社会で必要とされる専門的知識・技能を修得し、自らのキャリア形成の方向付けをおこない、人間力を幅広く修得できるようにしている。

(2)経営情報分野の素養を備えた専門職業人／有識者社会人として求められる専門的知識・技能を獲得できる科目を学部基本科目中心に体系的に配置している。

(3)経営情報分野の素養を備えた専門職業人／有識社会人として求められる思考力・実行力が得られる科目を学部基礎科目・演習科目を中心に体系的に配置している。

(4)経営情報学部分野の素養を備えた専門職業人／有識社会人として求められる自立心を持ち、多様な人との協調性・協働性（公益心）を身につけた「社会人」となるべく、1年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

(1)各科目では、学力のほか、人間力が身につくような教育方法を実施する。特に、学び続ける能力、協調性・協働性（公益心）、国際的な視野、多様性については、演習科目において、身につけさせる。

(2)学修ポートフォリオを活用して、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。4年間を通じた少人数教育において、ひとりの学生の学修プロセス

を複数の教員で見守る体制をつくる。

(3) アクティブラーニングの要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。すべての授業科目において、アクティブラーニングの要素を少しでも取り入れる工夫をすると同時に、演習科目を中心に学生主体の授業運営を行うことで自立心、実行力を養う。

③ 教育評価

(1) 各学年に配置されている演習科目（ゼミナール）では、専門職業人／有識社会人として求められる思考力・実行力等が身についたかどうかについて、授業への参加の姿勢、プレゼンテーションやレポートの内容などを総合して評価する。

(2) 講義科目については、人間力の評価も含め、筆記試験をはじめ、討論、レポートやプレゼンテーション等の評価など、多様な評価方法の中から、それぞれの科目の特性に応じた評価方法を用いて学修成果を評価する。

(3) 4年間の学士課程での学修成果を卒業論文などの卒業研究で集大成し、経営情報分野の素養を備えた専門職業人／有識社会人として求められる能力が身についたかどうかについて、卒業論文発表会などでの評価も含め、総合的に評価する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：

経営情報学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/business/>

経営総合学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/management-synthesis/>)

（概要）

【経営情報学部】

求める人間像 1

本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

高等学校で修得すべき基礎知識・技能を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

他者と協働して課題解決にあたる姿勢・意欲を持ち、大学で学ぶために必要な思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身につけている。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

企業経営や情報ビジネスに強い関心を持ち、情報システムや会計をはじめとする経営・情報に関わる知識・技術を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

【経営情報学部 経営総合学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、経営・情報・会計の分野に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 経営・情報・会計を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

(6) 企業経営と情報に強い関心と高い学習意欲を持ち、経営者や会社のキーパーソンとして活躍しようとする意欲がある。または、情報システムの知識・技術に関わる領域や会計専門職や会計の知識に関わる領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

身につけておくとう望ましいこと

高等学校の授業科目のうち、特に英語、数学、国語、地歴・公民の学習内容を習得していることが望まれる。また、経営・経済分野の新聞やニュースに対して、意見を言えるようにしておくことが望まれる。

| |
|--|
| 学部等名 国際関係学部 |
| 教育研究上の目的 （公表方法： https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/international/ ） |
| （概要） 【国際関係学部】 社会科学ならびに人文科学の立場から、国際関係・国際文化の動向・諸要因を政治・経済・社会・文化等の諸分野について総合的・包括的、グローバルかつローカルな視点から考察し、国際化する社会のさまざまな現場で、実際に活躍できる有為の人間を育成する。 【国際学科】 国際社会の政治・経済・社会・文化現象を社会科学・人文科学の立場を中心として考察し、国際社会の動向や諸要因の分析、国際開発や政策研究等の諸問題、人類の多様な文化的価値の解明、他文化理解やコミュニケーション能力の向上等について総合的・包括的に教育研究し、英語・中国語を中心とした外国語の修得とともに国際的な知識や視野を備え、国際社会で幅広く活躍できるグローバル人材を育成する。 |
| 卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： 国際関係学部： https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/international/ 国際学科： https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/international-studies/ ） |
| （概要） 【国際関係学部】 方針概要 国際関係学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、国際化する社会の様々な現場で活躍できる、あてになる心豊かな国際人として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。 ① 社会で必要とされる知識・技能 世界の人々の生活・文化や社会・制度などに偏見なく向き合い理解できる豊かな教養、専門的な知識、活きた語学力を獲得し、絶えず変化を続ける国際社会において生起する多様な問題に対処することができる。 ② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力 国際社会における多様な文化や制度に関して学んだ知識を、教員や学生との意見交換や討論に運用することができる。また国際的な視野そして思考力を、自らが直面する諸問題を正確に分析し解決するために活用することができる。 ③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度 異なる言語や文化的背景を持つ他者と自己との比較により客観的にものごとを判断することができる。また多様な価値観を尊重しながら主体性を持って学び続けることができる。 ④ あてになる人間として実行する姿勢 国際的な視野を持ち、多様な価値観を尊重して、状況に応じて適切に判断できる思考力と、あてになる心豊かな国際人として行動できる実行力を備え、学びの重要性和楽しさを知る教養人としての姿勢を保ち続けることができる。 【国際学科】 方針概要 国際化する社会の様々な現場で活躍できる、あてになる心豊かな国際人として、次の能力を身につけた者に学位を授与する。 |

① 社会で必要とされる知識・技能

世界の人々の生活・文化や社会・制度などに偏見なく向き合い理解できる豊かな教養、専門的な知識、活きた語学力を獲得し、絶えず変化を続ける国際社会において生起する多様な問題に対処することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

国際社会における多様な文化や制度に関して学んだ知識を、教員や学生との意見交換や討論に運用することができる。また国際的な視野そして思考力を、自らが直面する諸問題を正確に分析し解決するために活用することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

異なる言語や文化的背景を持つ他者と自己との比較により客観的にものごとを判断することができる。また多様な価値観を尊重しながら主体性を持って学び続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

国際的な視野を持ち、多様な価値観を尊重して、状況に応じて適切に判断できる思考力と、あてになる心豊かな国際人として行動できる実行力を備え、学びの重要性和楽しさを知る教養人としての姿勢を保ち続けることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

国際関係学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/international/>

国際学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/international-studies/>)

(概要)

【国際関係学部】

方針概要

国際関係学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学科基礎科目、学科専門科目、学科応用科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 学科基礎科目には、以降の学修の基盤となる導入科目、エリアごとに世界を学ぶ地域研究科目、国際英語科目、中国語科目、地域言語科目を配当し、国際的な視野、豊かな教養の基盤形成を可能としている。

(2) 学科専門科目には、政治経済・多文化共生・世界と日本に関する専門科目と、ビジネスシーンで活用できるアドバンスト英語・中国語科目を配当、より高度な専門的知識・技能、コミュニケーション力を獲得できる科目配置を行っている。

(3) 学科応用科目には、教員や他の学生との協働によるプロジェクトや演習、海外留学、フィールドワーク、インターンシップ等の学外活動に関する科目を配当し、自立心、協調性・協働性、実行力の向上を可能としている。

(4) 卒業研究では、これまでに獲得した能力のすべてを最大限に活用し、主に論文形式による成果物を作成、提出する。この過程を通じて、社会で活用できる総合的な実践力を身につけ、本学科のディプロマ・ポリシーが掲げる要件を満たしていく。

② 教育方法

(1) 学修ポートフォリオの活用とともに、各学期に配当した演習等により、入学から卒業まで少人数教育を実施することで、教員が学生個々のキャリア形成も見据えた学修上のニーズを共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(2) 実践(アクティブラーニング)の要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

③ 教育評価

(1) 各科目の達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。

- (2) 人間力を評価し、足りない部分は指導・強化する。
(3) 4 年間の学修成果を卒業研究(アクティブラーニング)で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が習得されているかを判断する。

【国際学科】

方針概要

国際学科では、国際化する社会の様々な現場で活躍できる、あてになる心豊かな国際人として身につけるべき能力を培うため、全学共通教育科目・学科基礎科目・学科専門科目・学科応用科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

学科基礎科目として、(1) 学修の土台となる「導入科目」、(2) 国際的視野の獲得に必須な語学系科目(国際英語科目、中国語科目、地域言語科目)、(3) エリアごとに世界を学ぶ地域研究科目を配置している。

学科専門科目として、(1) 基礎科目で修得した語学力、コミュニケーション能力をさらに伸ばすアドバンスト英語科目・アドバンスト中国語科目、(2) 国際的な視野で専門的知識・技能を涵養する国際政治経済科目、(3) 多様な価値観を尊重できる豊かな教養を身につける多文化共生科目、世界と日本研究科目を配置している。

学科応用科目として、(1) 学修成果を実行に移す実践科目、(2) 教員や他の学生と意見交換や討論を通じて協調性・協働性を身につけるハイブリッド・プロジェクトとゼミナールを中心とする国際創造プロジェクト・演習科目を配置している。

卒業研究では、これまでに獲得したすべての能力を最大限に活用して、卒業論文の形式などにより成果物を作成することで国際学科での学修を完成させる。

② 教育方法

(1) きめ細かい少人数教育で学修・大学生活をサポートする。1・2 年次は学期ごとに指導教授が交替し、3・4 年次はゼミ担当教員が指導教授となる。

(2) 演習系科目では、教員や他の学生の話に真摯に耳を傾け、自分の言葉で意見を述べるができる傾聴・受信力、そして目標や信念を持って自分で考え行動する力、客観的判断力および課題設定力を養う教育を実施する。

(3) 学部独自の学修ポートフォリオ・システムを利用しながら、学生の学び続ける能力の涵養という視点から教育成果の推移を入学から卒業まで継続的に見守る。

(4) 留学や国内でのインターンシップを利用して、実行力を兼ね備えたあてになる心豊かな国際人として主体的に学ぶ力を伸ばす。

③ 教育評価

(1) 講義科目については、筆記試験やレポート課題への取り組みなどを、ディプロマ・ポリシーで設定した方針ならびに各科目のシラバスにおいて設定された到達目標に即して包括的に評価する。

(2) 演習科目については、参加度、発表の内容や取り組みなどを、ディプロマ・ポリシーで設定した方針ならびに各科目のシラバスにおいて設定された到達目標に即して包括的に評価する。

(3) 卒業研究については、成果物と取り組みなどを、ディプロマ・ポリシーで設定した方針ならびに「卒論評価ルーブリック」に沿って包括的に評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

国際関係学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/international/>

国際学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/international-studies/>)

(概要)

【国際関係学部】

求める人間像 1

本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

高等学校で修得すべき基礎知識・技能を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

他者と協働して課題解決にあたる姿勢・意欲を持ち、大学で学ぶために必要な思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身につけている。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

外国語や国際関係に強い関心を持ち、世界の動きを多面的に理解することを通して、多文化共生や国際的な事象に関わる分野で社会に貢献しようとする意欲がある。

【国際関係学部 国際学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、国際的な事象や世界の動きに関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 国際関係や他文化を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 世界各国・地域の人々の生活や社会制度、英語や中国語などの外国語、国際関係に強い関心と世界の動きを多面的に理解する学習意欲を持ち、積極的に他者とコミュニケーションを図り、多文化共生社会や国際政治・国際経済・国際協力に関わる分野で社会に貢献しようとする意欲がある。

身につけておくと望ましいこと

国語・社会・英語についての基礎学力を有し、政治経済や倫理社会などにも意欲をもって取り組む習慣を身につけておくことが望まれる。

| |
|--|
| 学部等名 人文学部 |
| <p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/humanities/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>【人文学部】 人間の言語、心理、社会・文化、歴史などの事象や活動を対象とする最先端の研究成果を提供し、教育の課程を通じて、学生の自発性や独創性を促し、豊かな教養をもった品位ある人格を育成する。</p> <p>【日本語日本文化学科】 世界の中の日本という視点から、日本語や日本文化を深く理解し、国際社会の中での日本文化の意義を探究し、あわせてそのための読解力、思考力、表現力の練磨をとおして教養ある社会人を育成する。</p> <p>【英語英米文化学科】 高度な英語運用能力を養い、英語圏の言語、社会・文化に対する深く的確な知識と理解力を持ち、積極的に国際社会に参加できる逞しい人間を育成する。</p> <p>【コミュニケーション学科】 現代のメディア・コミュニケーションについての理論と実践的技術を学び、情報の収集、吟味、加工・編集、発信のプロセスを深く理解し、高度情報社会で自立的な判断ができる人間を育成する。</p> <p>【心理学科】 基礎的な研究方法や技術を学び、認知、教育・文化、発達・社会、臨床などの各分野の専門知識を深く理解し、また統合し、こころの問題に対処できる力量をもった健全で成熟した社会人を育成する。</p> <p>【歴史地理学科】 あらゆる事象や問題を「歴史的経緯」と「地理的視野」をあわせて統合的に考察・学習し、現代を生きてゆくために必要な深い洞察力と見識、歴史学的・地理学的センスを身に付けた人間を育成する。</p> <p>【メディア情報社会学科】 膨大な量の情報がメディアを通してあふれかえる現代社会にあって、今後の地域社会にとって次代に残す価値のある有用なメディア情報（＝知＝コンテンツ）を判断する視点を養い、収集・記録、デジタル化・蓄積、データサイエンス等により新たな意味や価値を付与した上で、受信者に適切な形でプロデュースして、提供・発信する能力を身に付けた人間を育成する。</p> |
| <p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法： 人文学部：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/humanities/ 日本語日本文化学科：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/japanese/ 英語英米文化学科：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/english/ コミュニケーション学科：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/communications/ 心理学科：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/psychology/ 歴史地理学科：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/history/ メディア情報社会学科：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/media/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>【人文学部】 方針概要 人文学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、人間や文化を探究</p> |

求する自発性や創造性、豊かな教養をもった品位ある人格の形成を目指し、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

社会人として身の周りの人間や文化を知るために、自立し学び続ける姿勢を身につけることで、社会で必要とされる人文学の専門的知識・技能と豊かな教養を有することができ、知識を分析、整理、統合する技能を駆使できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

人間や文化についての知識・技能を活用するために思考力を向上させ、物事を的確に判断することができ、かつ、その内容を正確に表現でき、かつ実行することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

人文学の素養を備えた社会人として人間や文化を客観視するために自己を理解し対話する能力を身につけ、主体性と公益心をもって多様な人々と協働し、学び続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

国際的視野をもったたくましい社会人として広く人間や文化について調査・情報収集する力を身につけることで、幅広い関心をもつことができ、自立的な課題設定力をもつことで、その課題を探究しようとする意欲をもち、かつ実行することができる。

【日本語日本文化学科】

方針概要

世界の中の日本という視点から、日本語や日本文学、日本文化を深く理解し、国際社会の中でのそれらの意義を探究するための読解力、思考力、表現力を修得した有識社会人として、次の力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

(1) 他者から学ぶ傾聴・受信力をもち、自律的学習活動を実践するとともに、日本語・日本文学・日本文化に関する豊かな教養を身につけることにより、知性と感性をもって物事を判断をすることができる。

(2) ICTを活用し、日本語・日本文学・日本文化に関する専門的知識に基づいた分析ができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 日本語・日本文学・日本文化に関する専門的知識を活用するための思考力を高め、客観的、論理的に物事を判断することができる。

(2) 国内外における日本事情に関する情報の真偽を判断し、自ら積極的に情報を発信することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

様々な視点から日本語・日本文学・日本文化に関する価値観を理解し、社会における諸問題の解決、改善に貢献できるように、多様な人々と協働し、学び続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

日本語・日本文学・日本文化に関する専門的な学識を身につけた者としての自覚をもち、様々な問題に真摯に向きあい、社会的責任を果たすことができる。

【英語英米文化学科】

方針概要

実践的な英語運用能力と英語圏の文化に対する深い知識を備え、国際的・地域的な視野から物事を論理的に考察する能力を実践し、地球規模で活躍できる「たくましい国際人」としての力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

幅広い教養と国際的な視野に立脚し、お互いの言語や文化を尊重する多文化共生社会において、自らの高度な英語運用能力や文化間コミュニケーション能力を積極的

に活用できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

人々や社会におけるさまざまな課題を明確にし、解決するための課題設定力・解決力を身につけ、物事を論理的・批判的に捉え、日本語や英語で議論し、自らの言葉で発信することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自律した学習活動を継続して行い、多様な価値観を尊重しながらも、自らの基軸をもって主体的に行動し、国際社会・多文化共生社会で活躍し、省察することで成長し続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

国際的な視野と実行力を備えた信頼される「たくましい国際人」として、さまざまな社会的活動に参画し、チームの目標を達成するため、チームを動かしメンバーと協働することができる。

【コミュニケーション学科】

方針概要

コミュニケーション学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、優れたコミュニケーション・デザインやコミュニティ・デザインなどで社会の文化情報環境の向上に寄与できる「文化情報デザイナー」として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

他者から学ぶ傾聴・受信力でコミュニケーション・デザイン、コミュニティ・デザインの基礎的知識を身に付け、ICT 活用力でメディア情報やメディア文化を分析するための諸アプローチの技能を駆使することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

高い企画・計画力とクリティカル思考力で情報の価値や真偽を調査して判断でき、情報を的確に表現するコミュニケーション力、プレゼンテーション力をもって責任ある情報発信を行うことができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自己理解力とディスカッション力をもって他者と協働して学ぶことができ、情報格差の少ない社会を実現するコミュニケーション・デザイン、コミュニティ・デザインで社会に貢献する姿勢をもつことができる。

④ 広い関心・自律的意欲

高い調査・情報収集力をもってグローバルな視点から様々な情報に幅広く関心を抱き、課題設定力を駆使して文化情報環境に関する課題を深く探求し、解決しようとする自律的意欲をもつことができる。

【心理学科】

方針概要

心理学に基づいた問題解決が可能となるような専門知識・技法を修得し、それを社会で活用していくための応用力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

社会で役立つ心理学の知識を備え、専門的知識・技能を駆使して課題を発見し、情報処理能力によって問題を分析することで、適切な解決法を模索し、地域に貢献することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

思考力、企画・計画する能力、コミュニケーション能力、実行力を獲得し、説得力をもって現代社会における心理学的な課題への解決法を提案できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

心の時代と言われる現代社会における多様な人の立場を理解し、国内外の知見や動

向に視野を広げ、周囲の人々と関わる協調性・協働性を発揮して、課題に対処して社会に貢献する姿勢をもつことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

傾聴し受信する能力を獲得し、家庭・学校・職場・地域における課題に積極的な関心に向け、人々の幸福と安定の維持・増進に向けて、直接間接の支援をするための意欲をもって行動することができる。

【歴史地理学科】

方針概要

人間や文化を探究する自発性や創造性、豊かな教養をもった品位ある人格をもち、あらゆる事象や問題を歴史的経緯と地理的視野をあわせて総合的に考察し、現代を生きぬくために必要な深い洞察力と見識を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

他者から学ぶ柔軟な傾聴・受信力をもって、歴史的経緯と地理的視野から、日本や世界の現在および過去の様々な事象や問題についての専門的な知識を身につけ、多様な考え方があることの有用性を社会に示すとともに、ICTを活用してその知識や考え方を分断、整理、統合する技術を駆使することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

日本や世界の現在および過去の様々な事象や問題について、歴史的経緯と地理的視野から、固定観念にとらわれず幅広く柔軟に考える姿勢や調査・分析する思考力・判断力を身につけ、高い表現力をもってその成果を社会に提供することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1)歴史的経緯と地理的視野から、現在および過去の様々な事象や問題を客観的に把握し、深く自己を理解しつつ、適切なディスカッションを通じて他者と協働し、社会に貢献する姿勢をもつことができる。

(2)各地域の現在および過去のあらゆる事象に広く関心をもち、歴史的経緯や地理的視野に即して自ら探究できる課題を設定し、調査・情報収集する能力を身につけ、その課題を解決するための意欲を継続的にもつことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

各地域の現在および過去のあらゆる事象に広く関心をもち、歴史的経緯や地理的視野に即して、自ら探究し、現代社会の様々な課題の解決・改善に向けて実行することができる。

【メディア情報社会学科】

方針概要

情報が溢れかえる現代社会にあって、地域社会にとって次代に残す価値のあるメディア情報（＝知＝コンテンツ）を判断する視点を養い、収集・記録、デジタル化・蓄積、データサイエンス等により新たな意味や価値を付与した上で、受信者に適切な形で提供・発信する能力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

豊かな教養をベースに、情報を取捨選択するキュレーションスキルや魅力的な情報提供のためのクリエイションセンスを伴う専門的知識を身につけ、メディア情報や情報社会を分析するための諸アプローチの技能を駆使することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

高い企画・実行力と批判的に思考する能力で次世代に残すべき地域社会のメディア情報の価値を調査に基づき判断し、また情報を的確に表現する能力をもって責任ある情報発信を行うことができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自立し学び続ける能力をもって多様な他者とコミュニケーションをとり議論を通し

て協働することができ、優れたキュレーションスキルやクリエーションセンスをもとに、次世代に残すべき地域社会のメディア情報の蓄積と提供で社会に貢献する姿勢を持続的に持つことができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

高い調査・情報収集力をもってグローバルな視点から様々なメディア情報に幅広く関心を抱き、高い課題設定力にもとづきメディア情報社会に関する課題を深く探究し、解決しようとする自律的意欲をもつことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

人文学部：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/humanities/>

日本語日文化学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/japanese/>

英語英米文化学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/english/>

コミュニケーション学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/communications/>

心理学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/psychology/>

歴史地理学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/history/>

メディア情報社会学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/media/>)

(概要)

【人文学部】

方針概要

人文学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、以下のような教育内容、方法で授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。全学共通教育科目、および学部教育科目として、各学科の専門科目に加えて人文学部共通教育科目、学科横断的教科（グローバル人文教養プログラム・クロスオーバーSDGs プロジェクト）などを体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせ、授業を開講する。

① 教育内容

- (1) 社会で必要とされる豊かな教養と人文学の専門的知識・技能を修得するために、全学共通教育科目の中にスキル教育科目・教養課題教育科目・特別課題教育科目を、また学部教育科目の中に学科専門の基礎的科目を配置している。
- (2) 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得するために、全学共通教育科目の中に初年次教育科目を、学部教育科目の中に学科専門の応用的科目を配置している。
- (3) 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度を獲得するために、全学共通教育科目の中に外国語教育科目とリベラルアーツ教育科目を、学部教育科目の中に学部共通科目を配置している。
- (4) あてになる人間として実行する姿勢を身につけるために、学部教育科目の学部共通科目の中に学部横断科目を、また学部教育科目の学科専門科目の中に演習科目と卒業研究を配置している。

② 教育方法

- (1) 学修ポートフォリオを活用して、各学科教員が問題を共有して、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
- (2) アクティブラーニング（実践的活動を通しての学修）の要素を多く取り入れ、主体的に問題解決に取り組める力を伸ばす。

③ 教育評価

- (1) 各科目で定めた、身につく汎用力の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。
- (2) 学期途中で形成的評価を行い、学修、教え方の両面を調整する。
- (3) 4年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）で行い、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【日本語日本文化学科】

方針概要

日本語日本文化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、日本語日本文化学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。本学科では、基礎能力の修得を基盤とする以下の3コースが設置されている。

【言語コース】日本語について深く学修し、国語教員、日本語教師、司書、一般企業、大学院などの進路を目指す。

【文学コース】日本文学について深く学修し、国語教員、日本語教師、司書、一般企業、大学院などの進路を目指す。

【文化コース】日本文化について深く学修し、国語教員、日本語教師、司書、学芸員、一般企業、大学院などの進路を目指す。

① 教育内容

- (1)日本語・日本文学・日本文化に関する情報の収集力、分析力を修得するために、コース別に豊かな教養、思考力が獲得できる科目を体系的に配置している。
- (2)日本語・日本文学・日本文化に関する情報を積極的に国内外に発信できる表現力、判断力を修得するために、コース別に専門的知識・技能、国際的な視野、多様性が獲得できる科目を体系的に配置している。
- (3)日本語・日本文学・日本文化に関する多様な価値観に関心をもち、社会の諸問題の解決に貢献できる能力を修得するために、コース別に学び続ける能力、協調性・協働性（公益心）が獲得できる科目を体系的に配置している。
- (4)日本語・日本文学・日本文化に関する自律的意欲を身につけ、専門的な学識を修得するために、コース別に自立心、実行力が獲得できる科目を体系的に配置している。

② 教育方法

- (1)指導教授制を敷くとともに、学修ポートフォリオを活用して各学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
- (2)アクティブラーニング（実践的活動を通しての学修）の要素を多く取り入れ、主体的に問題解決に取り組める力を育む。
- (3)少人数ゼミでのきめ細かな教育、手厚い個別指導を行う。

③ 教育評価

- (1)各科目で定めた、身につけるべき力の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。
- (2)学期途中で適宜評価を行い、学生にフィードバックする。
- (3)4年間の学修成果の集大成として卒業研究を行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかどうかを判断する。

【英語英米文化学科】

方針概要

英語英米文化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、英語英米文化学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラム・マップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

本学科では、卒業後に目指す進路別に以下の3つのコースを配置している。

【言語コース】英語運用能力の修得に加え、言語のしくみを中心に学修し、英語を必要とする一般企業、通訳・翻訳、大学院などの進路を目指す。

【教育コース】英語運用能力の修得に加え、言語の学習論・教育論を中心に学修し、英語を必要とする一般企業、英語教員、大学院などの進路を目指す。

【文化コース】英語運用能力の修得に加え、英語圏の歴史・文化や文化間コミュニケーションを中心に学修し、英語を必要とする一般企業、大学院などの進路を目指す。

①教育内容

(1)国際社会・多文化共生社会に生きる「たくましい国際人」に求められる言語・文化に対する深い知識と高度な英語運用能力、思考力・実行力が修得できる科目を体系的に配置している。

(2)国際的な視野を備えた「たくましい国際人」として、課題設定力・解決力、思考力、実行力を身に付け、物事を論理的・批判的に捉えることができる科目を体系的に配置している。

(3)多様な価値観を尊重しながらも、自らの基軸をもって主体的に行動できる「たくましい国際人」として、日本語や英語で議論し、豊かな教養と専門的知識・技能を活用し、自ら発信する

力が修得できる科目を体系的に配置している。

(4)さまざまな社会的活動に参画し、自ら行動できる自立心と、チーム全体で目標を達成する協調性と協働性を養う科目を体系的に配置している。

② 教育方法

(1)アクティブラーニングの要素を取り入れ、学生が自ら思考し、論理的にまとめ、適切なことばで発信するという学生主体の学修活動を日本語と英語で行う。

(2)長期海外研修をとおして、ディプロマ・ポリシーに定めた国際的な視野や自立心、実行力を身に付け、英語運用能力と文化間コミュニケーション能力を向上させる実践の機会を提供する。

(3)高度な英語運用能力を身に付けるため、英語コミュニケーション科目のほか、英語で学ぶ科目、自主活動科目、さまざまな留学プログラム、留学生との交流の場を提供し、より実践的な教育を実施する。

③ 教育評価

(1)各科目の達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。

(2)英語運用能力は、日常的な英語によるコミュニケーションで確認するとともに、卒業までに6回受験するTOEIC®によって評価し、世界標準基準に基づいて各自の英語運用能力を把握する。

(3)4年間の学修成果として卒業研究を行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかどうかを判断する。

【コミュニケーション学科】

方針概要

コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、コミュニケーション学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。

本学科では、卒業後に目指す進路によって以下の3つのコースを履修モデルとして示して履修すべき科目を提示している。

【文化情報デザイン資格取得コース】中学／高校教員・学芸員・司書・日本語教員などの進路を目指す。

【文化情報デザインクリエイターコース】実写・アニメ・Web制作などの進路を目指す。

【文化情報デザイン力に長けた良き一般市民コース】一般企業などの進路を目指す。

① 教育内容

(1)コミュニケーション・デザインとコミュニティ・デザインの基礎的知識、及び、メディア情報やメディア文化を分析する諸アプローチの技能の修得のために、コース別に傾聴・受信力、ICT活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。

(2)情報の価値や真偽を読み取れる思考力・判断力、及び、的確な形で責任ある情報

発信を行える表現力の修得のために、コース別に企画・計画力、クリティカル思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が獲得できる科目を体系的に配置している。

(3) 情報格差を削減するコミュニケーション・デザインとコミュニティ・デザインの構築に向けて、協働して学ぶ態度・社会に貢献する姿勢の修得のために、コース別に自己理解力、ディスカッション力が獲得できる科目を体系的に配置している。

(4) グローバルな視点からの様々な情報に対する幅広い関心、及び、文化情報環境に関する課題を深く探求し、解決しようとする自律的意欲の修得のために、コース別に調査・情報収集力、課題設定力が獲得できる科目を体系的に配置している。

② 教育方法

(5) 各科目はディプロマ・ポリシーで定めた身に付けるべき力のうち、2つの力が付くような教育方法を実施する。

(6) 指導教授制を敷くとともに、学生カルテを活用して、各学科教員が問題を共有して、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7) 主体的に問題解決に取り組める力を育むため、アクティブラーニング(実践的活動を通しての学修)の要素を多く取り入れる。とりわけ、プロジェクトを推進する科目においては、学内外の他者との実践的協働作業を取り入れる。

③ 教育評価

(8) 各科目で達成目標・到達度を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9) 各科目で定めた、身に付けるべき力の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。

(10) 学期途中で形成的評価を行い、フィードバックし、学修、教え方の両面を調整する。

(11) 4年間の学修の集大成として提出される卒業研究プロジェクト(アクティブラーニング)のポートフォリオから、ディプロマ・ポリシーに定めた能力の修得が実現できたかどうかを判断する。

【心理学科】

方針概要

心理学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、心理学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

本学科では、卒業後目指す進路別に取得するのにふさわしい以下の2つのコースを配置している。

【心理専門家コース】心理系公務員、大学院進学、公認心理師を目指す。

【心理ジェネラリストコース】教職、司書、一般公務員、教育系企業、一般企業への就職を目指す。

① 教育内容

(1) 現代社会における課題に対して、心理学研究法を駆使した調査・情報収集・分析するための知識・技能を修得すべく、コース別に情報収集能力および情報処理能力が獲得できる科目を体系的に配置している。

(2) 現代社会における課題に対して、心理学に基づく説得力を持った解決法を提案するための思考力・実行力が得られるように、全学生が企画・計画する能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーションをする力が身につく科目を体系的に配置している。

(3) 多様な人の立場を尊重し、協働して学ぶ態度、社会に貢献する姿勢を育成するために、全学生が自他のことを深く理解し協調性・協働性が身につく科目を体系的に配置している。

(4) 心理学的視点から現代社会の課題を系統立てて捉え、自ら解決するための広い関

心・自律的意欲の修得のために、コースごとに傾聴し受信する能力および課題を設定する力が獲得できる科目を体系的に配置している。

② 教育方法

- (1)学修ポートフォリオ（学生カルテ）を活用して、各学科教員が問題を共有して、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
- (2)アクティブラーニング（実践的活動を通しての学修）の要素を多く取り入れ、主体的に問題解決に取り組める力を育む。

③ 教育評価

- (1)各科目で定めた、身に付けるべき力の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。
- (2)学期途中で適宜、評価を行い、学生にフィードバックする。
- (3)4年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【歴史地理学科】

方針概要

歴史地理学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、歴史地理学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。

本学科では、以下の2つの教育内容のコースを配置している：

【歴史学コース】歴史学と地理学を共に学び、歴史学を専門的に学修する。

【地理学コース】歴史学と地理学を共に学び、地理学を専門的に学修する。

① 教育内容

- (1)現代社会の事象や問題を歴史学的、地理学的視点から考察し、様々な文章及び史資料から情報を読み取る知識・技能を修得するために、コース別に豊かな教養、専門的知識・技能、国際的な視野、多様性が獲得できる科目を体系的に配置している。
- (2)現代社会の事象や問題を歴史学的、地理学的視点から考察し、解決方法を示す思考力・判断力・表現力を修得するために、コース別に思考力が獲得できる科目を体系的に配置している。
- (3)史資料の保存・活用や地域の状況把握・活性化などの諸活動に関心をもち、様々な問題を解決する社会人として協働して学ぶ態度・社会に貢献する姿勢の修得のために、コース別に学び続ける能力、協調性・協働性（公益心）が獲得できる科目を体系的に配置している。
- (4)歴史学的・地理学的センスを身につけた社会人としての広い関心・自律的意欲を修得するために、コース別に自立心、実行力が獲得できる科目を体系的に配置している。

② 教育方法

- (1)指導教授制を敷くとともに、学修ポートフォリオを活用して、各学科教員が問題を共有して、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
- (2)主体的に問題解決に取り組める力を育むため、アクティブラーニング（実践的活動を通しての学修）の要素を多く取り入れる。特に、フィールドワークや史料読解の演習では、その要素を重視する。
- (3)少人数ゼミで、きめ細やかな教育、手厚い個別指導を行う。

③ 教育評価

- (1)各科目で定めた、身に付けるべき力の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。
- (2)学科途中で適宜、評価を行い、学生にフィードバックする。
- (3)4年間の学修成果の集大成として卒業研究を行い、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【メディア情報社会学科】

方針概要

メディア情報社会学科では、DPに掲げる目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、メディア情報社会学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。本学科では、卒業後に目指す進路によって以下の2つのコースを履修モデルとして示して履修すべき科目を提示している。

【情報社会コース】

学芸員・司書・デジタルアーキビストなどの活動領域とデータサイエンス領域を包摂する総合的な高い情報キュレーションスキルを身につけた人材を育成する。

【メディア情報コース】

記録・発信の表現手法として、ドローン撮影やVR撮影を含む効果的な写真・動画・アニメーション・音響・ゲーム等の制作スキルを身につけた高いクリエイションセンスを身につけた人材を育成する。

② 教育内容

(1) 情報キュレーションスキルとクリエイションセンスを養うための専門的知識、及び情報社会やメディア情報を分析する諸アプローチの技能の修得ができる科目を体系的に配置している。

(2) 地域社会のメディア情報の価値を読み取れる思考力・判断力、及び的確な形で責任ある情報発信を行える表現力と自立心を修得できる科目を体系的に配置している。

(3) 優れたキュレーションスキルやクリエイションセンスをもとに、次代に残すべき地域社会のメディア情報の蓄積と提供を多様な人々と協働して学ぶ態度や社会に貢献する公益心を修得できる科目を体系的に配置している。

(4) 国際的な視野からの様々な情報に対する幅広い関心、及び地域社会のメディア情報の環境に関する課題を深く探究し、解決しようとする実行力と学び続ける能力の修得できる科目を体系的に配置している。

② 教育方法

(1) 指導教授制を敷くとともに、学修ポートフォリオを活用して、各学科教員が問題を共有して、DPの実現を図る。

(2) 主体的に問題解決に取り組める力を育むため、アクティブラーニング(実践的活動を通しての学修)の要素を多く取り入れる。とりわけ、地域貢献に資するOJT (on-the-job-training) 型プロジェクトを推進する科目においては、学内外の他者との実践的協働作業を多く取り入れる。

③ 教育評価

(1) 各科目で定めた、身に付けるべき力の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。

(2) 学期途中で適宜評価を行い学生にフィードバックする。

(3) 4年間の学修の集大成として提出される卒業研究プロジェクトの活動記録ポートフォリオから、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを学科共通のルーブリック評価によって判断する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

人文学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/humanities/>

日本語日本文化学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/japanese/>

英語英米文化学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/english/>

心理学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/psychology/>
歴史地理学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/history/>
メディア情報社会学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/media/>)

(概要)

【人文学部】

求める人間像 1

本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

高等学校で修得すべき基礎知識・技能を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

他者と協働して課題解決にあたる姿勢・意欲を持ち、大学で学ぶために必要な思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身につけている。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

人間や文化に関わる分野に強い関心と高い学習意欲をもち、人文学の素養を身につけたたくましい社会人として、社会に貢献しようとする意欲がある。

【日本語日本文化学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、日本語・日本文学・日本文化に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 日本語・日本文学・日本文化を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 日本語・日本文学・日本文化をはじめ人間や文化に強い関心と高い学習意欲をもち、日本の言語や文化に関する深い知識と理解力を活かすことのできる領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

身につけておくと望ましいこと

高等学校の教育内容(国語・歴史)の基礎などを幅広く理解し、読書を習慣化することが望まれる。自分の考えを伝えるための表現力と他者とのコミュニケーションをとる積極性が望まれる。

【英語英米文化学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、英語圏の言語や文化、教育に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 英語だけでなく、英語圏の歴史や社会や文化、日本における英語教育を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 英語圏の言語・文化をはじめ人間や文化に強い関心と高い学習意欲をもち、本格的な英語運用能力と異文化理解力を活かすことのできる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

身につけておくとうれしいこと

高等学校における英語や国語などの教育内容を理解し、自律した学習習慣を身につけておくことが望まれる。英語で積極的にコミュニケーションをとろうとする意欲と英語圏の文化に対する強い関心があることが望まれる。ことばに対する強い関心があり、基礎的な英語運用能力を備え、さらに高めたいという意欲を有していることが望まれる。

【心理学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、人の「こころ」に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 心理学の幅広い領域を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 人の「こころ」をはじめ人間や文化に強い関心と高い学習意欲をもち、「こころ」に関する問題を論理的に解明し、表現する力を活かすことのできる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

身につけておくとうれしいこと

調査や実験等で得られたデータを統計的に分析するための数学的能力、論理的思考力を身につけておくことが望まれる。結果を読み取り、理解し、筋道たてて記述するための国語力を身につけておくことが望まれる。海外の文献を読むための英語力を身につけておくことが望まれる。

【歴史地理学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、歴史学・地理学に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 歴史学・地理学を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 歴史や地理をはじめ人間や文化に強い関心と高い学習意欲をもち、歴史学・地理学の専門知識と研究方法を活かすことのできる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

身につけておくとうれしいこと

高等学校で学習する国語、社会、英語の内容を理解しておくことが望まれる。歴史または地理について自分の興味ある内容を積極的に説明できることが望まれる。

【メディア情報社会学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、メディア・情報・地域社会をはじめ、人間や文化に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) メディア・情報・地域社会をはじめ、人間や文化を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) メディア情報・地域社会をはじめ人間や文化に強い関心と高い学習意欲をもち、高度なキュレーションスキルとクリエーションセンスを活かすことのできる領域を通して、末長く社会に貢献する意欲がある。

身につけておくと望ましいこと

メディアの影響について考える姿勢を身につけておくことが望まれる。筋道の立った文章を書くための文章力を身につけておくことが望まれる。他者に自分の考えを表明できるコミュニケーション能力を身につけておくことが望まれる。社会の中の出来事に関心をもつ姿勢を身につけておくことが望まれる。インターネット上の情報の真偽について考える習慣を身につけておくことが望まれる。

| |
|---|
| 学部等名 応用生物学部 |
| <p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/biology/)</p> <p>(概要)</p> <p>【応用生物学部】 現代の生物科学の爆発的な発展の状況を受け、21 世紀のバイオ産業すなわち生物の機能を応用して人間生活に有用な物質生産や自然環境保全および食育環境の向上を目的とする産業および民政部門で活躍する職業人を育成する。</p> <p>【応用生物化学科】 バイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として、微生物や動植物の多様な生物機能の利用技術を支え、発展させるとともに、先端の生物科学の情報にも精通し、人類の生存に有用な手段を提供し、広くバイオ産業界で活躍しうる人間を育成する。</p> <p>【環境生物科学科】 環境に関わるバイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として、環境の状況を科学的に評価し、循環型社会の実現と地球環境問題を解決する能力のある人間を育成するとともに、あらゆる産業・社会分野において環境問題に極めて意識の高い職業人・技術者・社会人を育成する。</p> <p>【食品栄養科学科】 最先端のバイオサイエンス、バイオテクノロジーに関する基礎教育を基盤として、現代の食を取り巻く種々の状況・問題を理解、解決するための知識や技術を習得し、食品産業界のみではなく、医薬品・健康産業や生物生産業など広い分野で活躍できる「食と健康」に関するプロフェッショナルを育成する。</p> |
| <p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法： 応用生物学部：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/biology/ 応用生物化学科：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/biochemistry/ 環境生物科学科：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/environment/ 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/food-nutrition/ 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/health-nutrition/)</p> <p>(概要)</p> <p>【応用生物学部】 方針概要 応用生物学部の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と応用生物学に関する専門知識・技能を修得し、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。</p> <p>① 社会で必要とされる知識・技能 「生命」「環境」「資源」「食」のエキスパートとして活躍するために社会で必要とされる知識・技能、調査・情報収集力、課題設定能力を修得し、SDG s の実現に貢献できる。</p> <p>② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力 「生命」「環境」「資源」「食」のエキスパートとして、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。</p> <p>③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度 応用生物学の知識や技能に基づいたコミュニケーション能力を活用し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度を身につけ、持続可能な社会の実現に貢献できる。</p> <p>④あてになる人間として実行する姿勢 (1) チームの目標達成や成長に向けて自己の責任役割を理解し、メンバーと協働するこ</p> |

とができる。(メンバーシップ)

(2) チームの目標達成や成長に向けてメンバーの意識を高め、集団として成果を上げるためにチームを動かす。(リーダーシップ)

【応用生物化学科】

方針概要

応用生物化学科の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、「遺伝子と生物機能」に関する基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、そして自ら学び続ける能力を身に付けた、専門職業人・有識社会人として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

「遺伝子と生物機能」を理解する基盤となる自然科学の知識と技術を身に付けるとともに、専門職業人・有識社会人として必要な情報調査収集力、課題設定力、情報通信技術の活用力等々の知識・技能を身に付け、様々な分野で活用できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 「遺伝子と生物機能」を活用する専門職業人・有識社会人として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。

(2) 「遺伝子と生物機能」に関連する食料、環境、生命、健康およびエネルギーなどの分野での問題点を抽出・分析し、グローバルな視点で解決する能力を身につけている。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

「遺伝子と生物機能」を活用する専門職業人・有識社会人として、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

④ あてになる人間として実行する姿勢

「遺伝子と生物機能」に関する知識と技術に基づいて、社会における課題を認識し、チームでそれらを解決できる。さらにその目標を達成するために、自己の責任と役割を理解し、メンバーと協調して行動することができる。

【環境生物科学科】

方針概要

「環境生物」に関連する高度な専門知識、技術、スキルと、それらを実社会で活用する能力、さらに自ら学び続ける能力を有した専門職業人・有識社会人として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

「環境生物学」を理解する基盤となる自然科学の知識と技術を身につけるとともに、専門職業人・有識社会人として活躍するために要求される知識・技能、スキル、調査・情報収集力、課題設定力を修得し、生物多様性を担保した持続可能な社会の実現に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

生物多様性を担保した持続可能な社会の実現に向けて、論理的・客観的に多様な角度から検討できる思考力・判断力・表現力等の能力を修得したリーダーとしてグローバルに貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

「環境生物学」に関わる知識・技能を活用できる専門職業人・有識社会人として、多様な人間と協働で問題解決できる知識・技能・行動力を有する。生涯を通じて、自立した学習により生物多様性を担保した持続可能な社会の実現に貢献できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

グローバルな視点から、生物多様性を担保した持続可能な社会の実現のための問題

抽出、解決策を立案できる。多様な主体（行政、企業、民間団体等）と協働して取り組むことができる。

【食品栄養科学科 食品栄養科学専攻】

方針概要

グローバルで高い教養を身に付け、「食」と「栄養」に関する高度な専門知識・技能と情報収集能力を備え、自律的に学び、「食」に関わる多様な課題の発見と解決を実践できる力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

「食のプロフェッショナル」として豊かな教養と必要な専門知識・技能を修得し、食を通してすべての人が豊かさを享受できる社会の実現に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 「食」に関わる課題の発見とその解決のために自ら考え、行動できる。

(2) 国際的な視点で食に関わる研究や成果を俯瞰し、多くの情報を精査しながら正しい情報を発信できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

個人や社会の多様性を理解すると同時に自らの目標と信念を持って、「食」の生産・製造から品質、栄養・機能まで目まぐるしく変化する「食」の諸問題の解決のために必要な知識を学び続け、多様な人と協働でき、柔軟に対応する能力を身につける。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) 「食」に関わる情報を収集し、自己の役割を認識しながら的確に諸課題に対処できる。

(2) 目標設定と計画の実行のためにリーダーシップをとって行動することができる。

【食品栄養科学科 管理栄養科学専攻】

方針概要

生命の尊厳を尊重し、栄養管理を通して人々の健康で幸福な生活の営みに貢献できる幅広い栄養の専門知識と技術を修得した資質に優れた管理栄養士に値する以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

栄養管理を通じた人々の健康維持・増進や疾病予防・改善のために管理栄養士の専門職として必要な知識・技術や調査・情報収集能力を修得し、科学的根拠に基づいた栄養指導で社会に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 人々の多様化する健康問題に対し、栄養管理の計画を立案し、その実践に向けての思考力と判断力を身につけ、一人ひとりの健康保持・増進に寄与することができる。

(2) 食と健康に関する研究成果を評価する方法を身につけ、常に新しい知見を習得し学び続けることができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 栄養管理を必要とする人々に関わる関係者の役割を理解し、そのリーダーである管理栄養士として協働することで、より健康な生活の実現に貢献できる。

(2) 国際的な視野に立ち、様々な食文化について学び続け、国内外の多様化する栄養問題の改善に貢献できる

④ あてになる人間として実行する姿勢

食を提供するチームにおける栄養管理のリーダーとしての自覚を持ち、人々の健康保持・増進や疾病予防・改善のため、他職種のメンバーと協調し協働することにより、その問題解決に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

応用生物学部：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/biology/>

応用生物化学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/biochemistry/>

環境生物科学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/environment/>

食品栄養科学科 食品栄養科学専攻：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/food-nutrition/>

食品栄養科学科 管理栄養科学専攻：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/health-nutrition/>)

(概要)

【応用生物学部】

方針概要

応用生物学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、応用生物学部共通教育科目、応用生物学部各学科の学科専門科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 応用生物学の基礎となる科目は、1年次に履修するように配置し、化学、生物学を中心とした自然科学の基礎科目を学び、それらの履修を通して社会で必要とされる知識・技能修得の基盤を身につけ、以降の方向付けができるようにしている。

(2) 2, 3年次に履修する科目は、応用生物学に関する知識・技術により「生命」「環境」「資源」「食」のエキスパートとして求められる豊かな教養、専門知識・技能、思考力が獲得できるように、体系的に配置している。

(3) 4年次に履修する科目は、「生命」「環境」「資源」「食」のエキスパートとして、それぞれに求められる学び続ける能力、自立心、実行力を身につけられるように体系化している。

(4) 応用生物学の知識や技能を基に協調性・協働性、多様性、国際的な視野修得のため、主体性をもち多様な人と協働し学ぶ態度を育成し科学的方法論による論理的なコミュニケーション能力が得られるよう科目を配置している。

② 教育方法

(1) 各科目は、知識・技能以外の複数の能力が身につくような教育方法を実施する。

(2) 各学年次に学修ポートフォリオを活用して学部教員が出席状況などの問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(3) アクティブラーニングの要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

③ 教育評価

(1) 各科目の達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。

(2) 知識・技能以外の能力修得の達成度を評価し、足りない部分は指導・強化する。

(3) 4年間の学修成果を「卒業研究」で行い、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【応用生物化学科】

方針概要

応用生物化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、応用生物学部共通教育科目、応用生物化学科専門科目および応用生物化学科関連科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 「遺伝子と生物機能」を学ぶ上で基礎となる科目は1年次に履修するように配置し、化学、生物学を中心とした自然科学の基礎科目を学ぶ。それらの履修を通して社会で必要とされる知識・技能修得の基盤を身につけ、以降の学修や進路の方向付けができるようにしている。

(2) 2、3年次に履修する科目は、「遺伝子と生物機能」に関する知識・技術により社会で活躍できる専門職業人や有識社会人として求められる専門的知識・技能、協調性・協働性、自立心が獲得できるように、体系的に配置している。

(3) 4年次に履修する科目は、「遺伝子と生物機能」の活用に取り組む専門職業人や有識社会人として、それぞれに求められる思考力、学び続ける能力、実行力を身に付けられるように体系化している。

(4) 「遺伝子と生物機能」に関する知識・技能を基礎に、豊かな教養と国際的な視野を修得し、多様な世界を学べる科目を配置している。

② 教育方法

(1) 各科目は、知識・技能以外の複数の能力についても身につくよう、教育方法を配慮し実施する。

(2) 各学年次に指導教授制を敷くとともに、出席状況などの学生ポートフォリオを活用して学部教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(3) アクティブラーニングの要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

③ 教育評価

(1) 各科目の達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。

(2) 知識・技能以外の能力修得についても達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。

(3) 4年間の学修成果を「卒業研究」で行い、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【環境生物科学科】

方針概要

環境生物科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、応用生物学部共通教育科目、環境生物科学科専門科目および環境生物科学科関連科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 生物学、化学を中心とした自然科学の基礎科目を1年次に配置し、「環境生物学（生物、環境、その関連性）」に関する知識・技能修得の基盤を身に付け、以降の方向付けができるようにしている。

(2) 2、3年次に履修する科目は、「環境生物学」に関わる専門職業人や有識社会人として活躍するために求められる知識・技能、スキル、調査・情報収集力、課題設定力を獲得できるよう体系的に配置し、自らのキャリア形成ができるように「環境生物科学コース」、「応用動物科学コース」の2つのコースを履修モデルとして示して推奨選択科目を明示している。

(3) 4年次に履修する「卒業研究」は、「環境生物学」に関わる専門職業人や有識社会人として、それぞれに求められる知識・技能、スキル、調査・情報収集力、課題設定力を身につけられるよう体系化している。

(4) 「環境生物学」に関する知識・技能を基礎とした生物多様性を担保した持続可能な社会の実現に向けて、論理的・客観的に多様な角度からグローバルに検討できる思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、主体性をもち多様な人と協働し、生涯を通じて学び続けることのできる能力・態度が育成できる科目を配置している。

② 教育方法

(1) 各科目は、専門的知識・技能以外にも、思考力、自立心、協調性・協働性（公益心）、実行力が身につくような教育方法を実施する。

(2) 各学年次に指導教授制を敷くとともに、出席状況、成績などの学生カルテを活用して学部教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(3) 実践的（アクティブラーニング、フィールドワーク）の要素を多く取り入れ、主

体的な学の力を伸ばす。

③ 教育評価

- (1) 各科目の達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。
- (2) 知識・技能以外の思考力、自立心、協調性・協働性（公益心）、実行力についても能力修得の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。
- (3) 4年間の学修成果を「卒業研究」で行い、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【食品栄養科学科 食品栄養科学専攻】

方針概要

食品栄養科学科食品栄養科学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、応用生物学部基礎科目、食品栄養科学科食品栄養科学専攻専門科目および関連科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

- (1) 「食」と「栄養」に関する基礎となる科目は1、2年次に配置し、化学、生物学を中心とした自然科学の基礎科目を学ぶとともに、「食のプロフェッショナル」として社会で必要とされる知識・技能の基盤を身に付け、豊かな教養、専門的知識・技能を身につけるようにしている。
- (2) 2、3年次に履修する科目は、知識・技能を活用する思考力・自立心、「食」に関わる課題の発見とそれを解決する力を養い、さらに国際的な視点で食に関わる研究や成果を俯瞰し、精査しながら正しい情報を発信するための国際的な視野、実行力、専門的知識・技能を獲得し、自ら考え、行動できるよう体系的に配置している。
- (3) 3、4年次に履修する科目は、食産業に従事する専門職業人や有識社会人として、「食」の生産・製造から品質、栄養・機能まで目まぐるしく変化する「食」の諸問題の解決のために、それぞれに求められる自立心、思考力、協調性・協働性、多様性、学び続ける能力を身につけられるように配置している。
- (4) 食産業に従事するための知識・技能を基に、自ら「食」に関わる情報を収集し、自己の役割を認識しながら的確に諸課題に対処する自立心、目標設定と計画の実行のためにリーダーシップをとって行動することができる実行力が育成できる科目を配置している。

② 教育方法

- (1) 各科目は、知識・技能以外の複数の能力についても身につくよう、教育方法を配慮し実施する。
- (2) 各学年次に指導教授制を敷くとともに、出席状況や学修ポートフォリオなどを活用して学部教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
- (3) 実践的要素（アクティブラーニング）を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

③ 教育評価

- (1) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。
- (2) 知識・技能以外の能力修得についても達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。
- (3) 4年間の学修成果のまとめを「卒業研究」で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が習得されているかどうかを判断する。

【食品栄養科学科 管理栄養科学専攻】

方針概要

食品栄養科学科管理栄養科学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、応用生物学部共通教育科目、食品栄養科学科管理栄養

科学専攻専門科目および関連科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 科学的根拠に基づいた栄養指導のできる管理栄養士を育成するための基礎として、化学、生物学を中心とした自然科学の基礎科目を1年次に配置し、以降の学年で修得する専門科目、実験・実習に取り組めるようにしている。

(2) 2、3年次に履修する科目は、栄養管理を基盤とした食と健康に関する専門的知識・技能により社会で活躍できる管理栄養士に求められる調査・情報収集力、課題設定力、ICT活用力が獲得できるよう体系的に配置している。また、校外実習により管理栄養士に必要な協調性・協働性の実際を体験できるようにしている。

(3) 4年次に履修する科目は、3年次までに修得したそれぞれの基礎的、専門的知識・技能を横断的に学習し、栄養評価や管理がより実践的に組み立てることのできる思考力を獲得できるよう科目を配置している。

(4) 食と健康に関する卒業研究を通して、問題解決に対し自主的に取り組める実行力と自立心を養っている。

② 教育方法

(1) 各科目は、知識・技能以外の複数の能力についても身につくよう、教育方法を配慮し実施する。

(2) 各学年次に指導教授制を敷くとともに、出席状況などの学生カルテを活用して学部教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(3) 実験、実習、演習を通じた実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

③ 教育評価

(1) 各科目の達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。

(2) 知識・技能以外の能力修得についても達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。

(3) 4年間の学修成果を「卒業研究」で行い、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：

応用生物学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/biology/>

応用生物化学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/biochemistry/>

環境生物科学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/environment/>

食品栄養科学科 食品栄養科学専攻：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/food-nutrition/>

食品栄養科学科 管理栄養科学専攻：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/health-nutrition/>

（概要）

【応用生物学部】

求める人間像1

本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像2（知識・技能）

高等学校で修得すべき基礎知識・技能を有している。

求める人間像3（思考力・判断力・表現力）

他者と協働して課題解決にあたる姿勢・意欲を持ち、大学で学ぶために必要な思考力、

判断力、表現力、コミュニケーション力を身につけている。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

バイオサイエンス・バイオテクノロジーや食・栄養分野に強い関心と高い学習意欲をもち、バイオ・食品・栄養・健康に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

【応用生物化学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、バイオサイエンスとバイオテクノロジーに関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) バイオサイエンスとバイオテクノロジーを学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

(6) 植物、動物、微生物のバイオサイエンスとバイオテクノロジーに強い関心と高い学習意欲をもち、医療や医薬品・食品などのバイオサイエンスとバイオテクノロジー分野に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

身につけておくこと望ましいこと

高等学校の教育内容（化学、生物、数学など）を理解し、日常的な学習習慣を確立しておくことが望まれる。

自分の考えを表現できること、および筋道の通った文章が書けることが望まれる。

【環境生物科学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、持続可能な社会実現に必要な環境・生物に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) バイオサイエンスとバイオテクノロジーを基礎とした環境・生物を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

(6) バイオサイエンスおよびバイオテクノロジーを応用した環境生物学に強い関心と高い学習意欲をもち、環境評価や環境問題の解決に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

身につけておくこと望ましいこと

高等学校の生物・化学の基礎知識を習得し、環境・生物に関連する自然科学分野の文章読解力、作文能力を身につけておくことが望まれる。

【食品栄養科学科 食品栄養科学専攻】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、バイオサイエンスを基盤とした食と栄養に関する科学に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 「食」や「栄養」に関わる分野を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 「食」や「栄養」に強い関心と高い学習意欲をもち、食品科学と栄養科学に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

身につけておくとう望ましいこと

高等学校の教育内容(特に国語、生物・化学、英語の基礎など)を理解し、日常的な自己学習の習慣を身につけておくことが望まれる。自分の考えを伝えるための表現力と他者とのコミュニケーションをとる積極性を身につけておくことが望まれる。

【食品栄養科学科 管理栄養科学専攻】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、食を通じた人の健康に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 栄養学を基盤とした食品の機能と人体の機能を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 「食」と「健康」に強い関心と高い学習意欲をもち、国家資格としての管理栄養士に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

身につけておくとう望ましいこと

高等学校の国語、化学(化学基礎)、生物(生物基礎)などを理解しておくことが望まれる。管理栄養士の活躍する場とその役割を調べ、理解しておくことが望まれる。

| |
|---|
| 学部等名 生命健康科学部 |
| 教育研究上の目的 (公表方法: https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/life-health/) |
| <p>(概要)</p> <p>【生命健康科学部】 生活習慣病の拡大や新型コロナウイルスの増加など 21 世紀型の健康・医療に関する諸課題に対し、豊かな人間性とともて医学と生命科学の基礎を修得し、十分なバイオ・創薬・医用工学技術あるいは保健・看護学を基盤とした専門的技術を身に付けて、学際的な新たな立場で対応できる有能な人間を育成することを通じて社会に貢献する。</p> <p>【生命医科学科】 豊かな人間性の涵養教育および医学と生命科学の基礎教育を徹底した上で、21 世紀型の疾病と健康不安のしくみを解明し、これを予防し診断・治療するための薬物、資材、機器、技術を開発する研究者、技術者、ならびに生活・職場環境を保健予防の視点で保全する専門家、ならびに関連学問領域の教育研究者の候補を育成する。</p> <p>【保健看護学科】 看護学の専門教育ならびに医学と生命科学の基礎的教育を通じて、豊かな人間性を備え、人間の尊厳と権利を擁護でき、人々に信頼される実践力をもち、保健・医療・福祉チームにおいて、国際社会の動向を見据えたグローバルな視野でコラボレーション、リーダーシップを発揮できる看護師、保健師を育成する。</p> <p>【理学療法学科】 医科学・医療・福祉を総合的に捉えた障害者支援科学を教育研究し、豊かな人間性を備え、医学の進歩と医療技術の高度化・専門分化や障害者の増加と高齢化社会における病気の重度化・重複化などの諸問題に対応できる専門職業人としての理学療法士を養成する。</p> <p>【作業療法学科】 医科学・医療・福祉を総合的に捉えた障害者支援科学を教育研究し、豊かな人間性を備え、医学の進歩と医療技術の高度化・専門分化や障害者の増加と高齢化社会における病気の重度化・重複化などの諸問題に対応できる専門職業人としての作業療法士を養成する。</p> <p>【臨床工学科】 医科学・医療を総合的に捉えた上で、最先端の医療機器の操作・維持管理について教育研究し、豊かな人間性を備え、幅広い総合性と高い専門性を修得して、医学の進歩と医療技術の高度化・専門分化や高齢化社会における病気の重度化・重複化などの諸問題に対応できる専門職業人としての臨床工学士を養成する。</p> <p>【スポーツ保健医療学科】 人間の健康の保持・増進と疾病予防等の病気に関する十分な知識を備えた上で、現代病の発症予防と健康の増幅に有用な水泳、エアロビクス運動、レクリエーションなどの健康運動（健康・生涯スポーツ等）の理論と実技を習得し、その知識・技術を科学的・医学的根拠に基づいて的確に活用して、中高年者、心身の障害者、その他の理由で身体運動が不活発な者を主な対象とした「健康運動」の安全かつ効果的な実践を適切に指導できる「健康運動を活用する保健医療の推進者」としての専門性を備えた人材を育成する。</p> |
| 卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: 生命健康科学部: https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/life-health/ 生命医科学科: https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/medicine/) |

保健看護学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/nursing/>
理学療法学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/physical-therapy/>
作業療法学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/occupational-therapy/>
臨床工学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/clinical-engineering/>
スポーツ保健医療学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/sports/>)

(概要)

【生命健康科学部】

方針概要

生命健康科学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位、ただし保健看護学科については 124 単位を修得し、各学科独自の教育理念を身につけチーム医療に貢献できる専門性を備えた人材として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

各学科独自の教育目標から、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力など社会人として必要な豊かな教養を獲得し、そのうえで各学科の専門的知識・技能を修得することにより、広い視野を持った医療専門職として活躍できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

各学科独自の教育目標から、プレゼンテーション、企画・計画、クリティカルシンキングができる専門的知識・技能や思考力を身につけ、専門職業人のリーダーとして職域あるいは地域社会に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

各学科独自の教育目標から、学修の中で獲得したコミュニケーション能力、ディスカッション能力、傾聴・受容能力、自己探求能力を活用しながら、つねに学び続ける能力を有する国際的視野を持った専門職業人として人々の多様性を尊重し、多職種間、関係者間の協調性・協働性をもって自立して物事の対処ができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

各学科独自の教育目標から、専門的知識・技能、思考力、国際的な視野をもって社会的な保健医療福祉ニーズの把握と対処ができ、専門職業人として、生活に密着しながら地域の人々に信頼される実行力のある人材として社会に貢献できる。

【生命医科学科】

方針概要

人間の尊厳に基づいた心豊かな人間性を形成し、専門的・社会的要請に応じられる生命科学の基礎能力を養い、創造性豊かな資質を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、時代に即した疾病構造を把握し、その病態解明や予防・治療のために生命医科学の基礎知識を説明できる。豊かな人間性と習得した生命医科学を基盤として、健康予防の重要性を正しく伝えることができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身につけ生命医科学の知識やその技術の背景を説明することができ、その知識や技術を応用できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

- (1) 生命医科学の知識を基盤に、人々の健康志向に応えることができる。
- (2) 生命医科学の知識を基盤に、迅速で正しい検査に熱意を示し、健康長寿、疾病の早期診断・治療に寄与できる。
- (3) 生命医科学の知識を基盤に、意欲的に医療バイオと創薬の分野に寄与できる。
- (4) 生命医科学の知識を基盤に、医用工学分野の発展に寄与できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

- (1) チームの目標達成や成長に向けて自己の責任役割を理解し、メンバーと協働する

ことができる（メンバーシップ）。

(2) チームの目標達成や成長に向けてメンバーの意識を高め、集団として成果を上げるためにチームを動かすことができる（リーダーシップ）。

【保健看護学科】

方針概要

ヘルスプロモーションの理念に基づく支援ができる高度な専門性を備えた看護師・保健師および養護教諭として、以下に示す能力・資質などを身につけたものに対し学位を授与する。

④ 社会で必要とされる知識・技能

(1) 対象に応じた適切な看護技術を提供できる能力

(2) 援助的人間関係を形成できる能力

(3) 看護の自律性を高めるためのマネジメント力

⑤ 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 看護専門職者としてのアイデンティティを形成し、対象の意志決定の支援と権利の擁護ができる倫理的判断力

(2) 科学的根拠を基盤とした看護が展開できる能力

(3) 地域社会で看護専門職者として貢献できるリーダーシップ力

⑥ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 保健・医療・福祉チームの中で、多様な価値観や立場の人を尊重しながら多職種と協働できる能力

(2) グローバルな視点からも健康課題を幅広く捉えようとする姿勢

(3) 課題を解決するための研究的思考ができる能力

(4) 主体性をもって健康課題を解決しようとする意欲

④ あてになる人間として実行する姿勢

社会で必要とされる看護専門職者になるために、不断の努力と行動ができる。

【理学療法学科】

方針概要

専門性と社会性を兼ね備えた人間力豊かな専門職業人の理学療法士をめざすものとして、理学療法学科の課程を修め、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

理学療法士として現代の疾病・障がいに対応できる専門的かつ最新の知識・技術を活用できる。同時に医療・介護・保健の専門家としてのみならず、基本的態度と地域から国際にいたる広い視点からの幅広い教養も身につけ、社会・組織の中で円滑に活動できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 疾病・障がい、それらに伴う心身機能低下に関する基本的知識をもとに問題点を推論できる。そして科学的根拠に基づいた専門的知識・技能をもって理学療法を実施できる。

(2) チーム医療の中で得られる情報から問題点を総合的に判断し、自身の考えを患者やチーム内で説明でき、実際に行動に移すことができる。その際、ICT能力も駆使して様々なデータを有効活用できる。

(3) 患者やその家族の尊厳を尊重し、医療者として適切な表現により医療側の方針に関する理解を得ることができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 専門職業人としての自覚を持ち、常に疑問点を解決する力、根拠に基づく新しい知識・技術を身につける努力を主体的に継続できる。

(2) 保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解し、他職種との協働精神をもって患者及びその家族、関係者に向き合うことができる。また、関係者との会話・討論を通してチームの方向性を示すリーダー的役割を担うことができる。

(3) 健康増進・予防の場においては、対象者の声を傾聴し多様な価値観も共感して、身体的・心理的・社会的な支えとなることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) 総合大学の利点を生かした幅広い視野からの教養と専門知識を学ぶ学習習慣を継続し、社会的な医療ニーズに対応できる専門職業人として自らを高めることができる。

(2) 思いやりや基本的な礼儀・マナーを備え、「主体的に行動できる力」「疑問を持ち論理的に考える力」「多様な人々と良好なコミュニケーションを取り協働できる力」を備えた社会性を持ち続けることができる。

【作業療法学科】

方針概要

作業療法学科の課程を修め、必修等の条件を満たした単位を修得し、作業療法士に必要な専門知識・技術と豊かな人間性をもつ有識社会人として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

総合大学の利点である多様な教養教育科目より豊かな人間性を養い、経験豊富な医学系教員による医療職に必要な基礎力を身につけることで、医療技術の進歩や社会構造の変化の中で活躍できる作業療法士を目指すことができる。また、現役作業療法士でもある臨床力の高い専門教員より学ぶことで、専門的知識・技術を学び続ける力と実行力を獲得し、医療・保健・福祉の分野から社会に貢献することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

学んだ基礎医学系および社会福祉系の知識と作業療法の専門性の高い授業や多様な豊富な臨床実習施設における臨床教育を通して、医療・保健・福祉の実践家としての臨床能力と実行力を身に付けることができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1) 対象者参加型の学内実習や地域連携による地域に根差した教育体制を通して、リハビリテーションを担う専門職の一員として、多様な人々と協調し、協働する力を身につけ、活かすことができる。

(2) 国内外の学会や研究会における所属教員の活動で得られた情報や知識を担当授業や学生指導に還元することにより、学生は国内外の最新の情報を学ぶ機会が得られ、学ぶ楽しさや学び続ける意義を理解することができ、現状の問題に対して前向きに対処することができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) 対象者や他職種の立場を尊重し、生活に一番近い医療専門職として物事に対処できる。

(2) リーダーシップを発揮して地域社会に貢献することができる。

【臨床工学科】

方針概要

専門職業人の臨床工学技士をめざすものとして、臨床工学科の課程を修め、医療機器の安全性・有効性の確保、医療技術の発展、チーム医療に貢献できる、以下の力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

(1) 臨床工学技士に必要とされる、医学・工学・医用工学の知識や技能を修得し、専門職業人としてさまざまな場面で活躍できる。

(2)医療人として必要とされる幅広い教養と豊かな感性を持ち、人間への深い洞察力、倫理観、生命の尊厳について深く認識する力を修得し、臨床工学の分野から社会に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1)患者やチーム医療のスタッフから得られる多くの情報を関連付けて考察し、総合的に問題点を判断できる。

(2)臨床工学に関する知識や技術の背景を説明することができ、その知識や技術を医療人として応用できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

(1)チーム医療のスタッフ、患者やその家族と十分なコミュニケーション力を発揮し、チーム医療の一員としての役割を果たすことができる。

(2)修得した臨床工学体系を基礎として、臨床工学の役割を正しく語ることができる。

(3)常に向上心を忘れず、国内外で発展する医療機器とその技術を学び続けることができる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

すべての人に誠意を持って誠実に行動し、健康な社会と全人的医療に貢献できる。

【スポーツ保健医療学科】

方針概要

国民の生活の質（QOL）の向上に役立つ健康運動・スポーツの指導者、および救急救命士をめざすものとして、スポーツ保健医療学科の課程を修め、以下に示した力を身に付けた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

グローバルな視点から健康課題を幅広くとらえ、健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、実践を通して調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、健康社会の実現に貢献できる

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

学んだ基礎医学系および社会福祉系の知識と専門性の高い授業に加え、実践（グループワーク）を通してプレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として健康寿命延伸に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

実践を通して身につけたコミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、国民の生活の質（QOL）の向上に役立つ知識・能力を活かすことができる。さらに、健康寿命の延伸に寄与できる有識社会人として地域社会、および健康社会の実現に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法）

生命健康科学部：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/life-health/>

生命医科学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/medicine/>

保健看護学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/nursing/>

理学療法学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/physical-therapy/>

作業療法学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/occupational-therapy/>

臨床工学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/clinical-engineering/>

スポーツ保健医療学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/sports/>)

(概要)

【生命健康科学部】

方針概要

生命健康科学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科では指定規則に則った教育内容を、生命医科学科、保健看護学科、スポーツ保健医療学科ではいくつかのコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。カリキュラムの体系を示すために、ナンバリングを行い、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを示すことによってカリキュラム構造をわかりやすくし、コースの意味を明確にしている。

① 教育内容

- (1) 学修の基礎となる全学共通教育科目と学部教育科目の履修を通して幅広い知識を修得する。
- (2) 自らのキャリア形成の方向付けができるようにするとともに、各学科で必要な基礎力を幅広く修得できるようにしている。
- (3) 各学科の教育目標に定められている知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、1年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

- (1) 各科目では、学科の教育目標に定められた力がつくような教育方法を実施する。
- (2) 個々の学生に対して学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
- (3) 実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

③ 教育評価

- (1) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。
- (2) 各科目で「身につく汎用力」の達成度を評価し、足りない部分は指導・強化する。
- (3) 4年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【生命医科学科】

方針概要

生命医科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、生命医科学科共通教育科目、生命医科学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系、ならびにコースの意味を明確にしている。臨床検査技師コースは、臨床検査技師国家試験受験資格を付与するためのコースで、別に定める3年時までの指定科目の履修と臨床検査技師コース前試験の合格が本コースに進むために必修である。

① 教育内容

- (1) 4年間の学習基礎となる基本的学習方法を習得できるよう初年次教育から始まり、「医科学」基礎の修得のため、「学部共通科目」さらに各種の学部共通基盤科目を開講し、生命倫理、人体の構造と機能および病態、ならびに社会的背景と医の原点を理解させる。
- (2) 教育目標である複合的な学識・技術と課題設定・解決力を備えた研究・技術者、教育研究者の育成を目指し、学科専門科目群を開講し、医科学基礎と高度専門領域の修得を可能にする。別に指定された科目単位の取得により、臨床検査技師の国家試験受験資格を得ることができる。
- (3) 学科の教育目標を満たすために、十分な思考力、自立心、協調性等の能力を涵養し、プレゼンテーション能力、専門的知識・技能を身につけられるように体系化して

いる。

(4) 学科の教育目標を満たし、主体性を持って多様な人間と共同して学ぶ態度を育成するため、コミュニケーション能力、学び続ける能力を身につけた有識職業人となるべく、1年時から体系的、系統的に科目を配置している。

② 教育方法

(1) 各科目は、その目的とする能力、知識が身に付くようにシラバスにその内容を明記し、初回の授業時に具体的に説明し、その説明に沿った教育方法を実施する。

(2) 学習ポートフォリオをもとに、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(3) 実験、実習、演習を通じた実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

③ 教育評価

(1) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の成長を評価する。

(2) 4年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）に結実させ、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているか、各科目の達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。

【保健看護学科】

方針概要

保健看護学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために学科の教育目的・教育目標を定め、全学共通教育科目、学部共通科目、生命健康科学基盤科目、学科専門科目を体系的に編成し、適正な教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。本学科では、卒業要件を満たすことにより、看護師国家試験受験資格を得ることができるよう、さらに、別に定める所定の科目の単位修得により保健師国家試験受験資格や養護教諭一種免許状が取得できるように授業科目を編成している。

① 教育内容

(1) 1年次の初年次教育で、主体的に研鑽を積むために必要な技能を身につけ、4年間を通して、社会からあてにされる看護専門職者になるために必要な、思考力、自立心、学び続ける能力、実行力を身につけるように科目を編成している。

(2) 全学共通教育科目群では、看護の基盤となる豊かな教養と人間性を身につけるための学修をする。学部共通科目群および生命健康科学基盤科目群では、看護学を学ぶ上で前提となる人体の構造と機能、疾病と障害の病態及び医療、保健医療と社会に関する知識等を学修する。学科専門科目群では看護学の専門的知識と技術を段階的に学修できるように、看護介入領域科目群、看護実践領域科目群、看護発展領域科目群を配置している。

(3) 看護介入領域科目群では、1年次から3年次の春学期にかけて、看護学の基礎知識や人の発達段階と健康レベルに応じた看護の専門的な知識と技術を習得できるように科目を配置している。

(4) 看護実践領域科目群では、2年次秋学期から4年次春学期にかけて保健・医療・福祉機関での臨地実習を通して看護実践力を修得する。

(5) 看護発展領域科目群では、3年次春学期から4年次の秋学期にかけて、将来、看護学の発展に寄与できるように、科学的探究心を育て、研究方法を学び卒業研究につながるように科目を配置している。

(6) 全学年を通して様々な他言語とその文化を学び、多文化・多様な社会で活用するための基礎的なコミュニケーション能力を段階的に習得し、国際保健看護学の科目や看護海外セミナーの機会を通して国際的な視野を養うようにカリキュラムを編成している。

② 教育方法

(1) 講義科目では、学生の理解状況や関心のもち方に合わせた授業を展開し、教員と

学生、学生同士の交流を通して、学生が能動的に授業に取り組めるようにアクティブ・ラーニングを促進する。

(2) 演習科目では、協調・協働する姿勢と、自ら課題を発見し問題を解決する能力を育成するため、臨床上の具体的な課題を題材としたリアルな教材を活用する。また、看護実践力の習得のために、模擬患者やシミュレーター機材（人形）、セルフトレーニングラボや ICT を活用し、自律的学習能力と実践的能力を育成する。

(3) 臨地実習は保健・医療・福祉機関等で行い、ケアやサービスを受けている患者とその家族、看護専門職者や多職種の人々と関わる機会を通して、健康問題のある人との人間関係（援助的人間関係）の形成や看護実践力を培い、協調・協働できる実践的な能力を高めていく。

(4) 学科が作成した「教育目標の形成評価表」を用いて 4 年間の成長を段階的に確認するために、教員との定期的な面接を通して学修支援を行う。

③ 教育評価

(1) 講義・演習においては、シラバスに示した具体的達成目標の到達度を、筆記試験、課題レポート、演習への参加状況等で適正に評価する。

(2) 臨地実習においては、臨地実習各科目の手引きに示す評価基準に基づき、課題達成状況、実習中の看護実践や討議内容、実習への取り組みや実習態度等から総合的かつ適正に評価する。

(3) 卒業研究では、すべての知識を統合して新たな看護学の課題への取り組み状況について、ルーブリック評価を行う。

(4) 教育目標の達成状況の確認は、学科が作成した「教育目標の形成評価表」を用いてセメスター毎に自己評価を行い、学生個々の学修成果とコンピテンシー（汎用力の修得状況）について、教員とともに振り返る。

【理学療法学科】

方針概要

理学療法学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部共通科目、生命健康科学基盤科目、理学療法学科・作業療法学科共通専門基礎科目、学科専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる全学共通教育科目の履修により、国際的な視野を広げ、多様な知識・技能を修得するのみならず、社会人に求められる豊かな教養や社会への適応性を培うための様々な基本的能力を幅広く修得することができるようにしている。

(2) 医療人として必要となる専門的知識、技能を修得し、思考力、学び続ける能力を身に付け、常に最新医療に必要な知識・技能の向上ができるように学部共通科目、生命健康科学基盤科目および理学療法学科・作業療法学科共通専門基礎科目を体系的に配置している。

(3) チーム医療の中で得られる情報を総合的に考察・判断し、実際に行動計画に移すことができるように、学科専門科目の中に多様かつ段階的な講義・演習・実習を配置している。ICT 能力も駆使して様々なデータを有効活用できるようにしている。

(4) 医療関係者、患者およびその家族と良好なコミュニケーションを取り、自身の考えも発信しつつ、異なる考え方・多様性を尊重し協調・協働しながら実行できるように、各種臨床実習を段階的に組んでいる。

② 教育方法

(1) 各科目について、医療人として必要な専門的知識・技能、思考力、および多様性や協調性・協働性を身に付けられるようにシラバスにその内容を明記、初回授業にお

いても、その内容を具体的に説明し、その説明に沿って授業を展開する。

(2) 主体的かつ自立的な学びの力を伸ばすために、ICT の活用を図りつつ、授業前の予習と授業後の復習の実行を指導することにより、実践（アクティブラーニング）の習慣化を目指す。

(3) 定期的な個人面談を実施し、学年進行に即した個人目標、上記アクティブラーニングの習慣化が進んでいることを確認する。さらに、学科教員が個々の学生の問題点を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

③ 教育評価

(1) 学期ごとに各科目において、学生がその達成目標に到達できたか否かを明確にし、個々の学生の学修的進歩を評価する。

(2) 各科目に指定された到達目標を学修したことを確認したうえで、医療人として必要な知識、技術がどの程度達成できているかを各時点で評価し、不足する部分は指導教員と授業担当教員が協働で指導・強化する。

(3) 各科目で得られた専門的知識・技能を統合・整理できる能力が修得できたか否かを臨床総合実習、卒業研究の達成度で評価し、教員全体でディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【作業療法学科】

方針概要

作業療法学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部共通科目、生命健康科学基盤科目、理学療法学科・作業療法学科共通専門基礎科目、学科専門科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる初級レベルにナンバリングされた全学共通教育科目、生命健康科学基盤科目の多くを 1、2 年次に配置し、幅広い知識と視野を修得できるようにしている。

(2) 初年次から初級レベルにナンバリングされた理学療法学科・作業療法学科共通専門基礎科目、学科専門科目や臨床実習によって作業療法の専門性に触れ、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。

(3) 作業療法士に必要な国内外の最新の知識・技術を学び、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力、企画・計画力、クリティカル思考力を獲得し、学び続ける力を身につけられるように中級・上級レベルの学科専門科目を系統的に配置している。

(4) 医療・保健・福祉の現場で求められる協働する能力を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力が身に付く科目や臨床実習を系統的に配置している。

② 教育方法

(1) 各科目では国内外の最新の知識・技術を教授するとともに、職業人・医療人として身につけてほしいコミュニケーション力、クリティカル思考力などの基礎力を明確にして、必要な教育を実施する。

(2) 指導教授による定期的な個人面談を実施し、その記録を教員間で共有することで、学生の課題解決に向けての支援を行い、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(3) 作業療法士の国家試験受験資格の取得に必要な科目を 1 年次から系統的に配置している。また、4 年次には国家資格に必要な専門知識の強化のために、国家試験に向けたアクティブラーニングを支援し、外部テストを用いた学習成果の確認を行う。

(4) 学年ごとに臨床の現場に触れ、体験を通して学ぶための臨床実習を配置し、学科専門科目を中心とする学内教育との総合化を行う。

③ 教育評価

(1) 各科目の達成目標および各科目の目標達成により「身につく汎用力」の到達度を

評価する。

(2)職業人・医療人として必要な基礎力の達成度を評価し、不足している部分は指導・強化する。

(3)各科目での評価の他に4年間の学修成果を総合臨床実習、卒業研究を通して評価を行い、学科教員全体でディプロマ・ポリシーに定めた能力が習得されているかを判定する。

【臨床工学科】

方針概要

臨床工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部共通科目、生命健康科学基盤科目、学科専門基礎科目、学科専門科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラム・ツリーによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1)学修の基礎となる全学共通教育科目の履修により、臨床工学技士を目指すものとして、また社会人としても必要な豊かな教養や思考力を養うために、幅広い知識を修得できるようにしている。

(2)臨床工学技士に必要とされる、医学・工学・医用工学の専門的知識・技能を修得できるよう、学部共通科目、生命健康科学基盤科目および学科専門基礎科目を体系的に配置している。

(3)国内外で発展する医療機器とその技術に関する専門的知識・技能を自立心と国際的な視野を持って学び続ける能力を養うために、学科専門科目を体系的に配置している。

(4)チーム医療のスタッフとして、多様性を理解し、協調性・協働性、実行力を発揮して、すべての人に誠意を持って誠実に行動し、健康な社会と全人的医療に貢献できるように、各種実習・演習を各年次に段階的に配置している。

② 教育方法

(1)各科目では、医療人・社会人として必要な教養や社会力が身につくような教育を実施する。

(2)個々の学生に対しては、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(3)実践（アクティブ・ラーニング）の要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

③ 教育評価

(1)各科目の達成目標に対する「身に付く汎用力」の到達度を評価する。

(2)職業人・医療人として必要な基礎力の達成度を評価し、足りない部分は指導・強化する。

(3)4年間の学修成果の確認を特論・卒業研究で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【スポーツ保健医療学科】

方針概要

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部教育科目（学部共通科目、生命健康科学基盤科目、学科専門科目）を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。コースには、健康運動・スポーツ指導者コース、救急救命士コース、ジェネラリストコースを置く。前者2つのコースは、それぞれ健康運動・スポーツ指導者養成、救急救命士養成を目的とし、ジェネラリストコースは、初歩的な健康運動・

スポーツ、救急救命の知識・技術を幅広く修得することを目的とする。

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる全学共通教育科目では、主体的な学びを通して社会人として必要な幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにするとともに、調査・情報収集能力、課題設定能力等の基礎力を幅広く修得できるようにしている。

(2) 健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として必要な知識・技能の修得のために、コース別に調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力等が獲得できる科目を体系的に配置している。

(3) 健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として必要な思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、コース別に思考力、自立心、学び続ける能力、実行力等が身につけられる科目を体系化している。

(4) 健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コース別に多様性、協調性・協働性（公益心）等の基礎力が修得できる科目を配置している。

② 教育方法

(1) 各科目では、社会人として必要な思考力、自立心等の基礎力が身につくような教育方法を実施する。

(2) 学生ポートフォリオを活用して問題を教員間で共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(3) 実践（グループワーク）の要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。

(4) 救急救命士の国家試験受験資格の取得に必要な科目を 1 年次から体系的・系統的に配置している。また、4 年次には国家資格に必要な専門的知識の能力確認のために模擬 テストの導入や国家試験対策のための時間を設ける。

③ 教育評価

(1) 各科目の達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。

(2) 調査・情報収集力、課題設定力等の基礎力の達成度を評価し、不足部分は指導・強化する。

(3) 4 年間の学修成果を卒業研究で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：

生命健康科学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/life-health/>

生命医科学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/medicine/>

保健看護学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/nursing/>

理学療法学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/physical-therapy/>

作業療法学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/occupational-therapy/>

臨床工学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/clinical-engineering/>

スポーツ保健医療学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/sports/>

(概要)

【生命健康科学部】

求める人間像 1

本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

高等学校で修得すべき基礎知識・技能を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

他者と協働して課題解決にあたる姿勢・意欲を持ち、大学で学ぶために必要な思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身につけている。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

ひとの健康を維持・増進する医療・疾病予防・リハビリテーション・運動などに強い関心と高い学習意欲をもち、保健医療領域を通して社会に貢献する意欲がある。

【生命医科学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、生命科学に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 病気の予防や健康の維持増進の分野を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 病気の予防や健康の維持増進に対して強い関心と病気や健康不安の仕組みに学習意欲をもち、臨床検査、または薬物・資材・機器・医療技術の開発・研究および販売等を通して社会に貢献する意欲がある。

身につけておくと望ましいこと

高等学校の生物、化学、物理を理解しておくことが望まれる。生物では特に細胞、代謝、遺伝子、体内環境などを理解しておくことが望まれる。化学では溶液の濃度、物理では原子、力学、電磁気などを理解しておくことが望まれる。

【保健看護学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、社会からあてにされる看護専門職者をめざして学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) ひとの尊厳と権利、ひとの暮らしと健康の分野を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) ひとの尊厳と権利、ひとの暮らしと健康に強い関心と高い学習意欲をもち、看護の専門職として他職種と協働し社会に貢献する意欲がある。

身につけておくと望ましいこと

高等学校の教育内容(国語、生物・化学の基礎、保健・家庭科、数学の基礎など)を幅

広く理解し、日常的な自己学習の習慣を身につけておくことが望まれる。対象・場面に即した言葉遣いと基本的な礼儀・マナーを習得しておくことが望まれる。

【理学療法学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、理学療法士をめざして学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 医学・生命科学、理学療法学を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 医学・生命科学、理学療法学に強い関心と高い学習意欲をもち、理学療法に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

身につけておくこと望ましいこと

高等学校の教育内容(国語、生物・化学・物理の基礎、数学の基礎など)を幅広く理解し、日常的な自己学習の習慣を身につけておくことが望まれる。自分の考えを伝えるための表現力と他者とのコミュニケーションをとる積極性が望まれる。

【作業療法学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、身体または精神に障害のある人々に対する作業療法に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 身体または精神に障害のある人々に対する作業療法を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 身体・精神の両面にわたるリハビリテーションに強い関心と高い学習意欲をもち、作業療法士に関わる領域で社会に貢献する意欲がある。

身につけておくこと望ましいこと

高等学校の教育内容(国語、理科、家庭科、保健など)を幅広く理解し、自己学習の習慣など日常生活の自己管理能力を身につけておくことが望まれる。

【臨床工学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、臨床工学に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 工学と医学が重なる領域を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

(6) 工学と医学が重なる領域に強い関心と高い学習意欲をもち、臨床工学技士に関わる領域で社会に貢献する意欲がある。

身につけておくと望ましいこと

高等学校の数学、物理（物理基礎）、化学（化学基礎）、生物（生物基礎）を理解しておくことが望まれる。

【スポーツ保健医療学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、スポーツや保健医療分野に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) スポーツや保健医療（医学）が重なる領域を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

(6) スポーツや保健医療（医学）に強い関心と高い学習意欲をもち、スポーツ医学を国民の生活の質（QOL）の向上に役立てる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

身につけておくと望ましいこと

高等学校の教育内容（国語、生物、数学、保健分野の知識など）を幅広く理解し、自己学習の習慣を身につけておくことが望まれる。自分の考えを伝えるための表現力、論理的思考力、読解力などを身につけておくことが望まれる。

| |
|---|
| 学部等名 現代教育学部 |
| <p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法: https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/education/)</p> <p>(概要)</p> <p>【現代教育学部】</p> <p>次世代教育、特に、家庭、学校、地域社会における教育の重要性を基本とし、次代を担う乳幼児、児童生徒の健全な育成を中心的課題として広く教育研究を行い、もって人格形成基盤を体系的に支援することができる優れた教育者・保育者を養成し、社会の期待と発展に寄与することを目的とする。</p> <p>【幼児教育学科】</p> <p>乳幼児期の人間形成の基盤づくりを専門的に支援・指導する専門職業人を養成する。その基本的な教育目標は、保育士資格と幼稚園教諭一種免許の取得を可能とし、その資格・免許を基に複雑で変化の激しい環境の下で生じる個別的な課題の解決に向けて創造的に実践できる人材を育成する。</p> <p>【現代教育学科】</p> <p>児童生徒の成長発達、教育、支援について学際的に教育研究して、「次世代教育」のあり方についての理論と技能を修得し、社会が求める多様な教育実践と教育支援活動を積極的に推進する人材を育成する。</p> |
| <p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法:</p> <p>現代教育学部: https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/education/</p> <p>幼児教育学科: https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/early-childhood/</p> <p>現代教育学科 現代教育専攻: https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/contemporary-education/</p> <p>現代教育学科 中等教育国語数学専攻: https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/secondary-education/)</p> <p>(概要)</p> <p>【現代教育学部】</p> <p>方針概要</p> <p>現代教育学部の課程を修め、必修等の条件を満たした124単位を修得し、未来を担う子どもたちを託せる教育実践力と人間性を備えた保育者・教育者として、以下に示した力を身につけた者に対し学位を授与する。</p> <p>① 社会で必要とされる知識・技能</p> <p>グローバル化・流動化する社会の変化に対応できる豊かな教養と、教育・保育に関する専門的な知識・技能を併せもち、直面する課題を明確化する調査・分析能力に裏打ちされた課題解決型の思考力を身につける。</p> <p>② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力</p> <p>教育・保育それぞれの領域で必要とされる専門的な知識・技能を自分自身のライフステージに応じて探求し吸収する力を高めると同時に、多様な人々と協働してより良い社会を構築するために必要な思考力や協調性、並びに表現力を高める。</p> <p>③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度</p> <p>自己と他者の相互理解を基盤とした協調性・協働性を高めるために、コミュニケーション能力およびカウンセリングマインドを身につけ、支え合い学び続けることができる。</p> <p>② あてになる人間として実行する姿勢</p> <p>教育・保育にかかわる諸活動は、次の時代を形成する重要な活動であるという自覚をもち、新時代を果敢に切り開く創造的な行動力を不断に高め続けることにより、協働する者から信頼を獲得することができる。</p> <p>【幼児教育学科】</p> <p>方針概要</p> |

変化する社会や世界の状況に目を向け、乳幼児の成長発達、保育・幼児教育のありかたについての理論と技能を身に付けた専門職業人となるべく、次に示す基礎的な能力・資質などを身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

異文化などを理解し、広い視野で社会をとらえる教養を基盤として、必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力、修得した知識・技能をもとに、物事を観察・思考し、課題を設定する力を獲得し、乳幼児の成長発達、保育・幼児教育について、そのあり方を深く考え、創造的で質の高い実践を行うことができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

課題解決についての見通しを持ち、指導計画を立てる力、物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力、ICT利活用力やプレゼンテーション力を身に付け、保育機関・家庭や地域・社会が求める多様な保育・幼児教育実践と支援に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

他者の気持ちや感情をくみ取り、意思疎通ができる力、テーマに沿って円滑に議論を進める力、他者の考えを正確に受けとめる力、自己理解力を活用し、保育・幼児教育のありかたについて、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

④ あてになる人間として実行する姿勢

急速に変化する現代社会の中で、次世代を育成し、保護者や地域住民の支援をしていくための専門的知識や技能、倫理観を身につけ、他者と協調・協働して、保育・幼児教育現場で複雑化・多様化している課題の解決や地域・社会の発展に向けて、それら資質・能力を生かしていくことができる。

【現代教育学科 現代教育専攻】

方針概要

児童の成長発達、教育、支援について学際的に教育研究を行い、国際的な視野や多様な価値観をもち「次世代を担う子供たちへの教育」のあり方についての理論と技能を修得し、社会が求める多様な教育実践と教育支援活動を積極的に推進する力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

次の三つの力を獲得し、児童の成長発達、教育について学修することができる。

(1) 必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力

(2) 修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力

(3) ICT活用力

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 課題解決についての見通しを持ち、企画する力、国際的な視野で物事を広く客観的に観察・思考し、結論を導くことができる。

(2) 学校や家庭、地域社会が求める多様な教育と児童の発達段階に応じた支援に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

次の二つの力を活用し、国際的な動向を踏まえ「次世代を担う子供たちへの教育」のあり方について、多様な人間の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

(1) テーマに沿って円滑に議論を進める力

(2) 他者の考えを正確に受け止める力

④ あてになる人間として実行する姿勢

(1) 児童の成長発達のために、家庭や地域社会の要請に応じ、自己の責任や役割を自覚し、力を尽くすことができる。

(2) 組織の一員として、協調して成果に貢献することができる。

【現代教育学部 中等教育国語数学専攻】

方針概要

生徒の成長発達、教育、支援について学際的に教育研究を行い、国際的な視野や多様な価値観をもち「次世代を担う子供たちへの教育」のあり方についての理論と技能を修得し、社会が求める多様な教育実践と教育支援活動を積極的に推進する力を身につけた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

次の三つの力を獲得し、生徒の成長発達、教育について学修することができる。

- (1) 必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力
- (2) 修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力
- (3) ICT活用力

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

- (1) 高い教科指導力をもとに課題解決についての見通しを持ち、企画する力、国際的な視野で物事を広く客観的に観察・思考し、結論を導くことができる。
- (2) 学校や家庭、地域社会が求める多様な教育と支援に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

次の二つの力を活用し、国際的な動向を踏まえ「次世代を担う子供たちへの教育」のあり方について、多様な人間の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

- (1) テーマに沿って円滑に議論を進める力
- (2) 他者の考えを正確に受け止める力

④ あてになる人間として実行する姿勢

- (1) 生徒の成長発達のために、家庭や地域社会の要請に応じ、自己の責任や役割を自覚し、力を尽くすことができる。
- (2) 組織の一員として、協調して成果に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

現代教育学部：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/education/>

幼児教育学科：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/early-childhood/>

現代教育学部 現代教育専攻：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/contemporary-education/>

現代教育学部 中等教育国語数学専攻：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/secondary-education/>)

(概要)

【現代教育学部】

方針概要

現代教育学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。ナンバリングとカリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系を分かりやすく示し、コースの意味を明確化する。

① 教育内容

- (1) 学修の基礎となる保育・教育学、教育心理学領域の履修を通して、幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。
- (2) 保育・教育についての理論と技能を身につけた専門職業人として求められる知識・技能の修得のために、情報収集する能力、自ら課題設定できる能力、ICTを活用する能力を獲得できる科目を体系的に配置している。
- (3) 多様化する保育・教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、自ら企画・計画する力、客観的な視点で判断・解決できる力を身につけられる科目を体系的に配置している。
- (4) 保育・教育のありかたについて、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、多様な意見に対して受容・共感することを含めたコミュニケーション能

力を身に付けた専門職業人となるべく、1年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

- (1) アクティブラーニングの要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばす。
- (2) 言語表現・芸術表現・身体表現の体系的な学びを通して、創造的な表現力の向上を図る。
- (3) 学外の教育・保育機関と連携して、正課・正課外において乳幼児・児童生徒と関わり、保育・教育実習や体験活動を通して個々の実践力の向上を図る学修を、1年次から4年次にかけて体系的に取り入れる。

③ 教育評価

- (1) 各科目の達成目標に対する「身につく汎用力」の到達度を評価する。
- (2) 学修の達成度を評価し、不足する部分は指導し、強化する。
- (3) 4年間の学修成果を卒業研究で集大成し、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【幼児教育学科】

方針概要

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーによってカリキュラムの体系、ならびにコースの意味を明確にしている。

幼児教育学科履修モデル

A：保育・幼児教育コース（保育士資格、幼稚園教諭免許状取得）

B：保育重点コース（保育士資格取得）

C：幼児教育重点コース（幼稚園教諭免許状取得）

① 教育内容

- (1) 学修の基礎となる保育・教育学、教育心理学領域の履修を通して、豊かな教養や国際的な視野、幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。
- (2) 保育・幼児教育についての理論と技能を身に付けた専門職業人として求められる知識・技能の修得のために、必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力、修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力、ICT利活用力を獲得できる科目を体系的に配置している。
- (3) 多様化する保育・幼児教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、プレゼンテーション力、課題解決についての見通しを持ち、指導計画を立てる力、物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力を身に付けられる科目を体系的に配置している。
- (4) 保育・幼児教育のありかたについて、自立心や公益心をもち多様な人と協調・協働して学ぶ態度、変化する社会に貢献できる実行力を育成するために、他者の気持ちや感情をくみ取り、意思疎通ができる力、テーマに沿って円滑に議論を進める力、他者の考えを正確に受けとめる力を身に付けた専門職業人となるべく、1年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

- (1) アクティブラーニングの要素を多く取り入れ、主体的な学びの力を伸ばし、豊かな教養と学び続ける能力を育む。また、学修課題に合わせた適切な授業形態（講義、演習、実習など）を系統的に組み合わせた教育課程を展開することで学生の主体的な学びを促す。
- (2) 創造的表現力を高めるために、音楽・造形・身体・言語表現を体験的・統合的に学ぶ機会を取り入れる。
- (3) 正課・正課外教育において、保育・幼児教育の場で適用できる指導力・実践力を高めるため、幼稚園、保育所、子育て支援センター等の保育・幼児教育機関と連携を

取りながら1年次から4年次まで系統的に体験的学修の機会を設ける。

③ 教育評価

- (1) 各科目の達成目標に対する「身につける汎用力」の到達度を評価する。
- (2) 各科目の評価を総合して、学修の達成度を総括的に評価し、不足する部分を重点的に指導・強化することで、学生一人ひとりのディプロマ・ポリシーの実現を図る。
- (3) 3年次のゼミナールでの研究成果を踏まえ、4年間の学修成果を卒業研究で集大成し、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーに定めた能力が修得されているかを判断する。

【現代教育学科 現代教育専攻】

方針概要

現代教育学科現代教育専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーによりカリキュラムの体系を分かりやすく示し、コースの意味を明確化する。

現代教育専攻履修モデル

- A：小学校教育重点コース
- B：小学校教育＋中学校理科教育コース
- C：小学校教育＋特別支援教育コース

① 教育内容

- (1) 学修の基礎となる教育学、教育心理学領域の履修を通し、豊かな教養と専門的な知識・技能、国際的な視野、幅広い知識をもち、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。
- (2) 教育についての理論と技能を身に付け専門職業人としての専門知識・技能を修得するため、調査・情報収集力、課題設定力、ICT利活用力を獲得できる科目を体系的に配置している。
- (3) 多様化する教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、企画・計画力、クリティカルな思考力を身に付けられる科目を体系的に配置している。
- (4) 教育の在り方について、主体性、協調性・協働性をもって学び続ける能力・態度を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を身に付けた専門職業人となるべく、1年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

- (1) 主体的、対話的で深い学びを実現するために、教育方法としてアクティブラーニングの要素を多く取り入れる。また、これらの学びを実現する手段としてICTを活用した授業指導力を高めるため、積極的にICTを取り入れ、様々な活用方法について習熟を図る。
- (2) 言語表現力を充実させるとともに、芸術・身体表現の体験的な学びを通して、創造的な表現力を高める。
- (3) 地域の教育委員会など教育関係機関との連携のもと、学校現場で学習・生活支援を行う活動を通して、多様性を受け入れる態度や国際的な視野、協調性・協働性、公益心、自立心及び実行力を養い、実践的指導力を培う。

③ 教育評価

- (1) 各科目で授業の主旨や達成目標を明確にし、ディプロマ・ポリシーに照らして学生の伸びを客観的・多面的に評価する。
- (2) 各科目の評価を総合して、学修の達成度を総括的に評価し、不足する部分を重点的に指導・強化することで、学生一人一人のディプロマ・ポリシーの実現を図る。
- (3) 3年次のゼミナールでの研究成果を踏まえ、4年間の学修成果を卒業研究で集大成し、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【現代教育学科 中等教育国語数学専攻】

方針概要

現代教育学科中等教育国語数学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーによりカリキュラムの体系を分かりやすく示し、コースの意味を明確化する。

中等教育国語数学専攻履修モデル

A：中学校国語教育コース

B：中学校数学教育コース

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる教育学、教育心理学領域の履修を通し、豊かな教養と専門的な知識・技能、国際的な視野、幅広い知識をもち、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。

(2) 教育についての理論と技能を身に付け専門職業人としての専門知識・技能を修得するため、調査・情報収集力、課題設定力、ICT利活用力を獲得できる科目を体系的に配置している。

(3) 多様化する教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、企画・計画力、クリティカルな思考力を身に付けられる科目を体系的に配置している。

(4) 教育の在り方について、主体性・協調性・協働性をもって学び続ける能力・態度を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を身に付けた専門職業人となるべく、1年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

(1) 主体的、対話的で学びの力を伸ばすために、教育方法としてアクティブラーニングの要素を多く取り入れる。また、これらの学びを実現する手段としてICTを利活用した授業指導力を高めるため、積極的にICTを取り入れ、様々な活用方法について習熟を図る。

(2) 言語表現力を充実させるとともに、芸術・身体表現の体験的な学びを通して、創造的な表現力を高める。

(3) 地域の教育委員会など教育関係機関との連携のもと、学校現場で学習・生活支援を行う活動を通して、多様性を受け入れる態度や国際的な視野、協調性・協働性、公益心、自立心及び実行力を養い、実践的指導力を培う。

③ 教育評価

(1) 各科目で授業の主旨や達成目標を明確にし、ディプロマ・ポリシーに照らして学生の伸びを客観的・多面的に評価する。

(2) 各科目の評価を総合して、学修の達成度を総括的に評価し、不足する部分を重点的に指導・強化することで、学生一人一人のディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(3) 3年次のゼミナールでの研究成果を踏まえ、4年間の学修成果を卒業研究で集大成し、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

現代教育学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/education/>

幼児教育学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/early-childhood/>

現代教育学科 現代教育専攻：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/contemporary-education/>

現代教育学科 中等教育国語数学専攻：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/secondary-education/>)

(概要)

【現代教育学部】

求める人間像 1

本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

高等学校で修得すべき基礎知識・技能を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

他者と協働して課題解決にあたる姿勢・意欲を持ち、大学で学ぶために必要な思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身につけている。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

乳幼児および児童生徒の保育・教育に強い関心と高い学習意欲をもち、保育や教育などの専門職業人として社会に貢献する意欲がある。

【幼児教育学科】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、乳幼児の保育・教育に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 乳幼児の保育・教育に関わる領域を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 乳幼児の保育・教育に強い関心と高い学習意欲をもち、幼稚園教諭・保育士・保育教諭などの専門職業人として社会に貢献する意欲がある。

身につけておくとう望ましいこと

高等学校までの教育内容(国語の基礎知識、音楽・美術・保健体育に関する基礎技能など)を習得し、日常的な自己学習の習慣を身につけておくことが望まれる。自分の考えを伝えるための表現力と他者とのコミュニケーションをとる積極性が望まれる。

【現代教育学科 現代教育専攻】

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、「次世代教育」の在り方に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 小・中学校、特別支援学校で求められる教育・支援活動に必要な知識や技能を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 児童生徒の教育に強い関心と高い学習意欲をもち、小学校教諭・中学校理科教諭・特別支援学校教諭などの専門職業人として社会に貢献する意欲がある。

身につけておくとう望ましいこと

高等学校までの教育内容（実技を含む）を理解しておくことが望まれる。また、習得した学習内容を説明できる表現力と他者とのコミュニケーション能力を身につけておくことが望まれる。

【現代教育学科 中等教育国語数学専攻】

求める人間像 1

- (1) 本学の建学の精神および基本理念を理解するとともに、主体性を持って多様な人間と協働し、「次世代教育」の在り方に関して学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

- (2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
- (3) 中学校で求められる教育・支援活動に必要な知識や技能を学ぶための基礎的な学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

- (4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
- (5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

- (6) 中学校教育に強い関心と高い学習意欲をもち、中学校国語教諭および中学校数学教諭などの専門職業人として社会に貢献する意欲がある。

身につけておくとう望ましいこと

国語志望者は、高校古典（古文・漢文）の理解をしておくことと、国語教科書「読書案内」に紹介されている本を読んでおくことが望まれる。数学志望者は、高校数学（数Ⅰ～Ⅲ、AB）の理解をしておくことが望まれる。高等学校までに習得した知識・技能（特に国語・数学）について説明できる表現力と他者とのコミュニケーション能力を身につけておくことが望まれる。

| |
|---|
| 学部等名 理工学部 |
| 教育研究上の目的 (公表方法: https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/sci-eng/) (概要) 【理工学部】 理学と工学を融合した教育・研究を展開、推進し、数学、自然科学の基礎、時代の先端の科学技術を身につけ、新しい産業と科学技術を創出し、持続的に発展できる社会の構築に貢献する科学技術者を養成する。 【数理・物理サイエンス学科】 数理科学（数学、データサイエンス等）・物理科学（物理学、物質科学、宇宙・地球科学等）の分野の知識と技術を基盤とした研究教育を行い、自律的に学ぶ力、自由な発想力、論理的思考力、物事の本質を見抜く洞察力と分析力、課題の発見力と解決のための実践力、判断力、コミュニケーション能力を習得し、新しい時代の発展とイノベーションを担う「あてになる科学技術者」を養成する。 【AI ロボティクス学科】 AI ロボティクス分野の基礎となる数理学、並びにロボットの実装に必要なシステム設計、プログラミング、制御・信号処理、人工知能、生体医工学などの基盤的な理工学知識や技術を修得させるとともに、分野を横断した学術的専門知識や技術の統合能力を習得させる。次世代社会における種々の問題に対して、リーダーシップを発揮しながらワールドワイドに貢献できる技術者を養成する。 【宇宙航空学科】 宇宙航空理工学の基礎となる流体力学、構造力学、熱力学、制御工学、情報工学、電気・電子工学等の各分野の基盤的専門知識を習得させると共に、推進工学、生産システム、航空機システム、ロケットシステム、宇宙機システム、宇宙航行等の学際的・複合的な宇宙航空理工学に関する教育研究を行い、新しい航空機やロケット、人工衛星、宇宙探査機、宇宙ステーション等を包含する次世代宇宙航空産業における設計・開発・製造・利用技術に関わる科学技術者を育成する。 |
| 卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： 理工学部： https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/sci-eng/ 数理・物理サイエンス学科： https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/math-phys/ AI ロボティクス学科： https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/ai-robotics/ 宇宙航空学科： https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/astroaero/ |
| (概要) 【理工学部】 方針概要 各学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、理工学に関する知識と技能を修得した有能な科学技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。 ①社会で必要とされる知識・技能 科学技術の根幹をなす数学や自然科学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養、各学科における専門の知識や技能を修得している。 |

②知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

幅広い教養と各学科の専門知識と技能に基づき、現在から将来の社会における科学技術的課題を発見し、関連情報の収集、道徳的、論理的な思考を通して、問題を解決し、それを表現できる能力を修得している。

③主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

勤勉で、責任感があり、自己や他者を理解、尊敬し、話し合い、社会に貢献することができる。

【数理・物理サイエンス学科】

方針概要

数理・物理サイエンス学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、数学および情報科学などのその応用分野を含む数理科学、物理学および物質科学、宇宙・地球科学などのその応用分野を含む物理科学に関する知識と能力を修得した有能な科学技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

科学技術の根幹をなす数学や自然科学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養、数理科学と物理科学の専門的な知識と技術を修得し、自由な発想力と実践力で科学技術の発展とイノベーションを担うことができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

幅広い教養と数理科学・物理科学の専門知識と技能に基づき、現在から将来の社会における科学技術的課題を発見し、関連情報の収集、道徳的、論理的思考力、物事の本質を見抜く洞察力と分析力、判断力、表現力を通して、課題を解決できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自律的に学び、考えることができ、責任感があり、自己や他者を理解し、尊敬し、話し合い、協働することで、社会に貢献できる。

【AI ロボティクス学科】

方針概要

AI ロボティクス学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、人工知能に関する知識と技能、および工学設計、プログラミング、制御・信号処理等のロボット工学に関する知識と技能を修得した有能な科学技術者として、以下に示す力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

人工知能とロボット工学に関する高度な知識と技術に加えて、数学や自然科学などの理学に関する基本的な知識、人文・社会系学問領域を含む幅広い教養を修得している。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

社会における課題を発見し、幅広い教養と学科専門分野に関する知識と技術に基づき、必要な調査と関連情報の収集、論理的な思考を通して問題を解決する能力、必要な事柄を他者に向けて適切に表現できる能力を身に付けている。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

技術者として、高い倫理観と使命感を有し、様々な立場の人々を理解、尊重し、コミュニケーションを取りつつ協働して問題解決できる能力を身に付けている。生涯に渡って新しい知識、技術を学び続ける意欲を持っている。

【宇宙航空学科】

方針概要

宇宙航空学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、宇宙航空

学の専門的知識・技術として航空宇宙機の設計・研究開発・製造技術・利活用などの宇宙航空学に関する知識と能力を修得するとともに、機械や電気・電子情報分野を横断した統合的な応用力を有する有能な科学技術者として、以下に示した能力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

科学技術の根幹をなす数学や自然科学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養とともに、宇宙航空学に必要な知識や教養、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得し、グローバルな社会でその能力を発揮・活躍できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

幅広い教養と宇宙航空学分野の専門知識と技能に基づき、現在から将来の社会における科学技術的課題を発見し、関連情報の収集、道徳的、論理的な思考を通して、問題を解決し、それを表現できる能力を修得している。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

宇宙航空学分野における知見を備えた科学技術者として、勤勉で、責任感があり、自己や他者を理解、尊敬し、話し合い、社会に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

理工学部：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/sci-eng/>)

数理・物理サイエンス学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/math-phys/>)

AI ロボティクス学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/ai-robotics/>)

宇宙航空学科：

<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/astroaero/>)

(概要)

【理工学部】

方針概要

理工学部ではディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習等を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 社会で必要とされる知識・技能の修得のために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、学科専門教育科目の履修を通して、幅広い知識を修得するとともに、自らのキャリア形成ができるように科目を配置している。

(2) 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力の能力の修得のために、スキル教育科目、外国語教育科目、教養課題教育科目、リベラルアーツ教育科目、特別課題教育科目も配置している。

(3) 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度の修得のために、各学科演習、実験、実習等の科目を体系的・系統的に配置している。また、自由科目、副専攻等を取得しやすい卒業要件としている。

② 教育方法

(4) 各学科の特性に応じて必要となる力が身に付くような教育方法を実施する。

(5) 主体的な学びの力を向上させるため、演習、実験、実習を積極的に取り入れ、講義の深い理解を補完する。

(6) 指導教授制、学修ポートフォリオ（カルテ）の活用によって各学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

③ 教育評価

- (7) 科目ごとに達成目標・到達目標を明確にし、学生の伸びを評価する。
- (8) 学修・教育到達目標に対して達成度を評価し、足りない部分は指導・強化する。
- (9) 4年間の学修成果を、その集大成である卒業研究を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標が達成されたかどうか総合的に判断する。

【数理・物理サイエンス学科】

方針概要

数理・物理サイエンス学科ではディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、数理・物理サイエンス学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習等を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 社会で必要とされる知識・技能の修得のために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、数理・物理サイエンス学科専門教育科目の履修を通して、幅広い知識を修得するとともに、自らのキャリア形成ができるように数理科学・物理科学の基礎的科目から専門的科目まで配置している。

(2) 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力の能力の修得のために、スキル教育科目、外国語教育科目、教養課題教育科目、リベラルアーツ教育科目、特別課題教育科目を配置し、専門教育科目において論理的思考力、物事の本質を見抜く洞察力と分析力、判断力、表現力のさらなる向上を目的とした科目を配置している。

(3) 主体性を持って多様な人間と協働し、自律的に学び続ける態度の修得のために、演習、実験、実習等の科目を体系的・系統的に配置している。また、自由科目、副専攻等を取得しやすい卒業要件とし、4年次の卒業研究においてその育成が完成するように構成している。

② 教育方法

(4) 数理科学・物理科学の基礎力が身に付くように、基盤となる専門科目に関しては講義、演習、実験の授業形態により行う。

(5) 自律的に学び、考える力を向上させるため、多くの講義で対になるような演習や実習、および実験を行い、専門的な知識と技能の深い理解を補完している。

(6) 指導教授制、学修ポートフォリオ（カルテ）の活用によって各学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

③ 教育評価

(7) 科目ごとに達成目標・到達目標をシラバス等で明確にし、学生の伸びを評価する。

(8) 数理・物理サイエンス学科にて定めている学修・教育到達目標に対して達成度を評価し、不足する部分に関しては指導・強化する。

(9) 4年間の学修成果を、その集大成である卒業研究を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標が達成されたかどうか総合的に判断する。

【AI ロボティクス学科】

方針概要

AI ロボティクス学科ではディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、AI ロボティクス学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習等を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 社会で必要とされる知識・技能の修得のために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、AI ロボティクス学科専門教育科目の履修を通して、幅広い知識を修得すると

ともに、自らのキャリア形成ができるように科目を配置している。

(2) 知識・技術を活用するために思考力・判断力・表現力を広げるスキル教育科目、外国語教育科目、教養課題教育科目、リベラルアーツ教育科目、特別課題教育科目も配置している。

(3) 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度の修得のために、学科の専門分野である人工知能とロボット工学に関する演習、実験、実習等の科目を体系的・系統的に配置している。また、自由科目、副専攻等を取得しやすい卒業要件としている。

② 教育方法

(4) 人工知能とロボット工学の両分野において必要となる力が身に付くような教育方法を実施する。

(5) 主体的な学びの力を向上させるため、演習、実験、実習を積極的に取り入れ実践的な学習の機会を多くすることで、講義で取り上げる内容の深い理解を目指す。

(6) 指導教授制、学修ポートフォリオ（カルテ）の活用によって各学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

③ 教育評価

(7) 科目ごとに達成目標・到達目標を明確にし、学生の伸びを評価する。

(8) 学科で定める学習・教育到達目標に対して達成度を評価し、足りない部分は指導・強化する。

(9) 4年間の学習成果を、その集大成である卒業研究を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標が達成されたかどうか総合的に判断する。

【宇宙航空学科】

方針概要

宇宙航空学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、宇宙航空学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる幅広い知識を修得するとともに、将来の職業とそれに向けたキャリア形成の方向付けができるように、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、宇宙航空学科専門教育科目を、体系的に配置している。

(2) 快適な社会環境を確立できる能力として求められる知識・技能の修得のために、教養、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得できる科目を体系的に配置している。

(3) 現代社会に果たすべき役割と責任を理解できる技術者として求められる調査・情報収集力、課題設定・企画・計画力等の能力を活用し、ディスカッション力、クリティカル思考力を身に付けられる科目を体系的に配置している。

(4) 主体性をもって多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、学内・学外での実習、実験、演習科目を配置し、4年次の卒業研究においてその育成が完成するように構成している。

② 教育方法

(5) 宇宙航空学の基礎力が身に付くように基盤となる専門科目については、講義、演習、実験の授業形態により行う。

(6) 実践的な技術の経験と理解、知識修得を確認するために、実験や実習を組み込んだ科目を開講している。また、社会で必要とされる経験と知識を修得するために、企業等で見学・実習を行う科目を開講している。

(7) 宇宙航空学の知識と航空宇宙産業界の実践的な技能・技術を結びつけた真の課題解決能力、創造力を育成するため、企業や企業の専門家と連携した講義課目等を開講している。

| |
|--|
| <p>(8) 指導教授制、学修ポートフォリオ（カルテ）の活用により、学修・教育到達目標の達成度をチェックする。達成度が不十分な学生は個別指導を行う。</p> <p>③ 教育評価</p> <p>(9) 科目ごとに達成目標・到達点をシラバス等により明確にし、試験、演習、レポート、プレゼンテーション等の手段により、具体的達成目標が達成されたかを評価する。</p> <p>(10) 大学4年間の集大成である卒業研究を通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標が達成されたか総合的に評価する。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>（公表方法：</p> <p>理工学部：</p> <p>https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/sci-eng/</p> <p>数理・物理サイエンス学科：</p> <p>https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/math-phys/</p> <p>AIロボティクス学科：</p> <p>https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/ai-robotics/</p> <p>宇宙航空学科：</p> <p>https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/astroaero/</p> |
| <p>（概要）</p> <p>【理工学部】</p> <p>求める人間像1</p> <p>(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。</p> <p>求める人間像2（知識・技能）</p> <p>(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。</p> <p>(3) 理工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。</p> <p>求める人間像3（思考力・判断力・表現力）</p> <p>(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。</p> <p>(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。</p> <p>求める人間像4（主体性・多様性・協働性）</p> <p>(6) 勤勉で、礼儀正しく、自己、他者を尊重し、理工学をはじめ科学技術全般に関心と高い学習意欲を持ち、理工学技術領域を通して社会に貢献しようとする意欲を有している。</p> <p>【数理・物理サイエンス学科】</p> <p>求める人間像1</p> <p>(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。</p> <p>求める人間像2（知識・技能）</p> <p>(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。</p> <p>(3) 理学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。</p> <p>求める人間像3（思考力・判断力・表現力）</p> <p>(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。</p> <p>(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。</p> <p>求める人間像4（主体性・多様性・協働性）</p> <p>(6) 数学および物理学をはじめ科学技術全般に関心と高い学習意欲を持ち、数学およびデータサイエンス等の応用分野を含めた数理科学、物理学および物質科学や宇宙・地球科学等の応用分野を含めた物理科学に関わる領域を通して社会に貢献しようとする意欲を有している。</p> |

身につけておくとうれしいこと

- ・数学、理科（物理・化学）、国語、英語を復習して理解を深めること。
- ・数学では特に指数・対数関数、三角関数、微分・積分、図形の性質、場合の数と確率、数列、ベクトルなど。
- ・物理では様々な運動とエネルギー、波、電気と磁気、原子など。
- ・化学では物質の状態と平衡、物質の変化と平衡、無機物質の性質、有機化合物の性質など。

【A I ロボティクス学科】

求める人間像 1

- (1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

- (2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
- (3) 理工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

- (4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
- (5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

- (6) ロボット理工学とともに、ものづくりに強い関心と高い学習意欲をもち、機械、電気、電子、情報工学などに関わるロボット製作や工学デザイン領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

身につけておくとうれしいこと

- ・数学、理科（物理・化学）、国語、英語を復習して理解を深めること。
- ・数学では特に指数・対数関数、三角関数、微分・積分、図形の性質、場合の数と確率、数列、ベクトルなど。
- ・物理では様々な運動とエネルギー、波、電気と磁気、原子など。
- ・化学では物質の状態と平衡、物質の変化と平衡、無機物質の性質、有機化合物の性質など。

【宇宙航空学科】

求める人間像 1

- (1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2（知識・技能）

- (2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
- (3) 理工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。

求める人間像 3（思考力・判断力・表現力）

- (4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
- (5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4（主体性・多様性・協働性）

- (6) 宇宙航空学をはじめ科学技術全般に強い関心と高い学習意欲をもち、制御理論や流体力学、材料力学などに関わる航空機製造や宇宙に関係する領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

身につけておくとうれしいこと

- ・数学、物理、英語を復習して理解を深めること。
- ・数学では数と式、統計・データの分析、二次関数、三角関数、微分・積分、指数・対

数、複素数、ベクトルなど。
・物理では物体の運動とエネルギー、力の釣り合い、気体の状態変化、電気・磁気など。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.chubu.ac.jp/about/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|-------------------------------------|--------|---|------|------|------|-----------|-------|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 6 人 | — | | | | | 6 人 |
| 工学部 | — | 51 人 | 20 人 | 7 人 | 2 人 | 1 人 | 81 人 |
| 経営情報学部 | — | 13 人 | 9 人 | 4 人 | 0 人 | 0 人 | 26 人 |
| 国際関係学部 | — | 11 人 | 4 人 | 3 人 | 0 人 | 0 人 | 18 人 |
| 人文学部 | — | 30 人 | 9 人 | 5 人 | 4 人 | 0 人 | 48 人 |
| 応用生物学部 | — | 21 人 | 17 人 | 4 人 | 3 人 | 11 人 | 56 人 |
| 生命健康科学部 | — | 38 人 | 27 人 | 14 人 | 3 人 | 2 人 | 84 人 |
| 現代教育学部 | — | 16 人 | 5 人 | 4 人 | 0 人 | 1 人 | 26 人 |
| 理工学部 | — | 25 人 | 8 人 | 1 人 | 0 人 | 0 人 | 34 人 |
| 人間力創成教育院 | — | 16 人 | 8 人 | 10 人 | 2 人 | 0 人 | 36 人 |
| 付置研究所 | — | 24 人 | 15 人 | 9 人 | 12 人 | 15 人 | 75 人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | | 計 |
| 1 人 | | 373 人 | | | | | 374 人 |
| 各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等） | | 公表方法： https://www2.chubu.ac.jp/about/faculty/ | | | | | |
| c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

[illegible]

理工学部は2023年度より設置のため、収容定員を2年生のみ計上している。
人文学部のコミュニケーション学科は、2024年度より募集停止のため、標準学年進行在学生の2年生以上収容定員を工学部に加算し、計上している。また、同学部のメディア情報社会学科は、24年度より設置のため、収容定員を1年生のみ計上している。

| b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数 | | | | |
|---|-----------------|-----------------|-------------------|-----------------|
| 学部等名 | 卒業者数・修了者数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 工学部 | 809人 (100%) | 97人 (12.0%) | 693人 (85.7%) | 19人 (2.3%) |
| 経営情報学部 | 273人 (100%) | 1人 (0.4%) | 258人 (94.5%) | 14人 (5.1%) |
| 国際関係学部 | 131人 (100%) | 1人 (0.8%) | 124人 (94.7%) | 6人 (4.6%) |
| 人文学部 | 363人 (100%) | 9人 (2.5%) | 323人 (89.0%) | 31人 (8.5%) |
| 応用生物学部 | 318人 (100%) | 31人 (9.7%) | 281人 (88.4%) | 6人 (1.9%) |
| 生命健康科学部 | 337人 (100%) | 10人 (3.0%) | 304人 (90.2%) | 23人 (6.8%) |
| 現代教育学部 | 159人 (100%) | 3人 (1.9%) | 148人 (93.1%) | 8人 (5.0%) |
| 合計 | 2390人 (100%) | 152人 (6.4%) | 2131人 (89.2%) | 107人 (4.5%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) | | | | |
| 進学先：中部大学大学院、名古屋大学大学院、名古屋工業大学大学院、東京工業大学大学院 ほか トヨタ自動車㈱、東海旅客鉄道㈱、名古屋鉄道㈱、清水建設㈱、積水ハウス㈱、豊田合成㈱、ヤマザキマザック㈱、DMG森精機㈱、㈱SUBARU、中部電力ミライズ㈱、㈱JTB、㈱名古屋東急ホテル、㈱タニタ、山崎製パン㈱、名古屋大学医学部附属病院、藤田医科大学病院、春日井市民病院、法務省、防衛省、愛知県庁、名古屋市役所、春日井市役所、名古屋消防局、愛知県警察本部、愛知県公立学校教諭、岐阜県公立学校教諭 ほか | | | | |
| (備考) | | | | |

| c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） | | | | | |
|--|-------------------|--------------------|------------------|------------------|--------------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業・修了者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| 工学部 | 970 人 (100%) | 734 人 (76.0%) | 116 人 (12.0%) | 120 人 (12.0%) | 0 人 (0%) |
| 経営情報学部 | 309 人 (100%) | 251 人 (81.0%) | 37 人 (12.0%) | 21 人 (7.0%) | 0 人 (0%) |
| 国際関係学部 | 144 人 (100%) | 109 人 (76.0%) | 23 人 (16.0%) | 12 人 (8.0%) | 0 人 (0%) |
| 人文学部 | 419 人 (100%) | 317 人 (76.0%) | 54 人 (13.0%) | 48 人 (11.0%) | 0 人 (0%) |
| 応用生物学部 | 350 人 (100%) | 300 人 (86.0%) | 19 人 (5.0%) | 31 人 (9.0%) | 0 人 (0%) |
| 生命健康科学部 | 379 人 (100%) | 315 人 (83.0%) | 40 人 (11.0%) | 24 人 (6.0%) | 0 人 (0%) |
| 現代教育学部 | 160 人 (100%) | 149 人 (93.0%) | 4 人 (3.0%) | 7 人 (4.0%) | 0 人 (0%) |
| 合計 | 2,731 人 (100%) | 2,175 人 (80.0%) | 293 人 (10.0%) | 263 人 (10.0%) | 0 人 (0%) |
| (備考) ・中途退学者数には、除籍者を含む。 ・各学部の転部人数は、以下の通り。 工学部 転入：1 名 転出： 5 名、 経営情報学部 転入：1 名 転出：0 名 国際関係学部 転入：2 名 転出： 0 名、 人文学部 転入：9 名 転出：2 名 応用生物学部 転入：2 名 転出： 5 名、 生命健康科学部 転入：0 名 転出：2 名 現代教育学部 転入：1 名 転出： 2 名 | | | | | |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目担当者には、大学で定めたシラバス作成要領（刊行物）を配付し、この要領に基づいたシラバスの作成を依頼している。</p> <p>シラバスの作成は、本学の Web システムを使用して、教員が各自入力する。</p> <p>また、各担当者がシラバスを作成した後、各学部・学科において、第三者の教員によるシラバス内容の点検を実施している。要領で定めた内容と齟齬があった場合は、点検者からの指摘に応じて担当教員が修正を行っている。</p> <p>第三者による点検実施および担当教員による内容の修正完了後、新年度オリエンテーション実施日の1週間～10日前を目処にシラバスを公表している。</p> <p>(新年度オリエンテーション：3月下旬)</p> |
|---|

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 各教員には、シラバス作成要領において、シラバスの“成績の評価方法”の項目に、どのような観点・方法により評価するかを示し、またその評価方法が全体(100%)に占める割合を明示している。
 (例：レポート等の提出物：50%、期末試験：50%など)
 また、シラバスの“成績の評価基準”の項目に、評価方法で示した観点・方法で測定した学修成果に対して、どのような基準で成績をつけるのかを明示している。
 また、シラバスの第三者点検を行い、シラバスに記載された評価方法が適正であるか学部・学科において確認している。

卒業の要件は本学学則(第18条)において定められている。
 また、各学部・学科において、「卒業の認定に関する方針」を定めている。
 卒業の判定は、学生の成績を事務(教務支援課)において集計し、卒業判定資料を作成した後、学部の教授会で「卒業の認定に関する方針」に基づいて卒業の認定可否が審議され、その審議結果に基づいて学長が決定している。

| 学部名 | 学科名 | 卒業又は修了に必要な となる単位数 | GPA制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
|--------|-------------|----------------------|----------------------|---|
| 工学部 | 機械工学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 都市建設工学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 建築学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 応用化学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 情報工学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | ロボット理工学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 電気電子システム工学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 宇宙航空理工学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| 経営情報学部 | 経営総合学科 | 124 単位 | 有 | 1 期 22 単位 2 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| 国際関係学部 | 国際学科 | 124 単位 | 有 | 1 期 20 単位 2 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| 人文学部 | 日本語日本文化学科 | 124 単位 | 有 | 1 期 20 単位 2 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 英語英米文化学科 | 124 単位 | 有 | 1 期 20 単位 2 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | コミュニケーション学科 | 124 単位 | 有 | 1 期 20 単位 2 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 心理学科 | 124 単位 | 有 | 1 期 20 単位 2 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 歴史地理学科 | 124 単位 | 有 | 1 期 20 単位 2 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | メディア情報社会学科 | 124 単位 | 有 | 1 期 20 単位 2 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |

| | | | | |
|---------------------|----------------------|--------|---|--|
| 応用生物学部 | 応用生物化学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 環境生物科学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| 生命健康科学部 | 生命医科学科 | 128 単位 | 有 | 1 期 23 単位 2 期 26 単位 3 期 25 単位 4 期 24 単位 5 期 25 単位 6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 保健看護学科 | 124 単位 | 有 | 1 期 24 単位 2 期 25 単位 3 期 24 単位 4 期～5 期 25 単位 6 期～7 期 24 単位 8 期 25 単位 |
| | 理学療法学科 | 128 単位 | 有 | 1 期 24 単位 2 期 25 単位 3 期 24 単位 4 期～5 期 25 単位 6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 作業療法学科 | 128 単位 | 有 | 1 期 23 単位 2 期 26 単位 3 期 23 単位 4 期 26 単位 5 期 23 単位 6 期 26 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 臨床工学科 | 128 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | スポーツ保健医療学科 | 128 単位 | 有 | 1 期 25 単位 2 期 24 単位 3 期 25 単位 4 期 24 単位 5 期 25 単位 6 期 24 単位 7 期 25 単位 8 期 24 単位 |
| 現代教育学部 | 幼児教育学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 現代教育学科 現代教育学専攻 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 現代教育学科 中等教育国語数学専攻 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| 理工学部 | 数理・物理 サイエンス学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | AI ロボティクス学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| | 宇宙航空学科 | 124 単位 | 有 | 1 期～6 期 24 単位 7 期～8 期 20 単位 |
| G P A の活用状況（任意記載事項） | | 公表方法： | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 | | 公表方法： | | |

| | |
|----------|--|
| (任意記載事項) | |
|----------|--|

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www3.chubu.ac.jp/student_life/facilities/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|------------|---|--|-------------------|---|--|
| 工学部 | 機械工学科 都市建設工学科 建築学科 応用化学科 情報工学科 ※ロボット理工学科 電気電子システム工学科 ※宇宙航空理工学科 | 1 年次 930,000 円 2 年次 940,000 円 3 年次 950,000 円 4 年次 960,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 410,000 円 2 年次 420,000 円 3 年次 430,000 円 4 年次 440,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費 ※は 2023 年度入学 より募集停止 |
| 経営情報 学部 | 経営総合学科 | 1 年次 730,000 円 2 年次 740,000 円 3 年次 750,000 円 4 年次 760,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 370,000 円 2 年次 380,000 円 3 年次 390,000 円 4 年次 400,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費 |
| 国際関係 学部 | 国際学科 | 1 年次 770,000 円 2 年次 780,000 円 3 年次 790,000 円 4 年次 800,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 370,000 円 2 年次 380,000 円 3 年次 390,000 円 4 年次 400,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費 |
| 人文学部 | 日本語日本文化学科 英語英米文化学科 ※1 コミュニケーション学科 ※2 メディア情報社会学科 心理学科 歴史地理学科 | 1 年次 770,000 円 2 年次 780,000 円 3 年次 790,000 円 4 年次 800,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 370,000 円 2 年次 380,000 円 3 年次 390,000 円 4 年次 400,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費 ※1 は 2024 年度 入学より募集停止 ※2 は 2024 年度 に設置 |
| 応用生物 学部 | 応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻 | 1 年次 930,000 円 2 年次 940,000 円 3 年次 950,000 円 4 年次 960,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 410,000 円 2 年次 420,000 円 3 年次 430,000 円 4 年次 440,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費 |
| | 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻 | 1 年次 930,000 円 2 年次 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 410,000 円 2 年次 420,000 円 3 年次 490,000 円 | 施設設備費・教育 充実費・修学諸費 |

| | | | | | |
|-------------|------------|--|-------------------|---|--------------------------|
| | | 940,000 円 3 年次 950,000 円 4 年次 960,000 円 | | 4 年次 440,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | |
| 生命健康 科学部 | 生命医科学科 | 1 年次 990,000 円 2 年次 1,000,000 円 3 年次 1,010,000 円 4 年次 1,020,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 580,000 円 2 年次 710,000 円 3 年次 720,000 円 4 年次 730,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費・ 修学諸費 |
| | 保健看護学科 | 1 年次 960,000 円 2 年次 970,000 円 3 年次 980,000 円 4 年次 990,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 460,000 円 2 年次 590,000 円 3 年次 600,000 円 4 年次 610,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費・ 修学諸費 |
| | 理学療法学科 | 1 年次 960,000 円 2 年次 970,000 円 3 年次 980,000 円 4 年次 990,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 460,000 円 2 年次 540,000 円 3 年次 550,000 円 4 年次 610,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費・ 修学諸費 |
| | 作業療法学科 | 1 年次 960,000 円 2 年次 970,000 円 3 年次 980,000 円 4 年次 990,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 460,000 円 2 年次 540,000 円 3 年次 550,000 円 4 年次 610,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費・ 修学諸費 |
| | 臨床工学科 | 1 年次 930,000 円 2 年次 940,000 円 3 年次 950,000 円 4 年次 960,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 440,000 円 2 年次 520,000 円 3 年次 530,000 円 4 年次 590,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費・ 修学諸費 |
| | スポーツ保健医療学科 | 1 年次 880,000 円 2 年次 890,000 円 3 年次 900,000 円 4 年次 910,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 410,000 円 2 年次 520,000 円 3 年次 530,000 円 4 年次 540,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費・ 修学諸費 |

| | | | | | |
|------------|--|--|-------------------|---|--------------------------------|
| 現代教育 学部 | 幼児教育学科 現代教育学科 現代教育専攻 中等教育国語数学専攻 | 1 年次 720,000 円 2 年次 730,000 円 3 年次 740,000 円 4 年次 750,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 370,000 円 2 年次 420,000 円 3 年次 430,000 円 4 年次 440,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費・ 修学諸費 |
| 理工学部 | 数理・物理サイエンス学科 AI ロボティクス学科 宇宙航空学科 | 1 年次 930,000 円 2 年次 940,000 円 3 年次 950,000 円 4 年次 960,000 円 | 1 年次 280,000 円 | 1 年次 410,000 円 2 年次 420,000 円 3 年次 430,000 円 4 年次 440,000 円 休学時在籍料 半期 30,000 円 | 施設設備費・教育 充実費 (2023 年度設置) |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|---|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組 |
| <p>(概要)</p> <p>多様な価値観をもった学生一人ひとりが自ら学び成長することを意識し、充実した学生生活を送るために学修に専念できる環境を整備している。例えば、学生サポートセンター、学習支援室、図書館や総合情報センターなどを多角的・自発的な学習の「場」として提供するとともに学内 ICT 環境を整え学生の修学を支援している。また、指導教授制を設けることにより、多様な学生・障がいのある学生への修学支援、成績不振の学生、留年者および休学・退学希望者などの状況を把握し、早期ケアを含めた具体的な対応や対策を講じている。</p> |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組 |
| <p>(概要)</p> <p>入学後から卒業まで教職員一体となって学生の進路支援を行っている。具体的な支援体制として、各学科のキャリア開発担当教員を構成員とするキャリア委員会を設置し、当委員会でのキャリア支援、就職支援プログラムについての審議を経て、キャリア支援課が各種行事を実施している。また、キャリア委員会のもとに理系・文系・資格系各分科会を設置し、年間を通して実施している就職支援に関する取り組みや課題について、各分科会にて情報共有、検討を行い、教職協働で各学部学科の教育の特色に応じたキャリア支援を行っている。</p> <p>正課外では、1 年次から受講できる各種資格取得講座の開設、2 年次秋学期から 3 年次にかけて、OB・OG との交流会、業界・企業研究会、履歴書作成講座、面接対策講座などを内容とした全 11 回にわたる就職ガイダンスと、筆記試験対策講座を全 8 回開催し、同時に個別相談を随時実施している。4 年次には学内企業説明会を実施するとともに、個別相談、面接練習、求人紹介等を随時行い、学年に応じて段階的に支援を行っている。また、必要に応じて学科の教員、学生相談室と連携するなど、個々の学生の状況に合わせた支援を行っている。</p> <p>正課では、3 年次教育課目にインターンシップ（就業体験）に参加するためのビジネスマナーや社会人として求められる基礎知識・スキルの修得を目的とした「インターンシップ A」（集中事前指導）、実際に企業・官公庁での就業体験に参加する「インターンシップ B / C」（夏期集中）を配置し、ガイダンス、申込受付、マッチングから報告会開催までをキャリア支援課が対応している。</p> <p>C-NET(中部大学進路支援システム)への登録により、学生は様々な支援行事への申込、開催スケジュールの確認、求人情報の検索・閲覧を行うことができ、卒業生の就職先企業情報や活動体験記の閲覧機能も活用することができる。</p> |

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

健康管理・増進に関する業務を総括し、健康増進に寄与することを目的として、健康増進センターが設置されており、健康管理を行う「診療所」「保健管理室」と、睡眠の相談に応える「睡眠相談室」で構成されている。健康に関する様々な悩みには、一般健康相談、心の健康相談、高血圧・循環器病相談も行っている。

診療所に常駐している医師の指示のもと、怪我や体調不良者には保健管理室の看護師が応急救治や医療機関への搬送等を行い、健康診断有所見者には心電図、血圧測定、尿検査等の再検査を行うことで、異常を早期発見し、早期治療につなげる体制を構築している。

多様な学生の個別ニーズに応じた心理的成長に寄与することを目的として、学生相談室が設置されており、臨床心理士・公認心理師資格を有する室員により相談構造が構築され、学内外の関連部署・機関と連携して支援を行っている。個別面接を基軸にしつつ、新入生対象アンケートの実施と呼び出し面接、1年生対象の適応支援授業、心理教育グループ、ピアサポートを行っている。教職員に向けた活動として、学生支援をめぐる個別のコンサルテーション、「学生支援ハンドブック」の発行、FDSDを実施し、学生の家族からの相談にも応じている。学生の援助要請行動を促進するために学生相談の周知を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組みについて

本学では、2022 年 4 月に AI×数学×データサイエンスを基礎から学ぶ“教育プログラム”のリテラシーレベルを設置している。

2023 年 4 月には、一段高い教育レベルの応用基礎レベルを設置し、文系・理系問わず全ての学生を対象とした教育プログラムとして、多くの学生が受講している。

また、両プログラム共に文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の認定基準に基づき設計されており、リテラシーレベルは 2023 年度に認定を受け、応用基礎レベルは 2024 年 9 月の認定を目指して申請をしている。

◆参考 URL

中部大学 AI 数理データサイエンスプログラム概要

https://www.cmsai.jp/education_program/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|------------------|---------------|
| 学校コード（13桁） | F123310106817 |
| 学校名（〇〇大学 等） | 中部大学 |
| 設置者名（学校法人〇〇学園 等） | 学校法人中部大学 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|-----------------------------|------|------|------|------|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 795人 | 769人 | 840人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 430人 | 423人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 235人 | 232人 | |
| | 第Ⅲ区分 | 130人 | 114人 | |
| | 第Ⅳ区分 | 0人 | 0人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | - 人 |
| 合計（年間） | | | | 846人 |
| （備考） 年間を通して対象外となった学生：74名 | | | | |

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 18人 | 人 | 人 |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下） | - 人 | 人 | 人 |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | - 人 | 人 | 人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 | - 人 | 人 | 人 |
| 計 | 21人 | 人 | 人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | | |
|---------|-----|---|---|-----|---|
| 年間 | - 人 | 前半期 | 人 | 後半期 | 人 |

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 0人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |
| | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|--|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下） | - 人 | 人 | 人 |
| G P A等が下位4分の1 | 95人 | 人 | 人 |
| 出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況 | 0人 | 人 | 人 |
| 計 | 95人 | 人 | 人 |
| (備考) | | | |
| | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。